

0001

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『設備管理における信頼度の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「所定の条件・期間において、設備が要求された機能を故障せず果たす確率として扱う。」と判断した。

B：『二つの装置A・Bの両方が正常でなければサービスできない直列構成で、各装置の信頼度が0.99と0.98である。独立故障と仮定した全体信頼度は約いくらか。』に対し、「0.99（高い方の装置信頼度だけを採用）」と判断した。

A：A（信頼度の意味を説明できる）・B（直列系の信頼度を判断できる）はいずれも適切である。

イ：B（直列系の信頼度を判断できる）だけが適切で、A（信頼度の意味を説明できる）は誤っている。

ウ：A（信頼度の意味を説明できる）だけが適切で、B（直列系の信頼度を判断できる）は誤っている。

エ：A（信頼度の意味を説明できる）・B（直列系の信頼度を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（信頼度の意味を説明できる）だけが適切で、B（直列系の信頼度を判断できる）は誤っている。」。A：信頼度は一定条件下で要求機能を維持する確率的な指標である。B：両方が必要なので全体はそれより低くなる。

イ：不適切。正しい評価は「A（信頼度の意味を説明できる）だけが適切で、B（直列系の信頼度を判断できる）は誤っている。」。A：信頼度は一定条件下で要求機能を維持する確率的な指標である。B：両方が必要なので全体はそれより低くなる。

ウ：適切。Aは正しい（信頼度は一定条件下で要求機能を維持する確率的な指標である。）。Bは誤り（両方が必要なので全体はそれより低くなる。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（信頼度の意味を説明できる）だけが適切で、B（直列系の信頼度を判断できる）は誤っている。」。A：信頼度は一定条件下で要求機能を維持する確率的な指標である。B：両方が必要なので全体はそれより低くなる。

総合解説：Aの確認ポイント：信頼度は設備の故障発生特性を評価する基本指標であり、可用性や保全性とは区別して考える。Bの確認ポイント：独立な直列系では、構成要素が増えるほど全体信頼度は低下する方向となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0002

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『MTBFの説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「故障後に復旧するまでの平均時間を表す。」と判断した。

B：『同一機能の装置を2台並列冗長とし、どちらか1台が正常ならサービス継続できる場合の特徴として、最も適切なものはどれか。』に対し、「独立故障を仮定すれば、単一装置よりサービス継続確率を高められる。」と判断した。

A：A（MTBFの意味を説明できる）・B（並列冗長の効果を判断できる）はいずれも適切である。

イ：B（並列冗長の効果を判断できる）だけが適切で、A（MTBFの意味を説明できる）は誤っている。

ウ：A（MTBFの意味を説明できる）だけが適切で、B（並列冗長の効果を判断できる）は誤っている。

エ：A（MTBFの意味を説明できる）・B（並列冗長の効果を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（並列冗長の効果を判断できる）だけが適切で、A（MTBFの意味を説明できる）は誤っている。」。A：それはMTTRに関係する。B：並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。

イ：適切。Aは誤り（それはMTTRに関係する。）。Bは正しい（並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（並列冗長の効果を判断できる）だけが適切で、A（MTBFの意味を説明できる）は誤っている。」。A：それはMTTRに関係する。B：並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。

エ：不適切。正しい評価は「B（並列冗長の効果を判断できる）だけが適切で、A（MTBFの意味を説明できる）は誤っている。」。A：それはMTTRに関係する。B：並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。

総合解説：Aの確認ポイント：MTBFが大きい設備ほど、同一条件では故障発生間隔が長い傾向にある。Bの確認ポイント：冗長化の効果は独立性、切替成功率、共通原因故障の有無で大きく変わる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0003 設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『MTTRの説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通信品質の平均値だけを表す。」と判断した。

B：『可用性99.9%の設備について、1年を8760時間とすると単純計算上の年間停止時間は約何時間か。』に対し、「約876時間（稼働率と停止率を取り違えて年間停止を過大評価）」と判断した。

ア．A（MTTRの意味を説明できる）・B（停止率を可用性から判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（MTTRの意味を説明できる）だけが適切で、B（停止率を可用性から判断できる）は誤っている。

ウ．B（停止率を可用性から判断できる）だけが適切で、A（MTTRの意味を説明できる）は誤っている。

エ．A（MTTRの意味を説明できる）・B（停止率を可用性から判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（MTTRの意味を説明できる）・B（停止率を可用性から判断できる）はいずれも誤っている。」。A：保全・復旧時間の指標である。B：可用性99.9%の設備で年間の10%を停止時間とするのは不適切である。

イ：不適切。正しい評価は「A（MTTRの意味を説明できる）・B（停止率を可用性から判断できる）はいずれも誤っている。」。A：保全・復旧時間の指標である。B：可用性99.9%の設備で年間の10%を停止時間とするのは不適切である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（MTTRの意味を説明できる）・B（停止率を可用性から判断できる）はいずれも誤っている。」。A：保全・復旧時間の指標である。B：可用性99.9%の設備で年間の10%を停止時間とするのは不適切である。

エ：適切。Aは誤り（保全・復旧時間の指標である。）。Bは誤り（可用性99.9%の設備で年間の10%を停止時間とするのは不適切である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：MTTRを短縮すると、同じMTBFでも可用性を改善できる。Bの確認ポイント：高可用性設備では小さな百分率差でも年間停止時間へ大きく影響する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0004 設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『設備の可用性について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「必要な時点で設備が使用可能な状態にある度合いを表し、故障頻度と復旧時間の双方に影響される。」と判断した。

B：『同一設備群の総稼働時間が20万時間、故障が100件であった。単純な故障間平均時間の推定として最も近いものはどれか。』に対し、「2000時間（総稼働時間÷故障件数）」と判断した。

ア．A（可用性の意味を説明できる）だけが適切で、B（故障データからMTBFを判断でき...）は誤っている。

イ．B（故障データからMTBFを判断でき...）だけが適切で、A（可用性の意味を説明できる）は誤っている。

ウ．A（可用性の意味を説明できる）・B（故障データからMTBFを判断でき...）はいずれも適切である。

エ．A（可用性の意味を説明できる）・B（故障データからMTBFを判断でき...）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（可用性の意味を説明できる）・B（故障データからMTBFを判断でき...）はいずれも適切である。」。A：可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。B：20万時間÷100件=2000時間である。

イ：不適切。正しい評価は「A（可用性の意味を説明できる）・B（故障データからMTBFを判断でき...）はいずれも適切である。」。A：可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。B：20万時間÷100件=2000時間である。

ウ：適切。Aは正しい（可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。）。Bは正しい（20万時間÷100件=2000時間である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（可用性の意味を説明できる）・B（故障データからMTBFを判断でき...）はいずれも適切である。」。A：可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。B：20万時間÷100件=2000時間である。

総合解説：Aの確認ポイント：高可用性化ではMTBF向上とMTTR短縮の両方が有効である。Bの確認ポイント：実績MTBFは対象母集団、観測期間、故障定義を統一して評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0005

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『MTBFが990時間、MTTRが10時間の修理可能設備を、 $A=MTBF/(MTBF+MTTR)$ で近似する。定常可用性は約いくらか。』に対し、「0.99（ $990 \div 1000$ で算出）」と判断した。

B：『二重化した装置が同一電源盤・同一空調・同一室内に設置されている。高可用性設計として最も適切な評価はどれか。』に対し、「冗長化では設備配置を考える必要がない。」と判断した。

ア．A（簡易可用性を計算できる）だけが適切で、B（共通原因故障を総合判断できる）は誤っている。

イ．A（簡易可用性を計算できる）・B（共通原因故障を総合判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（共通原因故障を総合判断できる）だけが適切で、A（簡易可用性を計算できる）は誤っている。

エ．A（簡易可用性を計算できる）・B（共通原因故障を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（ $990/(990+10)=0.99$ となる。）。Bは誤り（物理独立性が重要である。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（簡易可用性を計算できる）だけが適切で、B（共通原因故障を総合判断できる）は誤っている。」。A： $990/(990+10)=0.99$ となる。B：物理独立性が重要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（簡易可用性を計算できる）だけが適切で、B（共通原因故障を総合判断できる）は誤っている。」。A： $990/(990+10)=0.99$ となる。B：物理独立性が重要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（簡易可用性を計算できる）だけが適切で、B（共通原因故障を総合判断できる）は誤っている。」。A： $990/(990+10)=0.99$ となる。B：物理独立性が重要である。

総合解説：Aの確認ポイント：簡易モデルでは、可用性は $MTBF/(MTBF+MTTR)$ で評価できる。Bの確認ポイント：冗長系では装置だけでなく電源・経路・局舎・保守作業などの共通原因を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0006

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『MTBFが変わらない設備でMTTRだけを短縮した場合、一般にどのような効果が期待できるか。』に対し、「設備容量が必ず2倍になる。」と判断した。

B：『設備の年間停止時間を大きく削減したい。最も適切な改善方針はどれか。』に対し、「故障原因除去でMTBFを伸ばす施策と、予備品・手順・切替自動化でMTTRを短縮する施策を組み合わせる。」と判断した。

ア．A（MTTR短縮の効果を判断できる）・B（信頼性改善策を総合選択できる）はいずれも適切である。

イ．A（MTTR短縮の効果を判断できる）だけが適切で、B（信頼性改善策を総合選択できる）は誤っている。

ウ．A（MTTR短縮の効果を判断できる）・B（信頼性改善策を総合選択できる）はいずれも誤っている。

エ．B（信頼性改善策を総合選択できる）だけが適切で、A（MTTR短縮の効果を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（信頼性改善策を総合選択できる）だけが適切で、A（MTTR短縮の効果を判断できる）は誤っている。」。A：容量とは別である。B：故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。

イ：不適切。正しい評価は「B（信頼性改善策を総合選択できる）だけが適切で、A（MTTR短縮の効果を判断できる）は誤っている。」。A：容量とは別である。B：故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。

ウ：不適切。正しい評価は「B（信頼性改善策を総合選択できる）だけが適切で、A（MTTR短縮の効果を判断できる）は誤っている。」。A：容量とは別である。B：故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。

エ：適切。Aは誤り（容量とは別である。）。Bは正しい（故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：予備品、標準手順、遠隔切替、保守員配置などはMTTR短縮に寄与し得る。Bの確認ポイント：設備管理では故障予防、早期検知、切替、修理、再発防止を連携させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0007 設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『二つの装置A・Bの両方が正常でなければサービスできない直列構成で、各装置の信頼度が0.99と0.98である。独立故障と仮定した全体信頼度は約いくらか。』に対し、「1.97（各信頼度を単純加算）」と判断した。

B：『設備管理における信頼度の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「設備の購入価格だけを表す指標である。」と判断した。

A：A（直列系の信頼度を判断できる）・B（信頼度の意味を説明できる）はいずれも適切である。

イ：A（直列系の信頼度を判断できる）だけが適切で、B（信頼度の意味を説明できる）は誤っている。

ウ：A（直列系の信頼度を判断できる）・B（信頼度の意味を説明できる）はいずれも誤っている。

エ：B（信頼度の意味を説明できる）だけが適切で、A（直列系の信頼度を判断できる）は誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（直列系の信頼度を判断できる）・B（信頼度の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：確率を単純加算しない。B：価格ではなく故障しにくさに関する指標である。

イ：不適切。正しい評価は「A（直列系の信頼度を判断できる）・B（信頼度の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：確率を単純加算しない。B：価格ではなく故障しにくさに関する指標である。

ウ：適切。Aは誤り（確率を単純加算しない。）。Bは誤り（価格ではなく故障しにくさに関する指標である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（直列系の信頼度を判断できる）・B（信頼度の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：確率を単純加算しない。B：価格ではなく故障しにくさに関する指標である。

総合解説：Aの確認ポイント：独立な直列系では、構成要素が増えるほど全体信頼度は低下する方向となる。Bの確認ポイント：信頼度は設備の故障発生特性を評価する基本指標であり、可用性や保全性とは区別して考える。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0008 設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『同一機能の装置を2台並列冗長とし、どちらか1台が正常ならサービス継続できる場合の特徴として、最も適切なものはどれか。』に対し、「独立故障を仮定すれば、単一装置よりサービス継続確率を高められる。」と判断した。

B：『MTBFの説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「修理可能な設備で、故障から次の故障までの平均的な稼働時間を表す。」と判断した。

A：A（並列冗長の効果を判断できる）だけが適切で、B（MTBFの意味を説明できる）は誤っている。

イ：B（MTBFの意味を説明できる）だけが適切で、A（並列冗長の効果を判断できる）は誤っている。

ウ：A（並列冗長の効果を判断できる）・B（MTBFの意味を説明できる）はいずれも適切である。

エ：A（並列冗長の効果を判断できる）・B（MTBFの意味を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（並列冗長の効果を判断できる）・B（MTBFの意味を説明できる）はいずれも適切である。」。A：並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。B：MTBFはMean Time Between Failuresの略で、故障間の平均稼働時間を表す。

イ：不適切。正しい評価は「A（並列冗長の効果を判断できる）・B（MTBFの意味を説明できる）はいずれも適切である。」。A：並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。B：MTBFはMean Time Between Failuresの略で、故障間の平均稼働時間を表す。

ウ：適切。Aは正しい（並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。）。Bは正しい（MTBFはMean Time Between Failuresの略で、故障間の平均稼働時間を表す。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（並列冗長の効果を判断できる）・B（MTBFの意味を説明できる）はいずれも適切である。」。A：並列冗長は一方故障時も他方で機能を維持できる。B：MTBFはMean Time Between Failuresの略で、故障間の平均稼働時間を表す。

総合解説：Aの確認ポイント：冗長化の効果は独立性、切替成功率、共通原因故障の有無で大きく変わる。Bの確認ポイント：MTBFが大きい設備ほど、同一条件では故障発生間隔が長い傾向にある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0009

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『可用性99.9%の設備について、1年を8760時間とすると単純計算上の年間停止時間は約何時間か。』に対し、「約8.76時間（可用性99.9%から停止率0.1%を求めて年間時間へ適用）」と判断した。

B：『MTTRの説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「設備の購入から廃棄までの期間を表す。」と判断した。

ア．A（停止率を可用性から判断できる）・B（MTTRの意味を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（停止率を可用性から判断できる）だけが適切で、B（MTTRの意味を説明できる）は誤っている。

ウ．B（MTTRの意味を説明できる）だけが適切で、A（停止率を可用性から判断できる）は誤っている。

エ．A（停止率を可用性から判断できる）・B（MTTRの意味を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（停止率を可用性から判断できる）だけが適切で、B（MTTRの意味を説明できる）は誤っている。」。A：停止率は $0.1\% = 0.001$ なので、 $8760 \times 0.001 = 8.76$ 時間である。B：ライフサイクル期間とは異なる。

イ：適切。Aは正しい（停止率は $0.1\% = 0.001$ なので、 $8760 \times 0.001 = 8.76$ 時間である。）。Bは誤り（ライフサイクル期間とは異なる。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（停止率を可用性から判断できる）だけが適切で、B（MTTRの意味を説明できる）は誤っている。」。A：停止率は $0.1\% = 0.001$ なので、 $8760 \times 0.001 = 8.76$ 時間である。B：ライフサイクル期間とは異なる。

エ：不適切。正しい評価は「A（停止率を可用性から判断できる）だけが適切で、B（MTTRの意味を説明できる）は誤っている。」。A：停止率は $0.1\% = 0.001$ なので、 $8760 \times 0.001 = 8.76$ 時間である。B：ライフサイクル期間とは異なる。

総合解説：Aの確認ポイント：高可用性設備では小さな百分率差でも年間停止時間へ大きく影響する。Bの確認ポイント：MTTRを短縮すると、同じMTBFでも可用性を改善できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0010

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『同一設備群の総稼働時間が20万時間、故障が100件であった。単純な故障間平均時間の推定として最も近いものはどれか。』に対し、「100時間（故障件数を稼働時間で割る）」と判断した。

B：『設備の可用性について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「必要な時点で設備が使用可能な状態にある度合いを表し、故障頻度と復旧時間の双方に影響される。」と判断した。

ア．A（故障データからMTBFを判断でき...）・B（可用性の意味を説明できる）はいずれも適切である。

イ．B（可用性の意味を説明できる）だけが適切で、A（故障データからMTBFを判断でき...）は誤っている。

ウ．A（故障データからMTBFを判断でき...）だけが適切で、B（可用性の意味を説明できる）は誤っている。

エ．A（故障データからMTBFを判断でき...）・B（可用性の意味を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（可用性の意味を説明できる）だけが適切で、A（故障データからMTBFを判断でき...）は誤っている。」。A：MTBFは総稼働時間を故障件数で割る。B：可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。

イ：適切。Aは誤り（MTBFは総稼働時間を故障件数で割る。）。Bは正しい（可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（可用性の意味を説明できる）だけが適切で、A（故障データからMTBFを判断でき...）は誤っている。」。A：MTBFは総稼働時間を故障件数で割る。B：可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。

エ：不適切。正しい評価は「B（可用性の意味を説明できる）だけが適切で、A（故障データからMTBFを判断でき...）は誤っている。」。A：MTBFは総稼働時間を故障件数で割る。B：可用性は故障しにくさだけでなく、故障後の復旧の速さにも依存する。

総合解説：Aの確認ポイント：実績MTBFは対象母集団、観測期間、故障定義を統一して評価する。Bの確認ポイント：高可用性化ではMTBF向上とMTTR短縮の両方が有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0011

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『二重化した装置が同一電源盤・同一空調・同一室内に設置されている。高可用性設計として最も適切な評価はどれか。』に対し、「装置が2台あれば共通故障は絶対に起こらない。」と判断した。

B：『MTBFが990時間、MTTRが10時間の修理可能設備を、 $A=MTBF/(MTBF+MTTR)$ で近似する。定常可用性は約いくらか。』に対し、「0.01（MTTRを総サイクル時間で割った値）」と判断した。

ア．A（共通原因故障を総合判断できる）・B（簡易可用性を計算できる）はいずれも誤っている。

イ．A（共通原因故障を総合判断できる）・B（簡易可用性を計算できる）はいずれも適切である。

ウ．A（共通原因故障を総合判断できる）だけが適切で、B（簡易可用性を計算できる）は誤っている。

エ．B（簡易可用性を計算できる）だけが適切で、A（共通原因故障を総合判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（共通電源等で同時停止し得る。）。Bは誤り（これは停止率に相当する側の比率である。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（共通原因故障を総合判断できる）・B（簡易可用性を計算できる）はいずれも誤っている。」。A：共通電源等で同時停止し得る。B：これは停止率に相当する側の比率である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（共通原因故障を総合判断できる）・B（簡易可用性を計算できる）はいずれも誤っている。」。A：共通電源等で同時停止し得る。B：これは停止率に相当する側の比率である。

エ：不適切。正しい評価は「A（共通原因故障を総合判断できる）・B（簡易可用性を計算できる）はいずれも誤っている。」。A：共通電源等で同時停止し得る。B：これは停止率に相当する側の比率である。

総合解説：Aの確認ポイント：冗長系では装置だけでなく電源・経路・局舎・保守作業などの共通原因を評価する。Bの確認ポイント：簡易モデルでは、可用性は $MTBF/(MTBF+MTTR)$ で評価できる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0012

設備管理・信頼性 > 信頼度・可用性・MTBF・MTTR | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『設備の年間停止時間を大きく削減したい。最も適切な改善方針はどれか。』に対し、「故障原因除去でMTBFを伸ばす施策と、予備品・手順・切替自動化でMTTRを短縮する施策を組み合わせる。」と判断した。

B：『MTBFが変わらない設備でMTTRだけを短縮した場合、一般にどのような効果が期待できるか。』に対し、「故障1回当たりの停止時間が短くなり、可用性が向上する。」と判断した。

ア．A（信頼性改善策を総合選択できる）・B（MTTR短縮の効果を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（信頼性改善策を総合選択できる）だけが適切で、B（MTTR短縮の効果を判断できる）は誤っている。

ウ．B（MTTR短縮の効果を判断できる）だけが適切で、A（信頼性改善策を総合選択できる）は誤っている。

エ．A（信頼性改善策を総合選択できる）・B（MTTR短縮の効果を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。）。Bは正しい（復旧時間短縮は停止時間を減らす。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（信頼性改善策を総合選択できる）・B（MTTR短縮の効果を判断できる）はいずれも適切である。」。A：故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。B：復旧時間短縮は停止時間を減らす。

ウ：不適切。正しい評価は「A（信頼性改善策を総合選択できる）・B（MTTR短縮の効果を判断できる）はいずれも適切である。」。A：故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。B：復旧時間短縮は停止時間を減らす。

エ：不適切。正しい評価は「A（信頼性改善策を総合選択できる）・B（MTTR短縮の効果を判断できる）はいずれも適切である。」。A：故障しにくさと復旧しやすさの両面から可用性を改善する。B：復旧時間短縮は停止時間を減らす。

総合解説：Aの確認ポイント：設備管理では故障予防、早期検知、切替、修理、再発防止を連携させる。Bの確認ポイント：予備品、標準手順、遠隔切替、保守員配置などはMTTR短縮に寄与し得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0013

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『通信サービスのQoSを評価する考え方として、最も適切なものはどれか。』に対し、「利用目的に応じて遅延、損失、誤り、可用性など複数の品質特性を評価する。」と判断した。

B：『通信品質のSLAを管理する方法として、最も適切なものはどれか。』に対し、「障害時だけ異なる測定条件へ変更する。」と判断した。

ア．A（QoSの基本を説明できる）・B（品質SLAの監視方法を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、B（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。

ウ．B（品質SLAの監視方法を判断できる）だけが適切で、A（QoSの基本を説明できる）は誤っている。

エ．A（QoSの基本を説明できる）・B（品質SLAの監視方法を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、B（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。」。A：通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。B：比較可能性が失われる。

イ：適切。Aは正しい（通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。）。Bは誤り（比較可能性が失われる。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、B（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。」。A：通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。B：比較可能性が失われる。

エ：不適切。正しい評価は「A（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、B（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。」。A：通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。B：比較可能性が失われる。

総合解説：Aの確認ポイント：ITU-T E.800はQoSに関する用語・概念を整理している。Bの確認ポイント：通信品質評価では指標の定義だけでなく、観測条件と集計方法の一貫性が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0014

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『通信品質における遅延の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「受信信号の電力だけを表す。」と判断した。

B：『日中は問題ないが夕方だけ遅延が急増するネットワークを評価する。最も適切な方法はどれか。』に対し、「日平均だけでなく時間帯別の遅延・利用率・損失を確認し、ピーク時の品質を評価する。」と判断した。

ア．B（平均値とピーク値を使い分けられる）だけが適切で、A（遅延の意味を説明できる）は誤っている。

イ．A（遅延の意味を説明できる）・B（平均値とピーク値を使い分けられる）はいずれも適切である。

ウ．A（遅延の意味を説明できる）だけが適切で、B（平均値とピーク値を使い分けられる）は誤っている。

エ．A（遅延の意味を説明できる）・B（平均値とピーク値を使い分けられる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（時間特性の指標である。）。Bは正しい（平均値だけでは短時間の輻輳を見落とすことがある。）。

イ：不適切。正しい評価は「B（平均値とピーク値を使い分けられる）だけが適切で、A（遅延の意味を説明できる）は誤っている。」。A：時間特性の指標である。B：平均値だけでは短時間の輻輳を見落とすことがある。

ウ：不適切。正しい評価は「B（平均値とピーク値を使い分けられる）だけが適切で、A（遅延の意味を説明できる）は誤っている。」。A：時間特性の指標である。B：平均値だけでは短時間の輻輳を見落とすことがある。

エ：不適切。正しい評価は「B（平均値とピーク値を使い分けられる）だけが適切で、A（遅延の意味を説明できる）は誤っている。」。A：時間特性の指標である。B：平均値だけでは短時間の輻輳を見落とすことがある。

総合解説：Aの確認ポイント：遅延には伝搬、伝送、処理、待ち時間などが含まれ得る。Bの確認ポイント：品質管理では平均・最大・分位点・時間帯別推移など目的に応じた統計を使う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0015

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『IP通信でパケット損失率が高くなった場合の影響として、最も適切なものはどれか。』に対し、「パケット損失は伝送品質と無関係である。」と判断した。

B：『利用者から『通信が遅い』との申告が増えた。最も適切な初期分析はどれか。』に対し、「最初にMTBFだけを確認し、通信品質は測定しない。」と判断した。

A．A（パケット損失の影響を説明できる）・B（品質劣化の切り分けを判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（パケット損失の影響を説明できる）だけが適切で、B（品質劣化の切り分けを判断できる）は誤っている。

ウ．B（品質劣化の切り分けを判断できる）だけが適切で、A（パケット損失の影響を説明できる）は誤っている。

エ．A（パケット損失の影響を説明できる）・B（品質劣化の切り分けを判断できる）はいずれも誤っている。

0016

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『リアルタイム音声通信でパケット到着間隔のばらつきが大きくなっている。この現象を表す指標として最も適切なものはどれか。』に対し、「遅延変動（ジッタ）である。」と判断した。

B：『法人向け重要回線の品質ダッシュボードを設計する。最も適切な指標構成はどれか。』に対し、「可用性、遅延、損失、ジッタ、帯域利用率、重大障害件数などをサービス要件に合わせて組み合わせる。」と判断した。

A．A（ジッタの影響を判断できる）だけが適切で、B（複数KPIを統合して品質評価でき...）は誤っている。

イ．A（ジッタの影響を判断できる）・B（複数KPIを統合して品質評価でき...）はいずれも適切である。

ウ．B（複数KPIを統合して品質評価でき...）だけが適切で、A（ジッタの影響を判断できる）は誤っている。

エ．A（ジッタの影響を判断できる）・B（複数KPIを統合して品質評価でき...）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（パケット損失の影響を説明できる）・B（品質劣化の切り分けを判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重要な指標である。 B：症状に対応する品質指標が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（パケット損失の影響を説明できる）・B（品質劣化の切り分けを判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重要な指標である。 B：症状に対応する品質指標が必要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（パケット損失の影響を説明できる）・B（品質劣化の切り分けを判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重要な指標である。 B：症状に対応する品質指標が必要である。

エ：適切。Aは誤り（重要な指標である。）。Bは誤り（症状に対応する品質指標が必要である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：品質管理では平均値だけでなく、損失の発生時間帯や連続性も確認する。 Bの確認ポイント：品質障害では利用者症状を指標へ落とし込み、区間・時間・層ごとに切り分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（ジッタの影響を判断できる）・B（複数KPIを統合して品質評価でき...）はいずれも適切である。」。A：到着時間の変動は音声・映像再生へ影響する。 B：単一KPIでは品質全体を把握しにくい。

イ：適切。Aは正しい（到着時間の変動は音声・映像再生へ影響する。）。Bは正しい（単一KPIでは品質全体を把握しにくい。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（ジッタの影響を判断できる）・B（複数KPIを統合して品質評価でき...）はいずれも適切である。」。A：到着時間の変動は音声・映像再生へ影響する。 B：単一KPIでは品質全体を把握しにくい。

エ：不適切。正しい評価は「A（ジッタの影響を判断できる）・B（複数KPIを統合して品質評価でき...）はいずれも適切である。」。A：到着時間の変動は音声・映像再生へ影響する。 B：単一KPIでは品質全体を把握しにくい。

総合解説：Aの確認ポイント：リアルタイム通信では遅延、ジッタ、パケット損失を合わせて評価する。 Bの確認ポイント：KPIはサービス特性、利用者影響、運用可能性を踏まえて選定する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0017 設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『デジタル伝送路のBERについて、最も適切な説明はどれか。』に対し、「伝送されたビットのうち誤って受信されたビットの割合を表す。」と判断した。

B：『回線の可用性は99.99%だが、ピーク時間帯に遅延・損失が大きい。評価として最も適切なものはどれか。』に対し、「遅延が大きいと可用性は必ず0%になる。」と判断した。

ア．A（BERを品質指標として判断できる）・B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）はいずれも適切である。

イ．A（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。

ウ．B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）だけが適切で、A（BERを品質指標として判断できる）は誤っている。

エ．A（BERを品質指標として判断できる）・B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。」。A：BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。B：サービスは稼働している場合がある。

イ：適切。Aは正しい（BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。）。Bは誤り（サービスは稼働している場合がある。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。」。A：BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。B：サービスは稼働している場合がある。

エ：不適切。正しい評価は「A（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、B（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。」。A：BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。B：サービスは稼働している場合がある。

総合解説：Aの確認ポイント：BERの要求値は伝送方式やFEC、サービス品質条件に応じて評価する。Bの確認ポイント：設備管理では信頼性指標と性能・品質指標を併用してサービス状態を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0018 設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『通信品質のSLAを管理する方法として、最も適切なものはどれか。』に対し、「測定地点を毎回無記録で変更する。」と判断した。

B：『通信サービスのQoSを評価する考え方として、最も適切なものはどれか。』に対し、「利用目的に応じて遅延、損失、誤り、可用性など複数の品質特性を評価する。」と判断した。

ア．A（品質SLAの監視方法を判断できる）・B（QoSの基本を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（品質SLAの監視方法を判断できる）だけが適切で、B（QoSの基本を説明できる）は誤っている。

ウ．B（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、A（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。

エ．A（品質SLAの監視方法を判断できる）・B（QoSの基本を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、A（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。」。A：評価条件を統一する必要がある。B：通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。

イ：不適切。正しい評価は「B（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、A（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。」。A：評価条件を統一する必要がある。B：通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。

ウ：適切。Aは誤り（評価条件を統一する必要がある。）。Bは正しい（通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（QoSの基本を説明できる）だけが適切で、A（品質SLAの監視方法を判断できる）は誤っている。」。A：評価条件を統一する必要がある。B：通信品質は単一指標だけでなく複数の性能要素から構成される。

総合解説：Aの確認ポイント：通信品質評価では指標の定義だけでなく、観測条件と集計方法の一貫性が重要である。Bの確認ポイント：ITU-T E.800はQoSに関する用語・概念を整理している。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0019

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『日中は問題ないが夕方だけ遅延が急増するネットワークを評価する。最も適切な方法はどれか。』に対し、「品質評価は最も良い時間帯だけで行う。」と判断した。

B：『通信品質における遅延の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「受信信号の電力だけを表す。」と判断した。

A．A（平均値とピーク値を使い分けられる）・B（遅延の意味を説明できる）はいずれも誤っている。

イ．A（平均値とピーク値を使い分けられる）・B（遅延の意味を説明できる）はいずれも適切である。

ウ．A（平均値とピーク値を使い分けられる）だけが適切で、B（遅延の意味を説明できる）は誤っている。

エ．B（遅延の意味を説明できる）だけが適切で、A（平均値とピーク値を使い分けられる）は誤っている。

0020

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『利用者から『通信が遅い』との申告が増えた。最も適切な初期分析はどれか。』に対し、「遅延、損失、利用率、物理エラー、対象区間・時間帯を確認し、どの層・設備で劣化しているか切り分ける。」と判断した。

B：『IP通信でパケット損失率が高くなった場合の影響として、最も適切なものはどれか。』に対し、「再送増加や音声・映像品質劣化など、アプリケーション性能に悪影響を与えることがある。」と判断した。

A．A（品質劣化の切り分けを判断できる）だけが適切で、B（パケット損失の影響を説明できる）は誤っている。

イ．A（品質劣化の切り分けを判断できる）・B（パケット損失の影響を説明できる）はいずれも適切である。

ウ．B（パケット損失の影響を説明できる）だけが適切で、A（品質劣化の切り分けを判断できる）は誤っている。

エ．A（品質劣化の切り分けを判断できる）・B（パケット損失の影響を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（代表性を欠く。）。Bは誤り（時間特性の指標である。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（平均値とピーク値を使い分けられる）・B（遅延の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：代表性を欠く。B：時間特性の指標である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（平均値とピーク値を使い分けられる）・B（遅延の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：代表性を欠く。B：時間特性の指標である。

エ：不適切。正しい評価は「A（平均値とピーク値を使い分けられる）・B（遅延の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：代表性を欠く。B：時間特性の指標である。

総合解説：Aの確認ポイント：品質管理では平均・最大・分位点・時間帯別推移など目的に応じた統計を使う。Bの確認ポイント：遅延には伝搬、伝送、処理、待ち時間などが含まれ得る。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（品質劣化の切り分けを判断できる）・B（パケット損失の影響を説明できる）はいずれも適切である。」。A：主観的症状を複数の客観指標へ分解する。B：損失の影響はアプリケーション特性によって異なる。

イ：適切。Aは正しい（主観的症状を複数の客観指標へ分解する。）。Bは正しい（損失の影響はアプリケーション特性によって異なる。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（品質劣化の切り分けを判断できる）・B（パケット損失の影響を説明できる）はいずれも適切である。」。A：主観的症状を複数の客観指標へ分解する。B：損失の影響はアプリケーション特性によって異なる。

エ：不適切。正しい評価は「A（品質劣化の切り分けを判断できる）・B（パケット損失の影響を説明できる）はいずれも適切である。」。A：主観的症状を複数の客観指標へ分解する。B：損失の影響はアプリケーション特性によって異なる。

総合解説：Aの確認ポイント：品質障害では利用者症状を指標へ落とし込み、区間・時間・層ごとに切り分ける。Bの確認ポイント：品質管理では平均値だけでなく、損失の発生時間帯や連続性も確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0021

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『法人向け重要回線の品質ダッシュボードを設計する。最も適切な指標構成はどれか。』に対し、「可用性、遅延、損失、ジッタ、帯域利用率、重大障害件数などをサービス要件に合わせて組み合わせる。」と判断した。

B：『リアルタイム音声通信でパケット到着間隔のばらつきが大きくなっている。この現象を表す指標として最も適切なものはどれか。』に対し、「在庫回転率である。」と判断した。

ア．A（複数KPIを統合して品質評価でき...）・B（ジッタの影響を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（ジッタの影響を判断できる）だけが適切で、A（複数KPIを統合して品質評価でき...）は誤っている。

ウ．A（複数KPIを統合して品質評価でき...）だけが適切で、B（ジッタの影響を判断できる）は誤っている。

エ．A（複数KPIを統合して品質評価でき...）・B（ジッタの影響を判断できる）はいずれも誤っている。

0022

設備管理・信頼性 > 通信品質・性能・評価指標 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『回線の可用性は99.99%だが、ピーク時間帯に遅延・損失が大きい。評価として最も適切なものはどれか。』に対し、「性能品質は設備管理の対象外である。」と判断した。

B：『デジタル伝送路のBERについて、最も適切な説明はどれか。』に対し、「伝送されたビットのうち誤って受信されたビットの割合を表す。」と判断した。

ア．A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）・B（BERを品質指標として判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）だけが適切で、B（BERを品質指標として判断できる）は誤っている。

ウ．B（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。

エ．A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）・B（BERを品質指標として判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（複数KPIを統合して品質評価でき...）だけが適切で、B（ジッタの影響を判断できる）は誤っている。」。A：単一KPIでは品質全体を把握しにくい。B：調達・在庫管理の指標である。

イ：不適切。正しい評価は「A（複数KPIを統合して品質評価でき...）だけが適切で、B（ジッタの影響を判断できる）は誤っている。」。A：単一KPIでは品質全体を把握しにくい。B：調達・在庫管理の指標である。

ウ：適切。Aは正しい（単一KPIでは品質全体を把握しにくい）。Bは誤り（調達・在庫管理の指標である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（複数KPIを統合して品質評価でき...）だけが適切で、B（ジッタの影響を判断できる）は誤っている。」。A：単一KPIでは品質全体を把握しにくい。B：調達・在庫管理の指標である。

総合解説：Aの確認ポイント：KPIはサービス特性、利用者影響、運用可能性を踏まえて選定する。Bの確認ポイント：リアルタイム通信では遅延、ジッタ、パケット損失を合わせて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。」。A：公式出題範囲にも通信品質の設定・評価が含まれる。B：BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。

イ：不適切。正しい評価は「B（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。」。A：公式出題範囲にも通信品質の設定・評価が含まれる。B：BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。

ウ：適切。Aは誤り（公式出題範囲にも通信品質の設定・評価が含まれる）。Bは正しい（BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（BERを品質指標として判断できる）だけが適切で、A（品質・可用性の相関を総合判断でき...）は誤っている。」。A：公式出題範囲にも通信品質の設定・評価が含まれる。B：BERは物理・伝送品質評価に用いられる代表指標である。

総合解説：Aの確認ポイント：設備管理では信頼性指標と性能・品質指標を併用してサービス状態を評価する。Bの確認ポイント：BERの要求値は伝送方式やFEC、サービス品質条件に応じて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0023

設備管理・信頼性 > 冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『設備のN+1冗長構成について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「容量設計とは無関係な構成である。」と判断した。

B：『老朽設備の更新時期を決める方法として、最も適切なものはどれか。』に対し、「設置年数だけで全設備を同時に交換する。」と判断した。

A．A（N+1冗長の意味を説明できる）・B（老朽設備の更新時期を判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（N+1冗長の意味を説明できる）・B（老朽設備の更新時期を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（N+1冗長の意味を説明できる）だけが適切で、B（老朽設備の更新時期を判断できる）は誤っている。

エ．B（老朽設備の更新時期を判断できる）だけが適切で、A（N+1冗長の意味を説明できる）は誤っている。

0024

設備管理・信頼性 > 冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『設備ライフサイクル管理の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「企画・設計・調達・施工・運用・保全・更新・廃止までを通じて性能とコストを管理する。」と判断した。

B：『故障率は低いが調達リードタイムが長い重要装置の予備品管理として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「障害影響と調達期間を考慮し、必要数量の予備品を適切な保管条件で確保する。」と判断した。

A．A（設備ライフサイクルを説明できる）だけが適切で、B（予備品管理を判断できる）は誤っている。

イ．B（予備品管理を判断できる）だけが適切で、A（設備ライフサイクルを説明できる）は誤っている。

ウ．A（設備ライフサイクルを説明できる）・B（予備品管理を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．A（設備ライフサイクルを説明できる）・B（予備品管理を判断できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（故障時も必要容量を満たすよう設計する。）。Bは誤り（状態・重要度を考慮する。）。イ：不適切。正しい評価は「A（N+1冗長の意味を説明できる）・B（老朽設備の更新時期を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：故障時も必要容量を満たすよう設計する。B：状態・重要度を考慮する。ウ：不適切。正しい評価は「A（N+1冗長の意味を説明できる）・B（老朽設備の更新時期を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：故障時も必要容量を満たすよう設計する。B：状態・重要度を考慮する。エ：不適切。正しい評価は「A（N+1冗長の意味を説明できる）・B（老朽設備の更新時期を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：故障時も必要容量を満たすよう設計する。B：状態・重要度を考慮する。

総合解説：Aの確認ポイント：N+1では予備装置の切替・定期試験・共通故障の管理も必要である。Bの確認ポイント：設備更新は信頼性、性能、保守性、経済性のバランスで決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（設備ライフサイクルを説明できる）・B（予備品管理を判断できる）はいずれも適切である。」。A：設備を導入時だけでなく全期間で管理する。B：故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。イ：不適切。正しい評価は「A（設備ライフサイクルを説明できる）・B（予備品管理を判断できる）はいずれも適切である。」。A：設備を導入時だけでなく全期間で管理する。B：故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。ウ：不適切。正しい評価は「A（設備ライフサイクルを説明できる）・B（予備品管理を判断できる）はいずれも適切である。」。A：設備を導入時だけでなく全期間で管理する。B：故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。エ：適切。Aは正しい（設備を導入時だけでなく全期間で管理する。）。Bは正しい（故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。）。

総合解説：Aの確認ポイント：長寿命設備では初期費用と運用・保守・更新費を合わせたライフサイクル視点が重要である。Bの確認ポイント：スペア管理は設備重要度、故障率、調達期間、保管寿命を組み合わせで最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0025 設備管理・信頼性>冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：『平常時の設備利用率が95%まで上昇している。将来需要も増える見込みである。最も適切な対応はどれか。』に対し、「ピーク需要、成長率、障害時の縮退容量を確認し、必要な増強時期を計画する。」と判断した。
B：『通常時は2系統で各60%ずつ負荷を分担している。1系統故障時も全需要を処理したい。最も適切な設計確認はどれか。』に対し、「故障時の電源・冷却容量は処理能力と無関係である。」と判断した。
ア．A（容量余裕を判断できる）・B（容量と冗長性を総合判断できる）はいずれも適切である。
イ．B（容量と冗長性を総合判断できる）だけが適切で、A（容量余裕を判断できる）は誤っている。
ウ．A（容量余裕を判断できる）だけが適切で、B（容量と冗長性を総合判断できる）は誤っている。
エ．A（容量余裕を判断できる）・B（容量と冗長性を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（容量余裕を判断できる）だけが適切で、B（容量と冗長性を総合判断できる）は誤っている。」。A：平均利用率だけでなく将来需要と冗長時容量を評価する。B：ボトルネックとなり得る。
イ：不適切。正しい評価は「A（容量余裕を判断できる）だけが適切で、B（容量と冗長性を総合判断できる）は誤っている。」。A：平均利用率だけでなく将来需要と冗長時容量を評価する。B：ボトルネックとなり得る。
ウ：適切。Aは正しい（平均利用率だけでなく将来需要と冗長時容量を評価する。）。Bは誤り（ボトルネックとなり得る。）。
エ：不適切。正しい評価は「A（容量余裕を判断できる）だけが適切で、B（容量と冗長性を総合判断できる）は誤っている。」。A：平均利用率だけでなく将来需要と冗長時容量を評価する。B：ボトルネックとなり得る。
総合解説：Aの確認ポイント：容量管理では閾値超過後ではなく、予測と調達・施工期間を踏まえて先行計画する。Bの確認ポイント：冗長系は正常時だけでなく、単一故障時の容量・温度・電源条件で検証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0026 設備管理・信頼性>冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。
A：『常用系と待機系の二重化設備で、待機系を長期間使用していない。最も適切な保全はどれか。』に対し、「切替試験は可用性を必ず低下させるだけなので禁止する。」と判断した。
B：『大規模設備を停止せずに世代更新する計画として、最も適切なものはどれか。』に対し、「新旧設備を一時並存させ、試験・段階移行・ロールバック手順を準備してサービス影響を抑える。」と判断した。
ア．A（冗長系の定期試験を判断できる）・B（設備更新計画を総合判断できる）はいずれも適切である。
イ．B（設備更新計画を総合判断できる）だけが適切で、A（冗長系の定期試験を判断できる）は誤っている。
ウ．A（冗長系の定期試験を判断できる）だけが適切で、B（設備更新計画を総合判断できる）は誤っている。
エ．A（冗長系の定期試験を判断できる）・B（設備更新計画を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（設備更新計画を総合判断できる）だけが適切で、A（冗長系の定期試験を判断できる）は誤っている。」。A：安全な手順で検証する必要がある。B：大規模更新では移行リスクを管理する必要がある。
イ：適切。Aは誤り（安全な手順で検証する必要がある。）。Bは正しい（大規模更新では移行リスクを管理する必要がある。）。
ウ：不適切。正しい評価は「B（設備更新計画を総合判断できる）だけが適切で、A（冗長系の定期試験を判断できる）は誤っている。」。A：安全な手順で検証する必要がある。B：大規模更新では移行リスクを管理する必要がある。
エ：不適切。正しい評価は「B（設備更新計画を総合判断できる）だけが適切で、A（冗長系の定期試験を判断できる）は誤っている。」。A：安全な手順で検証する必要がある。B：大規模更新では移行リスクを管理する必要がある。
総合解説：Aの確認ポイント：冗長設備は『設置されていること』ではなく『必要時に切り替わること』まで確認する。Bの確認ポイント：ライフサイクル更新では技術移行、運用手順、予備系、構成管理を一体で計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0027

設備管理・信頼性>冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『老朽設備の更新時期を決める方法として、最も適切なものはどれか。』に対し、「設置年数だけで全設備を同時に交換する。」と判断した。

B：『設備のN+1冗長構成について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「全設備を常に停止させる構成である。」と判断した。

ア．A（老朽設備の更新時期を判断できる）・B（N+1冗長の意味を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（老朽設備の更新時期を判断できる）だけが適切で、B（N+1冗長の意味を説明できる）は誤っている。

ウ．A（老朽設備の更新時期を判断できる）・B（N+1冗長の意味を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．B（N+1冗長の意味を説明できる）だけが適切で、A（老朽設備の更新時期を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（老朽設備の更新時期を判断できる）・B（N+1冗長の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：状態・重要度を考慮する。B：可用性向上を目的とする。

イ：不適切。正しい評価は「A（老朽設備の更新時期を判断できる）・B（N+1冗長の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：状態・重要度を考慮する。B：可用性向上を目的とする。

ウ：適切。Aは誤り（状態・重要度を考慮する。）。Bは誤り（可用性向上を目的とする。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（老朽設備の更新時期を判断できる）・B（N+1冗長の意味を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：状態・重要度を考慮する。B：可用性向上を目的とする。

総合解説：Aの確認ポイント：設備更新は信頼性、性能、保守性、経済性のバランスで決める。Bの確認ポイント：N+1では予備装置の切替・定期試験・共通故障の管理も必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0028

設備管理・信頼性>冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『故障率は低いが調達リードタイムが長い重要装置の予備品管理として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「障害影響と調達期間を考慮し、必要数量の予備品を適切な保管条件で確保する。」と判断した。

B：『設備ライフサイクル管理の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「企画・設計・調達・施工・運用・保全・更新・廃止までを通じて性能とコストを管理する。」と判断した。

ア．A（予備品管理を判断できる）だけが適切で、B（設備ライフサイクルを説明できる）は誤っている。

イ．A（予備品管理を判断できる）・B（設備ライフサイクルを説明できる）はいずれも適切である。

ウ．B（設備ライフサイクルを説明できる）だけが適切で、A（予備品管理を判断できる）は誤っている。

エ．A（予備品管理を判断できる）・B（設備ライフサイクルを説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（予備品管理を判断できる）・B（設備ライフサイクルを説明できる）はいずれも適切である。」。A：故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。B：設備を導入時だけでなく全期間で管理する。

イ：適切。Aは正しい（故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。）。Bは正しい（設備を導入時だけでなく全期間で管理する。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（予備品管理を判断できる）・B（設備ライフサイクルを説明できる）はいずれも適切である。」。A：故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。B：設備を導入時だけでなく全期間で管理する。

エ：不適切。正しい評価は「A（予備品管理を判断できる）・B（設備ライフサイクルを説明できる）はいずれも適切である。」。A：故障率だけでなく復旧時間への影響を考える。B：設備を導入時だけでなく全期間で管理する。

総合解説：Aの確認ポイント：スベア管理は設備重要度、故障率、調達期間、保管寿命を組み合わせで最適化する。Bの確認ポイント：長寿命設備では初期費用と運用・保守・更新費を合わせたライフサイクル視点が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0029 設備管理・信頼性 > 冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：『通常時は2系統で各60%ずつ負荷を分担している。1系統故障時も全需要を処理したい。最も適切な設計確認はどれか。』に対し、「残存1系統が100%需要を安全に処理できる容量・冷却・電源余力を持つが確認する。」と判断した。
B：『平常時の設備利用率が95%まで上昇している。将来需要も増える見込みである。最も適切な対応はどれか。』に対し、「まだ100%でないため容量計画は不要である。」と判断した。
ア．A（容量と冗長性を総合判断できる）・B（容量余裕を判断できる）はいずれも適切である。
イ．B（容量余裕を判断できる）だけが適切で、A（容量と冗長性を総合判断できる）は誤っている。
ウ．A（容量と冗長性を総合判断できる）・B（容量余裕を判断できる）はいずれも誤っている。
エ．A（容量と冗長性を総合判断できる）だけが適切で、B（容量余裕を判断できる）は誤っている。

答え・解説 正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（容量と冗長性を総合判断できる）だけが適切で、B（容量余裕を判断できる）は誤っている。」。A：冗長化では故障時の縮退状態で必要能力を満たすことが重要である。B：増設リードタイムを考慮する。
イ：不適切。正しい評価は「A（容量と冗長性を総合判断できる）だけが適切で、B（容量余裕を判断できる）は誤っている。」。A：冗長化では故障時の縮退状態で必要能力を満たすことが重要である。B：増設リードタイムを考慮する。
ウ：不適切。正しい評価は「A（容量と冗長性を総合判断できる）だけが適切で、B（容量余裕を判断できる）は誤っている。」。A：冗長化では故障時の縮退状態で必要能力を満たすことが重要である。B：増設リードタイムを考慮する。
エ：適切。Aは正しい（冗長化では故障時の縮退状態で必要能力を満たすことが重要である。）。Bは誤り（増設リードタイムを考慮する。）。
総合解説：Aの確認ポイント：冗長系は正常時だけでなく、単一故障時の容量・温度・電源条件で検証する。Bの確認ポイント：容量管理では閾値超過後ではなく、予測と調達・施工期間を踏まえて先行計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0030 設備管理・信頼性 > 冗長化・容量・設備ライフサイクル | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。
A：『大規模設備を停止せずに世代更新する計画として、最も適切なものはどれか。』に対し、「旧設備を先に全撤去してから新設備を試験する。」と判断した。
B：『常用系と待機系の二重化設備で、待機系を長期間使用していない。最も適切な保全はどれか。』に対し、「定期的に切替試験・起動確認を行い、必要時に待機系が実際に機能することを確認する。」と判断した。
ア．A（設備更新計画を総合判断できる）・B（冗長系の定期試験を判断できる）はいずれも適切である。
イ．B（冗長系の定期試験を判断できる）だけが適切で、A（設備更新計画を総合判断できる）は誤っている。
ウ．A（設備更新計画を総合判断できる）だけが適切で、B（冗長系の定期試験を判断できる）は誤っている。
エ．A（設備更新計画を総合判断できる）・B（冗長系の定期試験を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（冗長系の定期試験を判断できる）だけが適切で、A（設備更新計画を総合判断できる）は誤っている。」。A：長時間停止の危険がある。B：待機系が潜在故障していると冗長化効果が得られない。
イ：適切。Aは誤り（長時間停止の危険がある。）。Bは正しい（待機系が潜在故障していると冗長化効果が得られない。）。
ウ：不適切。正しい評価は「B（冗長系の定期試験を判断できる）だけが適切で、A（設備更新計画を総合判断できる）は誤っている。」。A：長時間停止の危険がある。B：待機系が潜在故障していると冗長化効果が得られない。
エ：不適切。正しい評価は「B（冗長系の定期試験を判断できる）だけが適切で、A（設備更新計画を総合判断できる）は誤っている。」。A：長時間停止の危険がある。B：待機系が潜在故障していると冗長化効果が得られない。
総合解説：Aの確認ポイント：ライフサイクル更新では技術移行、運用手順、予備系、構成管理を一体で計画する。Bの確認ポイント：冗長設備は『設置されていること』ではなく『必要時に切り替わること』まで確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0031

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『施工管理における設計図書の主な役割として、最も適切なものはどれか。』に対し、「請負金額だけを記載する文書である。」と判断した。

B：『施工中に契約図書にない追加作業を求められた場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「口頭依頼なら記録不要で直ちに実施する。」と判断した。

ア．A（設計図書の役割を説明できる）・B（工事範囲を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（設計図書の役割を説明できる）だけが適切で、B（工事範囲を判断できる）は誤っている。

ウ．A（設計図書の役割を説明できる）・B（工事範囲を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（工事範囲を判断できる）だけが適切で、A（設計図書の役割を説明できる）は誤っている。

0032

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『施工計画書に含める内容として、最も適切なものはどれか。』に対し、「施工方法、工程、品質、安全、使用機械、人員、周辺対応などを工事条件に合わせて整理する。」と判断した。

B：『工期が短い工事で施工計画を作成する際、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「必要人員・機械・材料の調達時期と作業順序を確認し、無理のない実行可能な工程とする。」と判断した。

ア．A（施工計画書の内容を説明できる）だけが適切で、B（施工計画の実現性を判断できる）は誤っている。

イ．B（施工計画の実現性を判断できる）だけが適切で、A（施工計画書の内容を説明できる）は誤っている。

ウ．A（施工計画書の内容を説明できる）・B（施工計画の実現性を判断できる）はいずれも適切である。

エ．A（施工計画書の内容を説明できる）・B（施工計画の実現性を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（設計図書の役割を説明できる）・B（工事範囲を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：仕様・図面等を含む。B：後の紛争原因になる。

イ：不適切。正しい評価は「A（設計図書の役割を説明できる）・B（工事範囲を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：仕様・図面等を含む。B：後の紛争原因になる。

ウ：適切。Aは誤り（仕様・図面等を含む。）。Bは誤り（後の紛争原因になる。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（設計図書の役割を説明できる）・B（工事範囲を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：仕様・図面等を含む。B：後の紛争原因になる。

総合解説：Aの確認ポイント：施工前に図面・仕様書・数量・施工条件の整合を確認することが重要である。Bの確認ポイント：変更工事は施工・契約・工程・費用を一体で管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（施工計画書の内容を説明できる）・B（施工計画の実現性を判断できる）はいずれも適切である。」。A：施工計画は工事実施方法を具体化する。B：短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。

イ：不適切。正しい評価は「A（施工計画書の内容を説明できる）・B（施工計画の実現性を判断できる）はいずれも適切である。」。A：施工計画は工事実施方法を具体化する。B：短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。

ウ：適切。Aは正しい（施工計画は工事実施方法を具体化する。）。Bは正しい（短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（施工計画書の内容を説明できる）・B（施工計画の実現性を判断できる）はいずれも適切である。」。A：施工計画は工事実施方法を具体化する。B：短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。

総合解説：Aの確認ポイント：施工計画は設計図書、現場条件、工程、品質、安全を整合させる。Bの確認ポイント：施工計画は資源制約と品質・安全要件を含む実現可能性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0033

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『請負契約管理で最も重要な考え方はどれか。』に対し、「工事範囲、責任分担、納期、品質、変更・追加工事の扱いを契約条件として明確にする。」と判断した。

B：『ケーブルルート変更が指示された場合、確認すべき影響として最も適切なものはどれか。』に対し、「変更後の施工性は確認しなくてよい。」と判断した。

ア．A（請負契約管理の基本を説明できる）・B（設計変更の影響を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、B（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。

ウ．B（設計変更の影響を判断できる）だけが適切で、A（請負契約管理の基本を説明できる）は誤っている。

エ．A（請負契約管理の基本を説明できる）・B（設計変更の影響を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、B（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。」。A：曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。B：再照査が必要である。

イ：適切。Aは正しい（曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。）。Bは誤り（再照査が必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、B（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。」。A：曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。B：再照査が必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、B（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。」。A：曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。B：再照査が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：請負契約は施工・支払・変更・検査・引渡しの基準となる。Bの確認ポイント：設計変更は関連する全管理項目へ横断的に反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0034

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『施工前に設計図と現地条件が一致しないことが分かった。最も適切な対応はどれか。』に対し、「完成後に初めて報告する。」と判断した。

B：『仕様書と図面でケーブル仕様が異なっていることが施工前に判明した。最も適切な対応はどれか。』に対し、「契約図書の優先関係や発注者指示を確認し、不整合を正式に解消して施工仕様を一本化する。」と判断した。

ア．A（施工前照査を判断できる）・B（契約・技術条件を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（契約・技術条件を総合判断できる）だけが適切で、A（施工前照査を判断できる）は誤っている。

ウ．A（施工前照査を判断できる）だけが適切で、B（契約・技術条件を総合判断できる）は誤っている。

エ．A（施工前照査を判断できる）・B（契約・技術条件を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（契約・技術条件を総合判断できる）だけが適切で、A（施工前照査を判断できる）は誤っている。」。A：施工前に解決すべきである。B：推測で片方を選ばず正式確認する。

イ：適切。Aは誤り（施工前に解決すべきである。）。Bは正しい（推測で片方を選ばず正式確認する。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（契約・技術条件を総合判断できる）だけが適切で、A（施工前照査を判断できる）は誤っている。」。A：施工前に解決すべきである。B：推測で片方を選ばず正式確認する。

エ：不適切。正しい評価は「B（契約・技術条件を総合判断できる）だけが適切で、A（施工前照査を判断できる）は誤っている。」。A：施工前に解決すべきである。B：推測で片方を選ばず正式確認する。

総合解説：Aの確認ポイント：設計照査では現地条件・既設物・寸法・施工可能性を事前確認する。Bの確認ポイント：設計図書間の不整合は施工前に解消し、変更履歴を残す。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0035

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『掘削中に想定外の地下埋設物が見つかり、施工方法の変更が必要になった。最も適切な対応はどれか。』に対し、「埋設物を無断で切断して施工する。」と判断した。

B：『長雨で掘削工程が大幅に遅れた。品質と安全を保ちつつ納期影響を抑える最も適切な対応はどれか。』に対し、「品質検査を削除して工期短縮する。」と判断した。

ア．A（施工条件変更を管理できる）・B（施工計画変更を総合判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（施工条件変更を管理できる）・B（施工計画変更を総合判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（施工条件変更を管理できる）だけが適切で、B（施工計画変更を総合判断できる）は誤っている。

エ．B（施工計画変更を総合判断できる）だけが適切で、A（施工条件変更を管理できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（重大事故となる。）。Bは誤り（品質保証できない。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（施工条件変更を管理できる）・B（施工計画変更を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重大事故となる。B：品質保証できない。

ウ：不適切。正しい評価は「A（施工条件変更を管理できる）・B（施工計画変更を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重大事故となる。B：品質保証できない。

エ：不適切。正しい評価は「A（施工条件変更を管理できる）・B（施工計画変更を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重大事故となる。B：品質保証できない。

総合解説：Aの確認ポイント：予期しない現場条件は正式な変更管理プロセスで処理する。Bの確認ポイント：施工計画は固定文書ではなく、条件変化に応じ適切に変更管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0036

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『施工中に契約図書にない追加作業を求められた場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「追加作業の範囲、費用、工程影響を確認し、正式な変更手続きを経て実施する。」と判断した。

B：『施工管理における設計図書の主な役割として、最も適切なものはどれか。』に対し、「施工対象、仕様、寸法、品質条件などを関係者間で共通認識とする基礎資料になる。」と判断した。

ア．A（工事範囲を判断できる）・B（設計図書の役割を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（工事範囲を判断できる）だけが適切で、B（設計図書の役割を説明できる）は誤っている。

ウ．B（設計図書の役割を説明できる）だけが適切で、A（工事範囲を判断できる）は誤っている。

エ．A（工事範囲を判断できる）・B（設計図書の役割を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（スコープ変更を明確に管理する必要がある。）。Bは正しい（設計図書は施工・検査・変更管理の基準となる。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（工事範囲を判断できる）・B（設計図書の役割を説明できる）はいずれも適切である。」。A：スコープ変更を明確に管理する必要がある。B：設計図書は施工・検査・変更管理の基準となる。

ウ：不適切。正しい評価は「A（工事範囲を判断できる）・B（設計図書の役割を説明できる）はいずれも適切である。」。A：スコープ変更を明確に管理する必要がある。B：設計図書は施工・検査・変更管理の基準となる。

エ：不適切。正しい評価は「A（工事範囲を判断できる）・B（設計図書の役割を説明できる）はいずれも適切である。」。A：スコープ変更を明確に管理する必要がある。B：設計図書は施工・検査・変更管理の基準となる。

総合解説：Aの確認ポイント：変更工事は施工・契約・工程・費用を一体で管理する。Bの確認ポイント：施工前に図面・仕様書・数量・施工条件の整合を確認することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0037

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『工期が短い工事で施工計画を作成する際、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「必要人員・機械・材料の調達時期と作業順序を確認し、無理のない実行可能な工程とする。」と判断した。

B：『施工計画書に含める内容として、最も適切なものはどれか。』に対し、「工事名だけを記載すればよい。」と判断した。

ア．A（施工計画の実現性を判断できる）・B（施工計画書の内容を説明できる）はいずれも適切である。

イ．B（施工計画書の内容を説明できる）だけが適切で、A（施工計画の実現性を判断できる）は誤っている。

ウ．A（施工計画の実現性を判断できる）・B（施工計画書の内容を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（施工計画の実現性を判断できる）だけが適切で、B（施工計画書の内容を説明できる）は誤っている。

0038

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『ケーブルルート変更が指示された場合、確認すべき影響として最も適切なものはどれか。』に対し、「図面だけ直せば他の影響確認は不要である。」と判断した。

B：『請負契約管理で最も重要な考え方はどれか。』に対し、「工事範囲、責任分担、納期、品質、変更・追加工事の扱いを契約条件として明確にする。」と判断した。

ア．A（設計変更の影響を判断できる）・B（請負契約管理の基本を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（設計変更の影響を判断できる）だけが適切で、B（請負契約管理の基本を説明できる）は誤っている。

ウ．A（設計変更の影響を判断できる）・B（請負契約管理の基本を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．B（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、A（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（施工計画の実現性を判断できる）だけが適切で、B（施工計画書の内容を説明できる）は誤っている。」。A：短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。B：実施条件を具体化する必要がある。

イ：不適切。正しい評価は「A（施工計画の実現性を判断できる）だけが適切で、B（施工計画書の内容を説明できる）は誤っている。」。A：短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。B：実施条件を具体化する必要がある。

ウ：不適切。正しい評価は「A（施工計画の実現性を判断できる）だけが適切で、B（施工計画書の内容を説明できる）は誤っている。」。A：短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。B：実施条件を具体化する必要がある。

エ：適切。Aは正しい（短工期でも安全・品質を犠牲にしてはならない。）。Bは誤り（実施条件を具体化する必要がある。）。

総合解説：Aの確認ポイント：施工計画は資源制約と品質・安全要件を含む実現可能性を確認する。Bの確認ポイント：施工計画は設計図書、現場条件、工程、品質、安全を整合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、A（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。」。A：工程・安全・許認可等へ影響する。B：曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。

イ：不適切。正しい評価は「B（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、A（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。」。A：工程・安全・許認可等へ影響する。B：曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。

ウ：不適切。正しい評価は「B（請負契約管理の基本を説明できる）だけが適切で、A（設計変更の影響を判断できる）は誤っている。」。A：工程・安全・許認可等へ影響する。B：曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。

エ：適切。Aは誤り（工程・安全・許認可等へ影響する。）。Bは正しい（曖昧な条件は紛争・手戻りの原因になる。）。

総合解説：Aの確認ポイント：設計変更は関連する全管理項目へ横断的に反映する。Bの確認ポイント：請負契約は施工・支払・変更・検査・引渡しの基準となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0039

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『仕様書と図面でケーブル仕様が異なっていることが施工前に判明した。最も適切な対応はどれか。』に対し、「両仕様を混在させ記録しない。」と判断した。

B：『施工前に設計図と現地条件が一致しないことが分かった。最も適切な対応はどれか。』に対し、「完成後に初めて報告する。」と判断した。

ア．A（契約・技術条件を総合判断できる）・B（施工前照査を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（契約・技術条件を総合判断できる）だけが適切で、B（施工前照査を判断できる）は誤っている。

ウ．A（契約・技術条件を総合判断できる）・B（施工前照査を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（施工前照査を判断できる）だけが適切で、A（契約・技術条件を総合判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（契約・技術条件を総合判断できる）・B（施工前照査を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：品質・保守に問題が生じる。 B：施工前に解決すべきである。

イ：不適切。正しい評価は「A（契約・技術条件を総合判断できる）・B（施工前照査を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：品質・保守に問題が生じる。 B：施工前に解決すべきである。

ウ：適切。Aは誤り（品質・保守に問題が生じる。）。Bは誤り（施工前に解決すべきである。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（契約・技術条件を総合判断できる）・B（施工前照査を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：品質・保守に問題が生じる。 B：施工前に解決すべきである。

総合解説：Aの確認ポイント：設計図書間の不整合は施工前に解消し、変更履歴を残す。 Bの確認ポイント：設計照査では現地条件・既設物・寸法・施工可能性を事前確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0040

施工管理 > 設計図書・施工計画・請負契約 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『長雨で掘削工程が大幅に遅れた。品質と安全を保ちつつ納期影響を抑える最も適切な対応はどれか。』に対し、「クリティカル工程を再評価し、作業順序・資源投入・代替工法を検討して承認済み施工計画を更新する。」と判断した。

B：『掘削中に想定外の地下埋設物が見つかり、施工方法の変更が必要になった。最も適切な対応はどれか。』に対し、「作業を安全に停止し、影響を評価して関係者協議・変更承認後に再開する。」と判断した。

ア．A（施工計画変更を総合判断できる）だけが適切で、B（施工条件変更を管理できる）は誤っている。

イ．B（施工条件変更を管理できる）だけが適切で、A（施工計画変更を総合判断できる）は誤っている。

ウ．A（施工計画変更を総合判断できる）・B（施工条件変更を管理できる）はいずれも誤っている。

エ．A（施工計画変更を総合判断できる）・B（施工条件変更を管理できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（施工計画変更を総合判断できる）・B（施工条件変更を管理できる）はいずれも適切である。」。A：無理な作業ではなく工程再計画が必要である。 B：現場条件変更は安全・品質・費用・工程へ影響する。

イ：不適切。正しい評価は「A（施工計画変更を総合判断できる）・B（施工条件変更を管理できる）はいずれも適切である。」。A：無理な作業ではなく工程再計画が必要である。 B：現場条件変更は安全・品質・費用・工程へ影響する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（施工計画変更を総合判断できる）・B（施工条件変更を管理できる）はいずれも適切である。」。A：無理な作業ではなく工程再計画が必要である。 B：現場条件変更は安全・品質・費用・工程へ影響する。

エ：適切。Aは正しい（無理な作業ではなく工程再計画が必要である。）。Bは正しい（現場条件変更は安全・品質・費用・工程へ影響する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：施工計画は固定文書ではなく、条件変化に応じ適切に変更管理する。 Bの確認ポイント：予期しない現場条件は正式な変更管理プロセスで処理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0041

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『工程管理の主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「各作業の順序・所要期間・依存関係を管理し、工期内完成へ向け進捗を統制する。」と判断した。

B：『受入検査で規格外の材料が見つかった。最も適切な対応はどれか。』に対し、「正常品と混在させて使用する。」と判断した。

ア．A（工程管理の目的を説明できる）・B（不適合品を管理できる）はいずれも適切である。

イ．A（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、B（不適合品を管理できる）は誤っている。

ウ．B（不適合品を管理できる）だけが適切で、A（工程管理の目的を説明できる）は誤っている。

エ．A（工程管理の目的を説明できる）・B（不適合品を管理できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、B（不適合品を管理できる）は誤っている。」。A：工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。B：品質事故につながる。

イ：適切。Aは正しい（工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。）。Bは誤り（品質事故につながる。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、B（不適合品を管理できる）は誤っている。」。A：工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。B：品質事故につながる。

エ：不適切。正しい評価は「A（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、B（不適合品を管理できる）は誤っている。」。A：工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。B：品質事故につながる。

総合解説：Aの確認ポイント：工程表と実績を比較し、遅延要因を早期に把握する。Bの確認ポイント：不適合管理は識別、隔離、処置、是正、再発防止まで一連で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0042

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『施工品質管理の目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「完成品の外観だけを見る。」と判断した。

B：『施工品質の測定に使用する計測器の管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「必要な精度を持つ機器を使用し、校正・点検期限と測定記録を管理する。」と判断した。

ア．B（測定機器の校正を判断できる）だけが適切で、A（品質管理の目的を説明できる）は誤っている。

イ．A（品質管理の目的を説明できる）・B（測定機器の校正を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（品質管理の目的を説明できる）だけが適切で、B（測定機器の校正を判断できる）は誤っている。

エ．A（品質管理の目的を説明できる）・B（測定機器の校正を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（工程・材料・測定も含む。）。Bは正しい（測定値の信頼性を確保する必要がある。）。

イ：不適切。正しい評価は「B（測定機器の校正を判断できる）だけが適切で、A（品質管理の目的を説明できる）は誤っている。」。A：工程・材料・測定も含む。B：測定値の信頼性を確保する必要がある。

ウ：不適切。正しい評価は「B（測定機器の校正を判断できる）だけが適切で、A（品質管理の目的を説明できる）は誤っている。」。A：工程・材料・測定も含む。B：測定値の信頼性を確保する必要がある。

エ：不適切。正しい評価は「B（測定機器の校正を判断できる）だけが適切で、A（品質管理の目的を説明できる）は誤っている。」。A：工程・材料・測定も含む。B：測定値の信頼性を確保する必要がある。

総合解説：Aの確認ポイント：品質管理は標準化、確認、記録、不適合是正を通じて要求品質を保証する。Bの確認ポイント：品質判定に使う測定器は測定トレーサビリティを確保する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0043

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：応用

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『施工における検査の役割として、最も適切なものはどれか。』に対し、「検査結果は記録しなくてよい。」と判断した。

B：『工程遅延を取り戻すため、検査工程を省略する案が出た。最も適切な判断はどれか。』に対し、「不適合が出てても再施工時間は工程へ影響しない。」と判断した。

ア．A（検査の役割を説明できる）・B（工程と品質の両立を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（検査の役割を説明できる）だけが適切で、B（工程と品質の両立を判断できる）は誤っている。

ウ．B（工程と品質の両立を判断できる）だけが適切で、A（検査の役割を説明できる）は誤っている。

エ．A（検査の役割を説明できる）・B（工程と品質の両立を判断できる）はいずれも誤っている。

0044

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『工程表でクリティカルパス上の作業が3日遅れ、他に余裕がない。一般に最も起こりやすい影響はどれか。』に対し、「対策しなければ工事全体の完成日も3日程度遅れる可能性が高い。」と判断した。

B：『同じ施工不良が複数現場で繰り返されている。最も適切な品質改善はどれか。』に対し、「不適合データを工程・班・材料・工法別に分析し、共通原因を特定して標準手順や教育を改善する。」と判断した。

ア．A（クリティカルパスを判断できる）だけが適切で、B（品質データを総合活用できる）は誤っている。

イ．A（クリティカルパスを判断できる）・B（品質データを総合活用できる）はいずれも適切である。

ウ．B（品質データを総合活用できる）だけが適切で、A（クリティカルパスを判断できる）は誤っている。

エ．A（クリティカルパスを判断できる）・B（品質データを総合活用できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（検査の役割を説明できる）・B（工程と品質の両立を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：トレーサビリティに必要である。B：大きく影響する。

イ：不適切。正しい評価は「A（検査の役割を説明できる）・B（工程と品質の両立を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：トレーサビリティに必要である。B：大きく影響する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（検査の役割を説明できる）・B（工程と品質の両立を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：トレーサビリティに必要である。B：大きく影響する。

エ：適切。Aは誤り（トレーサビリティに必要である。）。Bは誤り（大きく影響する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：検査項目、判定基準、責任者、記録方法を事前に定める。Bの確認ポイント：工程・品質・安全は相互に制約するため、同時に成立させる必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（クリティカルパスを判断できる）・B（品質データを総合活用できる）はいずれも適切である。」。A：クリティカルパス上の遅延は全体工期へ直結しやすい。B：個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。

イ：適切。Aは正しい（クリティカルパス上の遅延は全体工期へ直結しやすい。）。Bは正しい（個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（クリティカルパスを判断できる）・B（品質データを総合活用できる）はいずれも適切である。」。A：クリティカルパス上の遅延は全体工期へ直結しやすい。B：個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（クリティカルパスを判断できる）・B（品質データを総合活用できる）はいずれも適切である。」。A：クリティカルパス上の遅延は全体工期へ直結しやすい。B：個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：工程遅延時はクリティカルパスを再評価し、資源・順序の見直しを行う。Bの確認ポイント：品質情報を蓄積して工程能力・教育・材料管理へ反映することが継続改善につながる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0045

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『施工品質管理でPDCAを適用する例として、最も適切なものはどれか。』に対し、「品質目標と手順を計画し、施工し、検査結果を確認し、不適合原因を是正して次工程へ反映する。」と判断した。

B：『後工程で隠れて再確認できなくなる施工箇所がある。最も適切な品質管理はどれか。』に対し、「写真だけ撮り測定基準は不要である。」と判断した。

ア．A（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、B（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。

イ．A（PDCAを品質改善へ適用できる）・B（工程・品質リスクを総合判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（工程・品質リスクを総合判断できる）だけが適切で、A（PDCAを品質改善へ適用できる）は誤っている。

エ．A（PDCAを品質改善へ適用できる）・B（工程・品質リスクを総合判断できる）はいずれも誤っている。

0046

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『受入検査で規格外の材料が見つかった。最も適切な対応はどれか。』に対し、「検査記録を削除する。」と判断した。

B：『工程管理の主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「各作業の順序・所要期間・依存関係を管理し、工期内完成へ向け進捗を統制する。」と判断した。

ア．B（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、A（不適合品を管理できる）は誤っている。

イ．A（不適合品を管理できる）・B（工程管理の目的を説明できる）はいずれも適切である。

ウ．A（不適合品を管理できる）だけが適切で、B（工程管理の目的を説明できる）は誤っている。

エ．A（不適合品を管理できる）・B（工程管理の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（計画・実行・確認・改善の循環である。）。Bは誤り（要求品質を確認する必要がある。）。イ：不適切。正しい評価は「A（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、B（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。」。A：計画・実行・確認・改善の循環である。B：要求品質を確認する必要がある。ウ：不適切。正しい評価は「A（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、B（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。」。A：計画・実行・確認・改善の循環である。B：要求品質を確認する必要がある。エ：不適切。正しい評価は「A（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、B（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。」。A：計画・実行・確認・改善の循環である。B：要求品質を確認する必要がある。

総合解説：Aの確認ポイント：公式出題範囲にも品質管理手法・検査手法・PDCAサイクルが含まれる。Bの確認ポイント：重要工程ではホールドポイントを設定し、不適合の流出を防ぐ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（追跡性を損なう。）。Bは正しい（工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。）。イ：不適切。正しい評価は「B（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、A（不適合品を管理できる）は誤っている。」。A：追跡性を損なう。B：工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。ウ：不適切。正しい評価は「B（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、A（不適合品を管理できる）は誤っている。」。A：追跡性を損なう。B：工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。エ：不適切。正しい評価は「B（工程管理の目的を説明できる）だけが適切で、A（不適合品を管理できる）は誤っている。」。A：追跡性を損なう。B：工程管理は遅延兆候の把握と対策に使う。

総合解説：Aの確認ポイント：不適合管理は識別、隔離、処置、是正、再発防止まで一連で行う。Bの確認ポイント：工程表と実績を比較し、遅延要因を早期に把握する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0047

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『施工品質の測定に使用する計測器の管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「校正期限切れでも結果は必ず正しい。」と判断した。

B：『施工品質管理の目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「完成品の外観だけを見る。」と判断した。

ア．A（測定機器の校正を判断できる）・B（品質管理の目的を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（測定機器の校正を判断できる）だけが適切で、B（品質管理の目的を説明できる）は誤っている。

ウ．B（品質管理の目的を説明できる）だけが適切で、A（測定機器の校正を判断できる）は誤っている。

エ．A（測定機器の校正を判断できる）・B（品質管理の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

0048

施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『工程遅延を取り戻すため、検査工程を省略する案が出た。最も適切な判断はどれか。』に対し、「要求品質を保証できないため検査省略は避け、作業順序・資源投入など別の工期短縮策を検討する。」と判断した。

B：『施工における検査の役割として、最も適切なものはどれか。』に対し、「材料・施工中・完成状態が定めた基準に適合しているかを客観的に確認する。」と判断した。

ア．A（工程と品質の両立を判断できる）だけが適切で、B（検査の役割を説明できる）は誤っている。

イ．B（検査の役割を説明できる）だけが適切で、A（工程と品質の両立を判断できる）は誤っている。

ウ．A（工程と品質の両立を判断できる）・B（検査の役割を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（工程と品質の両立を判断できる）・B（検査の役割を説明できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（測定機器の校正を判断できる）・B（品質管理の目的を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：信頼性を保証できない。B：工程・材料・測定も含む。

イ：不適切。正しい評価は「A（測定機器の校正を判断できる）・B（品質管理の目的を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：信頼性を保証できない。B：工程・材料・測定も含む。

ウ：不適切。正しい評価は「A（測定機器の校正を判断できる）・B（品質管理の目的を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：信頼性を保証できない。B：工程・材料・測定も含む。

エ：適切。Aは誤り（信頼性を保証できない。）。Bは誤り（工程・材料・測定も含む。）。

総合解説：Aの確認ポイント：品質判定に使う測定器は測定トレーサビリティを確保する。Bの確認ポイント：品質管理は標準化、確認、記録、不適合是正を通じて要求品質を保証する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（工程と品質の両立を判断できる）・B（検査の役割を説明できる）はいずれも適切である。」。A：工程遅延を品質低下で解消してはならない。B：工程段階に応じた検査で不適合を早期発見できる。

イ：不適切。正しい評価は「A（工程と品質の両立を判断できる）・B（検査の役割を説明できる）はいずれも適切である。」。A：工程遅延を品質低下で解消してはならない。B：工程段階に応じた検査で不適合を早期発見できる。

ウ：不適切。正しい評価は「A（工程と品質の両立を判断できる）・B（検査の役割を説明できる）はいずれも適切である。」。A：工程遅延を品質低下で解消してはならない。B：工程段階に応じた検査で不適合を早期発見できる。

エ：適切。Aは正しい（工程遅延を品質低下で解消してはならない。）。Bは正しい（工程段階に応じた検査で不適合を早期発見できる。）。

総合解説：Aの確認ポイント：工程・品質・安全は相互に制約するため、同時に成立させる必要がある。Bの確認ポイント：検査項目、判定基準、責任者、記録方法を事前に定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0049 施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『同じ施工不良が複数現場で繰り返されている。最も適切な品質改善はどれか。』に対し、「不適合データを工程・班・材料・工法別に分析し、共通原因を特定して標準手順や教育を改善する。」と判断した。

B：『工程表でクリティカルパス上の作業が3日遅れ、他に余裕がない。一般に最も起こりやすい影響はどれか。』に対し、「品質基準が自動的に緩和される。」と判断した。

ア．A（品質データを総合活用できる）だけが適切で、B（クリティカルパスを判断できる）は誤っている。

イ．A（品質データを総合活用できる）・B（クリティカルパスを判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（クリティカルパスを判断できる）だけが適切で、A（品質データを総合活用できる）は誤っている。

エ．A（品質データを総合活用できる）・B（クリティカルパスを判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ア

ア：適切。Aは正しい（個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。）。Bは誤り（品質基準は別である。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（品質データを総合活用できる）だけが適切で、B（クリティカルパスを判断できる）は誤っている。」。A：個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。B：品質基準は別である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（品質データを総合活用できる）だけが適切で、B（クリティカルパスを判断できる）は誤っている。」。A：個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。B：品質基準は別である。

エ：不適切。正しい評価は「A（品質データを総合活用できる）だけが適切で、B（クリティカルパスを判断できる）は誤っている。」。A：個別修正だけでなく横断的な再発防止が必要である。B：品質基準は別である。

総合解説：Aの確認ポイント：品質情報を蓄積して工程能力・教育・材料管理へ反映することが継続改善につながる。Bの確認ポイント：工程遅延時はクリティカルパスを再評価し、資源・順序の見直しを行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0050 施工管理 > 工程管理・品質管理・検査 | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『後工程で隠れて再確認できなくなる施工箇所がある。最も適切な品質管理はどれか。』に対し、「施工者の記憶だけで品質を保証する。」と判断した。

B：『施工品質管理でPDCAを適用する例として、最も適切なものはどれか。』に対し、「品質目標と手順を計画し、施工し、検査結果を確認し、不適合原因を是正して次工程へ反映する。」と判断した。

ア．A（工程・品質リスクを総合判断できる）・B（PDCAを品質改善へ適用できる）はいずれも適切である。

イ．A（工程・品質リスクを総合判断できる）だけが適切で、B（PDCAを品質改善へ適用できる）は誤っている。

ウ．B（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、A（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。

エ．A（工程・品質リスクを総合判断できる）・B（PDCAを品質改善へ適用できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、A（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。」。A：客観記録が必要である。B：計画・実行・確認・改善の循環である。

イ：不適切。正しい評価は「B（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、A（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。」。A：客観記録が必要である。B：計画・実行・確認・改善の循環である。

ウ：適切。Aは誤り（客観記録が必要である。）。Bは正しい（計画・実行・確認・改善の循環である。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（PDCAを品質改善へ適用できる）だけが適切で、A（工程・品質リスクを総合判断できる）は誤っている。」。A：客観記録が必要である。B：計画・実行・確認・改善の循環である。

総合解説：Aの確認ポイント：重要工程ではホールドポイントを設定し、不適合の流出を防ぐ。Bの確認ポイント：公式出題範囲にも品質管理手法・検査手法・PDCAサイクルが含まれる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0051

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『施工における調達管理の基本として、最も適切なものはどれか。』に対し、「受入検査を行わず使用する。」と判断した。

B：『住宅地で夜間工事を計画する場合、最も適切な環境管理はどれか。』に対し、「夜間なら住民影響はないため対策不要である。」と判断した。

ア．A（調達管理の目的を説明できる）・B（環境影響を施工計画へ反映できる）はいずれも適切である。

イ．A（調達管理の目的を説明できる）・B（環境影響を施工計画へ反映できる）はいずれも誤っている。

ウ．A（調達管理の目的を説明できる）だけが適切で、B（環境影響を施工計画へ反映できる）は誤っている。

エ．B（環境影響を施工計画へ反映できる）だけが適切で、A（調達管理の目的を説明できる）は誤っている。

0052

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『線路工事での折衝対応として、最も適切なものはどれか。』に対し、「道路管理者、他企業、沿道関係者等と施工条件・時期・安全・影響を調整する。」と判断した。

B：『工事で廃プラスチック、金属くず、汚泥など複数種類の廃棄物が発生した。最も適切な管理はどれか。』に対し、「種類・性状に応じて分別・保管し、適正な処理ルートへ引き渡す。」と判断した。

ア．A（折衝対応の目的を説明できる）だけが適切で、B（廃棄物の分別を判断できる）は誤っている。

イ．B（廃棄物の分別を判断できる）だけが適切で、A（折衝対応の目的を説明できる）は誤っている。

ウ．A（折衝対応の目的を説明できる）・B（廃棄物の分別を判断できる）はいずれも適切である。

エ．A（折衝対応の目的を説明できる）・B（廃棄物の分別を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（調達管理の目的を説明できる）・B（環境影響を施工計画へ反映できる）はいずれも誤っている。」。A：品質確認が必要である。B：むしろ影響が大きい場合がある。

イ：適切。Aは誤り（品質確認が必要である。）。Bは誤り（むしろ影響が大きい場合がある。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（調達管理の目的を説明できる）・B（環境影響を施工計画へ反映できる）はいずれも誤っている。」。A：品質確認が必要である。B：むしろ影響が大きい場合がある。

エ：不適切。正しい評価は「A（調達管理の目的を説明できる）・B（環境影響を施工計画へ反映できる）はいずれも誤っている。」。A：品質確認が必要である。B：むしろ影響が大きい場合がある。

総合解説：Aの確認ポイント：長納期品は施工計画段階から発注・受入時期を管理する。Bの確認ポイント：環境管理は工事条件に応じて騒音・振動・粉じん・排水等を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（折衝対応の目的を説明できる）・B（廃棄物の分別を判断できる）はいずれも適切である。」。A：線路工事は多数の関係者と協議が必要となる。B：混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。

イ：不適切。正しい評価は「A（折衝対応の目的を説明できる）・B（廃棄物の分別を判断できる）はいずれも適切である。」。A：線路工事は多数の関係者と協議が必要となる。B：混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。

ウ：適切。Aは正しい（線路工事は多数の関係者と協議が必要となる。）。Bは正しい（混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（折衝対応の目的を説明できる）・B（廃棄物の分別を判断できる）はいずれも適切である。」。A：線路工事は多数の関係者と協議が必要となる。B：混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。

総合解説：Aの確認ポイント：折衝記録は施工条件・責任分担・変更履歴の証拠となる。Bの確認ポイント：廃棄物処理では発生から保管・運搬・処分まで適正管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0053

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『建設工事で発生する副産物の管理として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「発生抑制、分別、再使用・再資源化、適正処理を工事計画に組み込む。」と判断した。

B：『道路下で他企業管路と近接して施工する場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「通信設備だけ保護し他設備は考慮しない。」と判断した。

ア．A（建設副産物の基本を説明できる）・B（関係者折衝を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（関係者折衝を判断できる）だけが適切で、A（建設副産物の基本を説明できる）は誤っている。

ウ．A（建設副産物の基本を説明できる）・B（関係者折衝を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．A（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、B（関係者折衝を判断できる）は誤っている。

0054

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『重要機器の納期が6か月で、工事開始まで4か月しかない。最も適切な対応はどれか。』に対し、「納期遅延は工程へ影響しない。」と判断した。

B：『指定材料が供給停止となり、工程遅延を避けるため代替品を使いたい。最も適切な対応はどれか。』に対し、「必要性能・互換性・耐久性を比較し、設計・発注者の承認を得て図書を更新してから使用する。」と判断した。

ア．A（長納期品の調達リスクを判断できる）・B（調達・工程・品質を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（長納期品の調達リスクを判断できる）だけが適切で、B（調達・工程・品質を総合判断できる）は誤っている。

ウ．A（長納期品の調達リスクを判断できる）・B（調達・工程・品質を総合判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（調達・工程・品質を総合判断できる）だけが適切で、A（長納期品の調達リスクを判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、B（関係者折衝を判断できる）は誤っている。」。A：廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。B：相互保護が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、B（関係者折衝を判断できる）は誤っている。」。A：廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。B：相互保護が必要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、B（関係者折衝を判断できる）は誤っている。」。A：廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。B：相互保護が必要である。

エ：適切。Aは正しい（廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。）。Bは誤り（相互保護が必要である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：施工計画には建設副産物の発生量・保管・運搬・処理方法を反映する。Bの確認ポイント：近接協議は安全・工程・責任分担を明確にする重要な施工前手続きである。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（調達・工程・品質を総合判断できる）だけが適切で、A（長納期品の調達リスクを判断できる）は誤っている。」。A：施工不能となる可能性がある。B：納期だけでなく品質・保守性を確認する。

イ：不適切。正しい評価は「B（調達・工程・品質を総合判断できる）だけが適切で、A（長納期品の調達リスクを判断できる）は誤っている。」。A：施工不能となる可能性がある。B：納期だけでなく品質・保守性を確認する。

ウ：不適切。正しい評価は「B（調達・工程・品質を総合判断できる）だけが適切で、A（長納期品の調達リスクを判断できる）は誤っている。」。A：施工不能となる可能性がある。B：納期だけでなく品質・保守性を確認する。

エ：適切。Aは誤り（施工不能となる可能性がある。）。Bは正しい（納期だけでなく品質・保守性を確認する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：調達計画では長納期品を早期特定し、工程と連動して管理する。Bの確認ポイント：代替調達は技術適合性、承認、記録を通じて品質を維持する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0055

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『納入されたケーブルの型式が発注仕様と異なる。最も適切な対応はどれか。』に対し、「外観が似ていればそのまま使う。」と判断した。

B：『大規模線路更新工事で撤去ケーブルや掘削土等が大量に発生する。最も適切な計画はどれか。』に対し、「撤去品は全て無条件に廃棄する。」と判断した。

ア．A（受入時の材料確認を判断できる）・B（建設副産物を総合管理できる）はいずれも誤っている。

イ．A（受入時の材料確認を判断できる）・B（建設副産物を総合管理できる）はいずれも適切である。

ウ．A（受入時の材料確認を判断できる）だけが適切で、B（建設副産物を総合管理できる）は誤っている。

エ．B（建設副産物を総合管理できる）だけが適切で、A（受入時の材料確認を判断できる）は誤っている。

0056

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『住宅地で夜間工事を計画する場合、最も適切な環境管理はどれか。』に対し、「騒音・振動・照明・交通への影響を評価し、低騒音機械や作業時間調整、周知を行う。」と判断した。

B：『施工における調達管理の基本として、最も適切なものはどれか。』に対し、「必要な品質・数量の材料や機器を、工程に間に合う時期に確保する。」と判断した。

ア．A（環境影響を施工計画へ反映できる）だけが適切で、B（調達管理の目的を説明できる）は誤っている。

イ．B（調達管理の目的を説明できる）だけが適切で、A（環境影響を施工計画へ反映できる）は誤っている。

ウ．A（環境影響を施工計画へ反映できる）・B（調達管理の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（環境影響を施工計画へ反映できる）・B（調達管理の目的を説明できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（性能条件が異なる可能性がある。）。Bは誤り（再使用・再資源化可能性を評価する。）。イ：不適切。正しい評価は「A（受入時の材料確認を判断できる）・B（建設副産物を総合管理できる）はいずれも誤っている。」。A：性能条件が異なる可能性がある。B：再使用・再資源化可能性を評価する。ウ：不適切。正しい評価は「A（受入時の材料確認を判断できる）・B（建設副産物を総合管理できる）はいずれも誤っている。」。A：性能条件が異なる可能性がある。B：再使用・再資源化可能性を評価する。エ：不適切。正しい評価は「A（受入時の材料確認を判断できる）・B（建設副産物を総合管理できる）はいずれも誤っている。」。A：性能条件が異なる可能性がある。B：再使用・再資源化可能性を評価する。

総合解説：Aの確認ポイント：調達品は仕様、数量、外観、必要な証明書を受入時に確認する。Bの確認ポイント：建設副産物管理は施工計画・環境管理・調達物流と一体で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（環境影響を施工計画へ反映できる）・B（調達管理の目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：周辺環境への影響を事前に低減する必要がある。B：品質・納期・数量・価格を総合管理する。イ：不適切。正しい評価は「A（環境影響を施工計画へ反映できる）・B（調達管理の目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：周辺環境への影響を事前に低減する必要がある。B：品質・納期・数量・価格を総合管理する。ウ：不適切。正しい評価は「A（環境影響を施工計画へ反映できる）・B（調達管理の目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：周辺環境への影響を事前に低減する必要がある。B：品質・納期・数量・価格を総合管理する。エ：適切。Aは正しい（周辺環境への影響を事前に低減する必要がある。）。Bは正しい（品質・納期・数量・価格を総合管理する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：環境管理は工事条件に応じて騒音・振動・粉じん・排水等を管理する。Bの確認ポイント：長納期品は施工計画段階から発注・受入時期を管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0057

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『工事で廃プラスチック、金属くず、汚泥など複数種類の廃棄物が発生した。最も適切な管理はどれか。』に対し、「種類・性状に応じて分別・保管し、適正な処理ルートへ引き渡す。」と判断した。

B：『線路工事での折衝対応として、最も適切なものはどれか。』に対し、「施工者だけで全条件を決定する。」と判断した。

ア．A（廃棄物の分別を判断できる）・B（折衝対応の目的を説明できる）はいずれも適切である。

イ．B（折衝対応の目的を説明できる）だけが適切で、A（廃棄物の分別を判断できる）は誤っている。

ウ．A（廃棄物の分別を判断できる）だけが適切で、B（折衝対応の目的を説明できる）は誤っている。

エ．A（廃棄物の分別を判断できる）・B（折衝対応の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

0058

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『道路下で他企業管路と近接して施工する場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「他企業設備なので位置確認せず掘削する。」と判断した。

B：『建設工事で発生する副産物の管理として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「発生抑制、分別、再使用・再資源化、適正処理を工事計画に組み込む。」と判断した。

ア．A（関係者折衝を判断できる）・B（建設副産物の基本を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（関係者折衝を判断できる）だけが適切で、B（建設副産物の基本を説明できる）は誤っている。

ウ．A（関係者折衝を判断できる）・B（建設副産物の基本を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．B（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、A（関係者折衝を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（廃棄物の分別を判断できる）だけが適切で、B（折衝対応の目的を説明できる）は誤っている。」。A：混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。B：権利・安全・工程調整が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（廃棄物の分別を判断できる）だけが適切で、B（折衝対応の目的を説明できる）は誤っている。」。A：混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。B：権利・安全・工程調整が必要である。

ウ：適切。Aは正しい（混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。）。Bは誤り（権利・安全・工程調整が必要である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（廃棄物の分別を判断できる）だけが適切で、B（折衝対応の目的を説明できる）は誤っている。」。A：混合すると再資源化・適正処理が難しくなる。B：権利・安全・工程調整が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：廃棄物処理では発生から保管・運搬・処分まで適正管理する。Bの確認ポイント：折衝記録は施工条件・責任分担・変更履歴の証拠となる。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、A（関係者折衝を判断できる）は誤っている。」。A：損傷事故につながる。B：廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。

イ：不適切。正しい評価は「B（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、A（関係者折衝を判断できる）は誤っている。」。A：損傷事故につながる。B：廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。

ウ：不適切。正しい評価は「B（建設副産物の基本を説明できる）だけが適切で、A（関係者折衝を判断できる）は誤っている。」。A：損傷事故につながる。B：廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。

エ：適切。Aは誤り（損傷事故につながる。）。Bは正しい（廃棄物・再利用資材を適切に管理する必要がある。）。

総合解説：Aの確認ポイント：近接協議は安全・工程・責任分担を明確にする重要な施工前手続きである。Bの確認ポイント：施工計画には建設副産物の発生量・保管・運搬・処理方法を反映する。

0059

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『指定材料が供給停止となり、工程遅延を避けるため代替品を使いたい。最も適切な対応はどれか。』に対し、「代替品変更を記録しない。」と判断した。

B：『重要機器の納期が6か月で、工事開始まで4か月しかない。最も適切な対応はどれか。』に対し、「納期遅延は工程へ影響しない。」と判断した。

A：A（調達・工程・品質を総合判断できる）・B（長納期品の調達リスクを判断できる）はいずれも適切である。

イ：A（調達・工程・品質を総合判断できる）・B（長納期品の調達リスクを判断できる）はいずれも誤っている。

ウ：A（調達・工程・品質を総合判断できる）だけが適切で、B（長納期品の調達リスクを判断できる）は誤っている。

エ：B（長納期品の調達リスクを判断できる）だけが適切で、A（調達・工程・品質を総合判断できる）は誤っている。

0060

施工管理 > 調達・折衝・環境管理・建設副産物 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『大規模線路更新工事で撤去ケーブルや掘削土等が大量に発生する。最も適切な計画はどれか。』に対し、「発生量を事前推計し、分別、仮置き、再利用・再資源化、運搬・処理、記録まで工程化する。」と判断した。

B：『納入されたケーブルの型式が発注仕様と異なる。最も適切な対応はどれか。』に対し、「使用を保留して仕様差を確認し、承認された適合品が正式な変更手続きを経たものだけを使用する。」と判断した。

A：A（建設副産物を総合管理できる）だけが適切で、B（受入時の材料確認を判断できる）は誤っている。

イ：B（受入時の材料確認を判断できる）だけが適切で、A（建設副産物を総合管理できる）は誤っている。

ウ：A（建設副産物を総合管理できる）・B（受入時の材料確認を判断できる）はいずれも誤っている。

エ：A（建設副産物を総合管理できる）・B（受入時の材料確認を判断できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（調達・工程・品質を総合判断できる）・B（長納期品の調達リスクを判断できる）」はいずれも誤っている。」。A：構成管理・保守に支障が出る。B：施工不能となる可能性がある。

イ：適切。Aは誤り（構成管理・保守に支障が出る。）。Bは誤り（施工不能となる可能性がある。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（調達・工程・品質を総合判断できる）・B（長納期品の調達リスクを判断できる）」はいずれも誤っている。」。A：構成管理・保守に支障が出る。B：施工不能となる可能性がある。

エ：不適切。正しい評価は「A（調達・工程・品質を総合判断できる）・B（長納期品の調達リスクを判断できる）」はいずれも誤っている。」。A：構成管理・保守に支障が出る。B：施工不能となる可能性がある。

総合解説：Aの確認ポイント：代替調達は技術適合性、承認、記録を通じて品質を維持する。Bの確認ポイント：調達計画では長納期品を早期特定し、工程と連動して管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（建設副産物を総合管理できる）・B（受入時の材料確認を判断できる）」はいずれも適切である。」。A：処理能力や保管場所不足が工事停滞を招くため事前計画が必要である。B：誤材料の施工を防止する。

イ：不適切。正しい評価は「A（建設副産物を総合管理できる）・B（受入時の材料確認を判断できる）」はいずれも適切である。」。A：処理能力や保管場所不足が工事停滞を招くため事前計画が必要である。B：誤材料の施工を防止する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（建設副産物を総合管理できる）・B（受入時の材料確認を判断できる）」はいずれも適切である。」。A：処理能力や保管場所不足が工事停滞を招くため事前計画が必要である。B：誤材料の施工を防止する。

エ：適切。Aは正しい（処理能力や保管場所不足が工事停滞を招くため事前計画が必要である。）。Bは正しい（誤材料の施工を防止する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：建設副産物管理は施工計画・環境管理・調達物流と一体で行う。Bの確認ポイント：調達品は仕様、数量、外観、必要な証明書を受入時に確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0061

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『作業前にリスクアセスメントを実施する主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「危険性・有害性を特定し、リスクを見積もって優先順位を付け、低減措置へつなげる。」と判断した。

B：『吊り荷の下や重機旋回範囲など危険区域への対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「危険区域ほど自由に通行させる。」と判断した。

ア．A（リスクアセスメントの目的を説明で...）・B（立入禁止の目的を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（立入禁止の目的を判断できる）だけが適切で、A（リスクアセスメントの目的を説明で...）は誤っている。

ウ．A（リスクアセスメントの目的を説明で...）だけが適切で、B（立入禁止の目的を判断できる）は誤っている。

エ．A（リスクアセスメントの目的を説明で...）・B（立入禁止の目的を判断できる）はいずれも誤っている。

0062

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『リスクアセスメントにおける『危険源』と『リスク』の関係として、最も適切なものはどれか。』に対し、「危険源とリスクは常に完全に同じ意味である。」と判断した。

B：『個人用保護具の管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「作業リスクに適合する保護具を選び、正しい装着方法、点検・交換基準を管理する。」と判断した。

ア．A（危険源とリスクを区別できる）・B（保護具の使用条件を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（保護具の使用条件を判断できる）だけが適切で、A（危険源とリスクを区別できる）は誤っている。

ウ．A（危険源とリスクを区別できる）だけが適切で、B（保護具の使用条件を判断できる）は誤っている。

エ．A（危険源とリスクを区別できる）・B（保護具の使用条件を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（リスクアセスメントの目的を説明で...）だけが適切で、B（立入禁止の目的を判断できる）は誤っている。」。A：事故発生前に危険を体系的に把握し対策する。 B：接触・落下物事故の危険がある。

イ：不適切。正しい評価は「A（リスクアセスメントの目的を説明で...）だけが適切で、B（立入禁止の目的を判断できる）は誤っている。」。A：事故発生前に危険を体系的に把握し対策する。 B：接触・落下物事故の危険がある。

ウ：適切。Aは正しい（事故発生前に危険を体系的に把握し対策する。）。Bは誤り（接触・落下物事故の危険がある。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（リスクアセスメントの目的を説明で...）だけが適切で、B（立入禁止の目的を判断できる）は誤っている。」。A：事故発生前に危険を体系的に把握し対策する。 B：接触・落下物事故の危険がある。

総合解説：Aの確認ポイント：厚生労働省の指針でも、危険性・有害性の特定、リスク見積り、低減措置の検討が基本となる。Bの確認ポイント：危険区域管理は作業者だけでなく、同一場所で働く関係者や第三者も考慮する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（保護具の使用条件を判断できる）だけが適切で、A（危険源とリスクを区別できる）は誤っている。」。A：概念が異なる。 B：保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。

イ：適切。Aは誤り（概念が異なる。）。Bは正しい（保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（保護具の使用条件を判断できる）だけが適切で、A（危険源とリスクを区別できる）は誤っている。」。A：概念が異なる。 B：保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。

エ：不適切。正しい評価は「B（保護具の使用条件を判断できる）だけが適切で、A（危険源とリスクを区別できる）は誤っている。」。A：概念が異なる。 B：保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。

総合解説：Aの確認ポイント：危険源を漏れなく抽出し、作業条件ごとにリスクを評価することが重要である。Bの確認ポイント：保護具は最後の防護層の一つとして、他の安全対策と組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0063

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『安全衛生教育を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「事故後だけ実施する。」と判断した。

B：『日々の作業開始前に行う危険予知活動として、最も適切なものはどれか。』に対し、「工程遅延時はKYを省略する。」と判断した。

ア．A（安全衛生教育の意義を説明できる）・B（KY活動を判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（安全衛生教育の意義を説明できる）・B（KY活動を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（安全衛生教育の意義を説明できる）だけが適切で、B（KY活動を判断できる）は誤っている。

エ．B（KY活動を判断できる）だけが適切で、A（安全衛生教育の意義を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（作業前・変更時の教育が重要である。）。Bは誤り（忙しい時ほど事故リスクが高まる。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（安全衛生教育の意義を説明できる）・B（KY活動を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：作業前・変更時の教育が重要である。B：忙しい時ほど事故リスクが高まる。

ウ：不適切。正しい評価は「A（安全衛生教育の意義を説明できる）・B（KY活動を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：作業前・変更時の教育が重要である。B：忙しい時ほど事故リスクが高まる。

エ：不適切。正しい評価は「A（安全衛生教育の意義を説明できる）・B（KY活動を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：作業前・変更時の教育が重要である。B：忙しい時ほど事故リスクが高まる。

総合解説：Aの確認ポイント：安全衛生教育は設備・作業方法・危険有害要因の変化に合わせて更新する。Bの確認ポイント：KY活動は正式なリスクアセスメントを補完し、当日の変化を共有する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0064

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『ヒヤリハット事例を収集・分析する利点として、最も適切なものはどれか。』に対し、「重大事故に至らなかった危険な状況から、潜在的な事故要因を早期に把握できる。」と判断した。

B：『軽傷事故が発生した後の対応として、最も適切なものはどれか。』に対し、「応急対応後、直接原因と背景要因を分析し、手順・設備・教育などの再発防止策を実施する。」と判断した。

ア．A（ヒヤリハット活用を説明できる）だけが適切で、B（事故後の再発防止を判断できる）は誤っている。

イ．A（ヒヤリハット活用を説明できる）・B（事故後の再発防止を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（事故後の再発防止を判断できる）だけが適切で、A（ヒヤリハット活用を説明できる）は誤っている。

エ．A（ヒヤリハット活用を説明できる）・B（事故後の再発防止を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（ヒヤリハット活用を説明できる）・B（事故後の再発防止を判断できる）はいずれも適切である。」。A：軽微な予兆を再発防止へ活用する。B：個人の不注意だけに帰結せず仕組みを改善する。

イ：適切。Aは正しい（軽微な予兆を再発防止へ活用する。）。Bは正しい（個人の不注意だけに帰結せず仕組みを改善する。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（ヒヤリハット活用を説明できる）・B（事故後の再発防止を判断できる）はいずれも適切である。」。A：軽微な予兆を再発防止へ活用する。B：個人の不注意だけに帰結せず仕組みを改善する。

エ：不適切。正しい評価は「A（ヒヤリハット活用を説明できる）・B（事故後の再発防止を判断できる）はいずれも適切である。」。A：軽微な予兆を再発防止へ活用する。B：個人の不注意だけに帰結せず仕組みを改善する。

総合解説：Aの確認ポイント：ヒヤリハットは個人非難ではなく、作業手順・設備・教育改善へつなげる。Bの確認ポイント：事故調査は再発防止を目的に、設備・手順・管理・教育など複数層を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0065 安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『危険な作業への対策を検討する際、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「危険源の除去・代替や工学的対策を優先し、管理的対策・保護具も組み合わせる。」と判断した。

B：『同一現場で複数の請負業者が重機作業・高所作業・掘削を同時に行う。最も適切な安全管理はどれか。』に対し、「同時作業を増やすほど必ず安全になる。」と判断した。

A：A（リスク低減の優先順位を判断できる）だけが適切で、B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）は誤っている。

I：A（リスク低減の優先順位を判断できる）・B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）はいずれも適切である。

U：B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）だけが適切で、A（リスク低減の優先順位を判断できる）は誤っている。

E：A（リスク低減の優先順位を判断できる）・B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ア

ア：適切。Aは正しい（個人用保護具だけに依存せず、より上流の対策を検討する。）。Bは誤り（リスクが増える場合がある。）。

I：不適切。正しい評価は「A（リスク低減の優先順位を判断できる）だけが適切で、B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）は誤っている。」。A：個人用保護具だけに依存せず、より上流の対策を検討する。B：リスクが増える場合がある。

U：不適切。正しい評価は「A（リスク低減の優先順位を判断できる）だけが適切で、B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）は誤っている。」。A：個人用保護具だけに依存せず、より上流の対策を検討する。B：リスクが増える場合がある。

E：不適切。正しい評価は「A（リスク低減の優先順位を判断できる）だけが適切で、B（複数業者の安全管理を総合判断でき...）は誤っている。」。A：個人用保護具だけに依存せず、より上流の対策を検討する。B：リスクが増える場合がある。

総合解説：Aの確認ポイント：リスク低減は設備・工法・手順・教育・保護具を階層的に組み合わせる。Bの確認ポイント：複数事業者が同一場所で作業する場合は、相互の危険を含む協調安全管理が必要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0066 安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『当初計画と異なる施工機械へ変更することになった。安全管理として最も適切な対応はどれか。』に対し、「作業開始後に初めて操作方法を確認する。」と判断した。

B：『リスク低減措置を実施した後の対応として、最も適切なものはどれか。』に対し、「対策後の残留リスクを再評価し、許容できない場合は追加対策を行い、結果を周知・記録する。」と判断した。

A：B（安全対策の有効性を総合評価できる）だけが適切で、A（作業変更時の再評価を判断できる）は誤っている。

I：A（作業変更時の再評価を判断できる）・B（安全対策の有効性を総合評価できる）はいずれも適切である。

U：A（作業変更時の再評価を判断できる）だけが適切で、B（安全対策の有効性を総合評価できる）は誤っている。

E：A（作業変更時の再評価を判断できる）・B（安全対策の有効性を総合評価できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ア

ア：適切。Aは誤り（事前確認が必要である。）。Bは正しい（対策を実施しただけで評価を終えない。）。

I：不適切。正しい評価は「B（安全対策の有効性を総合評価できる）だけが適切で、A（作業変更時の再評価を判断できる）は誤っている。」。A：事前確認が必要である。B：対策を実施しただけで評価を終えない。

U：不適切。正しい評価は「B（安全対策の有効性を総合評価できる）だけが適切で、A（作業変更時の再評価を判断できる）は誤っている。」。A：事前確認が必要である。B：対策を実施しただけで評価を終えない。

E：不適切。正しい評価は「B（安全対策の有効性を総合評価できる）だけが適切で、A（作業変更時の再評価を判断できる）は誤っている。」。A：事前確認が必要である。B：対策を実施しただけで評価を終えない。

総合解説：Aの確認ポイント：設備・材料・工法・人員・周辺条件の変更は安全評価の見直し契機となる。Bの確認ポイント：リスクアセスメントは特定・評価・低減・再評価・見直しの循環として運用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0067

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『吊り荷の下や重機旋回範囲など危険区域への対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「表示だけ設置し、実際の管理は不要である。」と判断した。

B：『作業前にリスクアセスメントを実施する主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「事故が起きた後だけ原因を記録する。」と判断した。

ア．A（立入禁止の目的を判断できる）・B（リスクアセスメントの目的を説明で...）はいずれも適切である。

イ．A（立入禁止の目的を判断できる）・B（リスクアセスメントの目的を説明で...）はいずれも誤っている。

ウ．A（立入禁止の目的を判断できる）だけが適切で、B（リスクアセスメントの目的を説明で...）は誤っている。

エ．B（リスクアセスメントの目的を説明で...）だけが適切で、A（立入禁止の目的を判断できる）は誤っている。

0068

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『個人用保護具の管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「作業リスクに適合する保護具を選び、正しい装着方法、点検・交換基準を管理する。」と判断した。

B：『リスクアセスメントにおける『危険源』と『リスク』の関係として、最も適切なものはどれか。』に対し、「危険源は危害を生じ得る要因で、リスクは危害の発生可能性と重篤度などを踏まえた大きさである。」と判断した。

ア．A（保護具の使用条件を判断できる）・B（危険源とリスクを区別できる）はいずれも適切である。

イ．A（保護具の使用条件を判断できる）だけが適切で、B（危険源とリスクを区別できる）は誤っている。

ウ．B（危険源とリスクを区別できる）だけが適切で、A（保護具の使用条件を判断できる）は誤っている。

エ．A（保護具の使用条件を判断できる）・B（危険源とリスクを区別できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（立入禁止の目的を判断できる）・B（リスクアセスメントの目的を説明で...）はいずれも誤っている。」。A：実効性のある措置が必要である。B：事前予防が重要な目的である。

イ：適切。Aは誤り（実効性のある措置が必要である。）。Bは誤り（事前予防が重要な目的である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（立入禁止の目的を判断できる）・B（リスクアセスメントの目的を説明で...）はいずれも誤っている。」。A：実効性のある措置が必要である。B：事前予防が重要な目的である。

エ：不適切。正しい評価は「A（立入禁止の目的を判断できる）・B（リスクアセスメントの目的を説明で...）はいずれも誤っている。」。A：実効性のある措置が必要である。B：事前予防が重要な目的である。

総合解説：Aの確認ポイント：危険区域管理は作業者だけでなく、同一場所で働く関係者や第三者も考慮する。Bの確認ポイント：厚生労働省の指針でも、危険性・有害性の特定、リスク見積り、低減措置の検討が基本となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。）。Bは正しい（危険源そのものと、そこから生じるリスクは区別する。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（保護具の使用条件を判断できる）・B（危険源とリスクを区別できる）はいずれも適切である。」。A：保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。B：危険源そのものと、そこから生じるリスクは区別する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（保護具の使用条件を判断できる）・B（危険源とリスクを区別できる）はいずれも適切である。」。A：保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。B：危険源そのものと、そこから生じるリスクは区別する。

エ：不適切。正しい評価は「A（保護具の使用条件を判断できる）・B（危険源とリスクを区別できる）はいずれも適切である。」。A：保護具は適切に選択・使用・維持して初めて効果がある。B：危険源そのものと、そこから生じるリスクは区別する。

総合解説：Aの確認ポイント：保護具は最後の防護層の一つとして、他の安全対策と組み合わせる。Bの確認ポイント：危険源を漏れなく抽出し、作業条件ごとにリスクを評価することが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0069

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『日々の作業開始前に行う危険予知活動として、最も適切なものはどれか。』に対し、「当日の作業・天候・人員・周辺状況から具体的な危険を共有し、重点対策を確認する。」と判断した。

B：『安全衛生教育を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「施工図を読ませないことを目的とする。」と判断した。

ア．A（KY活動を判断できる）・B（安全衛生教育の意義を説明できる）はいずれも適切である。

イ．B（安全衛生教育の意義を説明できる）だけが適切で、A（KY活動を判断できる）は誤っている。

ウ．A（KY活動を判断できる）・B（安全衛生教育の意義を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（KY活動を判断できる）だけが適切で、B（安全衛生教育の意義を説明できる）は誤っている。

0070

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『軽傷事故が発生した後の対応として、最も適切なものはどれか。』に対し、「原因分析前に同じ作業を無条件で再開する。」と判断した。

B：『ヒヤリハット事例を収集・分析する利点として、最も適切なものはどれか。』に対し、「重大事故に至らなかった危険な状況から、潜在的な事故要因を早期に把握できる。」と判断した。

ア．A（事故後の再発防止を判断できる）・B（ヒヤリハット活用を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（事故後の再発防止を判断できる）だけが適切で、B（ヒヤリハット活用を説明できる）は誤っている。

ウ．A（事故後の再発防止を判断できる）・B（ヒヤリハット活用を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．B（ヒヤリハット活用を説明できる）だけが適切で、A（事故後の再発防止を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（KY活動を判断できる）だけが適切で、B（安全衛生教育の意義を説明できる）は誤っている。」。A：日々変わる作業条件を反映することが重要である。B：安全な作業遂行が目的である。

イ：不適切。正しい評価は「A（KY活動を判断できる）だけが適切で、B（安全衛生教育の意義を説明できる）は誤っている。」。A：日々変わる作業条件を反映することが重要である。B：安全な作業遂行が目的である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（KY活動を判断できる）だけが適切で、B（安全衛生教育の意義を説明できる）は誤っている。」。A：日々変わる作業条件を反映することが重要である。B：安全な作業遂行が目的である。

エ：適切。Aは正しい（日々変わる作業条件を反映することが重要である。）。Bは誤り（安全な作業遂行が目的である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：KY活動は正式なリスクアセスメントを補完し、当日の変化を共有する。Bの確認ポイント：安全衛生教育は設備・作業方法・危険有害要因の変化に合わせて更新する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（ヒヤリハット活用を説明できる）だけが適切で、A（事故後の再発防止を判断できる）は誤っている。」。A：安全確認が必要である。B：軽微な予兆を再発防止へ活用する。

イ：不適切。正しい評価は「B（ヒヤリハット活用を説明できる）だけが適切で、A（事故後の再発防止を判断できる）は誤っている。」。A：安全確認が必要である。B：軽微な予兆を再発防止へ活用する。

ウ：不適切。正しい評価は「B（ヒヤリハット活用を説明できる）だけが適切で、A（事故後の再発防止を判断できる）は誤っている。」。A：安全確認が必要である。B：軽微な予兆を再発防止へ活用する。

エ：適切。Aは誤り（安全確認が必要である。）。Bは正しい（軽微な予兆を再発防止へ活用する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：事故調査は再発防止を目的に、設備・手順・管理・教育など複数層を確認する。Bの確認ポイント：ヒヤリハットは個人非難ではなく、作業手順・設備・教育改善へつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0071

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『同一現場で複数の請負業者が重機作業・高所作業・掘削を同時に行う。最も適切な安全管理はどれか。』に対し、「各社が自社作業だけ見れば相互調整は不要である。」と判断した。

B：『危険な作業への対策を検討する際、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「作業手順は危険源対策と無関係である。」と判断した。

ア．A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）・B（リスク低減の優先順位を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）だけが適切で、B（リスク低減の優先順位を判断できる）は誤っている。

ウ．A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）・B（リスク低減の優先順位を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（リスク低減の優先順位を判断できる）だけが適切で、A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）・B（リスク低減の優先順位を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：干渉事故の原因となる。 B：管理的対策として重要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）・B（リスク低減の優先順位を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：干渉事故の原因となる。 B：管理的対策として重要である。

ウ：適切。Aは誤り（干渉事故の原因となる。）。Bは誤り（管理的対策として重要である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（複数業者の安全管理を総合判断でき...）・B（リスク低減の優先順位を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：干渉事故の原因となる。 B：管理的対策として重要である。

総合解説：Aの確認ポイント：複数事業者が同一場所で作業する場合は、相互の危険を含む協調安全管理が必要である。 Bの確認ポイント：リスク低減は設備・工法・手順・教育・保護具を階層的に組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0072

安全・環境・施工実務 > 労働安全衛生・リスクアセスメント | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『リスク低減措置を実施した後の対応として、最も適切なものはどれか。』に対し、「対策後の残留リスクを再評価し、許容できない場合は追加対策を行い、結果を周知・記録する。」と判断した。

B：『当初計画と異なる施工機械へ変更することになった。安全管理として最も適切な対応はどれか。』に対し、「新しい機械の危険源・作業範囲・必要資格や手順を確認し、リスクアセスメントを見直す。」と判断した。

ア．A（安全対策の有効性を総合評価できる）だけが適切で、B（作業変更時の再評価を判断できる）は誤っている。

イ．A（安全対策の有効性を総合評価できる）・B（作業変更時の再評価を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（作業変更時の再評価を判断できる）だけが適切で、A（安全対策の有効性を総合評価できる）は誤っている。

エ．A（安全対策の有効性を総合評価できる）・B（作業変更時の再評価を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（安全対策の有効性を総合評価できる）・B（作業変更時の再評価を判断できる）はいずれも適切である。」。A：対策を実施しただけで評価を終えない。 B：条件変更時には既存評価をそのまま使わない。

イ：適切。Aは正しい（対策を実施しただけで評価を終えない。）。Bは正しい（条件変更時には既存評価をそのまま使わない。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（安全対策の有効性を総合評価できる）・B（作業変更時の再評価を判断できる）はいずれも適切である。」。A：対策を実施しただけで評価を終えない。 B：条件変更時には既存評価をそのまま使わない。

エ：不適切。正しい評価は「A（安全対策の有効性を総合評価できる）・B（作業変更時の再評価を判断できる）はいずれも適切である。」。A：対策を実施しただけで評価を終えない。 B：条件変更時には既存評価をそのまま使わない。

総合解説：Aの確認ポイント：リスクアセスメントは特定・評価・低減・再評価・見直しの循環として運用する。 Bの確認ポイント：設備・材料・工法・人員・周辺条件の変更は安全評価の見直し契機となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0073 安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：『電柱や高所作業車を用いる作業で、代表的に管理すべき危険はどれか。』に対し、「作業者の墜落、工具・材料の落下、周辺設備との接触である。」と判断した。
B：『狭い道路でバックホウを使用して掘削する場合、最も適切な安全管理はどれか。』に対し、「作業員は重機の直後で自由に歩いてよい。」と判断した。
ア・A（高所作業の主要危険を説明できる）・B（重機作業の接触防止を判断できる）はいずれも適切である。
イ・B（重機作業の接触防止を判断できる）だけが適切で、A（高所作業の主要危険を説明できる）は誤っている。
ウ・A（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、B（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。
エ・A（高所作業の主要危険を説明できる）・B（重機作業の接触防止を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、B（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。」。A：高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。B：死角となり危険である。
イ：不適切。正しい評価は「A（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、B（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。」。A：高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。B：死角となり危険である。
ウ：適切。Aは正しい（高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。）。Bは誤り（死角となり危険である。）。
エ：不適切。正しい評価は「A（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、B（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。」。A：高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。B：死角となり危険である。
総合解説：Aの確認ポイント：高所作業では作業床・墜落防止・落下物防止・立入管理を組み合わせる。Bの確認ポイント：重機作業では人車分離、合図統一、死角管理が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0074 安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。
A：『道路掘削作業で特に注意すべき危険として、最も適切なものはどれか。』に対し、「掘削深さや土質は安全へ影響しない。」と判断した。
B：『夜間の道路上工事で最も適切な安全対策はどれか。』に対し、「規制材・標識・作業員の視認性を確保し、照明のまぶしさや交通流も考慮する。」と判断した。
ア・A（掘削作業の主要危険を説明できる）・B（道路規制の視認性を判断できる）はいずれも適切である。
イ・A（掘削作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、B（道路規制の視認性を判断できる）は誤っている。
ウ・A（掘削作業の主要危険を説明できる）・B（道路規制の視認性を判断できる）はいずれも誤っている。
エ・B（道路規制の視認性を判断できる）だけが適切で、A（掘削作業の主要危険を説明できる）は誤っている。

答え・解説 正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（道路規制の視認性を判断できる）だけが適切で、A（掘削作業の主要危険を説明できる）は誤っている。」。A：崩壊リスクへ影響する。B：夜間は視認距離低下を補う必要がある。
イ：不適切。正しい評価は「B（道路規制の視認性を判断できる）だけが適切で、A（掘削作業の主要危険を説明できる）は誤っている。」。A：崩壊リスクへ影響する。B：夜間は視認距離低下を補う必要がある。
ウ：不適切。正しい評価は「B（道路規制の視認性を判断できる）だけが適切で、A（掘削作業の主要危険を説明できる）は誤っている。」。A：崩壊リスクへ影響する。B：夜間は視認距離低下を補う必要がある。
エ：適切。Aは誤り（崩壊リスクへ影響する。）。Bは正しい（夜間は視認距離低下を補う必要がある。）。
総合解説：Aの確認ポイント：掘削作業では地盤、山留め、湧水、重機、既設物、第三者安全を事前評価する。Bの確認ポイント：夜間規制は接近車両が十分早く工事帯を認知・回避できるよう計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0075

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『供用中道路上で通信工事を行う際の代表的な危険はどれか。』に対し、「車両が通行中でも規制設備は不要である。」と判断した。

B：『高所作業中に突風と雷の接近が確認された。最も適切な対応はどれか。』に対し、「突風時ほど資材を高所へ上げる。」と判断した。

ア．A（道路上作業の主要危険を説明できる）・B（天候による作業中止を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（道路上作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、B（天候による作業中止を判断できる）は誤っている。

ウ．A（道路上作業の主要危険を説明できる）・B（天候による作業中止を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（天候による作業中止を判断できる）だけが適切で、A（道路上作業の主要危険を説明できる）は誤っている。

0076

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『高所作業を開始する前の確認として、最も適切なものはどれか。』に対し、「作業床・昇降設備・墜落防止設備・工具落下防止・天候を確認する。」と判断した。

B：『交通量の多い道路沿いで高所作業車を使って架空ケーブル工事を行う。最も適切な計画はどれか。』に対し、「交通規制、車両設置安定性、上空設備との離隔、墜落・落下物防止、歩行者動線を一体で計画する。」と判断した。

ア．A（高所作業開始条件を判断できる）だけが適切で、B（高所・道路作業を総合管理できる）は誤っている。

イ．B（高所・道路作業を総合管理できる）だけが適切で、A（高所作業開始条件を判断できる）は誤っている。

ウ．A（高所作業開始条件を判断できる）・B（高所・道路作業を総合管理できる）はいずれも適切である。

エ．A（高所作業開始条件を判断できる）・B（高所・道路作業を総合管理できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（道路上作業の主要危険を説明できる）・B（天候による作業中止を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：適切な交通規制が必要である。B：落下・転倒リスクが高い。

イ：不適切。正しい評価は「A（道路上作業の主要危険を説明できる）・B（天候による作業中止を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：適切な交通規制が必要である。B：落下・転倒リスクが高い。

ウ：適切。Aは誤り（適切な交通規制が必要である。）。Bは誤り（落下・転倒リスクが高い。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（道路上作業の主要危険を説明できる）・B（天候による作業中止を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：適切な交通規制が必要である。B：落下・転倒リスクが高い。

総合解説：Aの確認ポイント：道路工事では規制計画、標識、誘導、照明、作業帯防護を現場条件に合わせる。Bの確認ポイント：作業中止基準と退避方法を事前に定め、気象急変へ対応する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（高所作業開始条件を判断できる）・B（高所・道路作業を総合管理できる）はいずれも適切である。」。A：作業者と地上側双方の安全条件を確認する。B：道路交通と高所作業のリスクが重なる。

イ：不適切。正しい評価は「A（高所作業開始条件を判断できる）・B（高所・道路作業を総合管理できる）はいずれも適切である。」。A：作業者と地上側双方の安全条件を確認する。B：道路交通と高所作業のリスクが重なる。

ウ：適切。Aは正しい（作業者と地上側双方の安全条件を確認する。）。Bは正しい（道路交通と高所作業のリスクが重なる。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（高所作業開始条件を判断できる）・B（高所・道路作業を総合管理できる）はいずれも適切である。」。A：作業者と地上側双方の安全条件を確認する。B：道路交通と高所作業のリスクが重なる。

総合解説：Aの確認ポイント：高所作業は設備状態・気象・周辺立入を含めて開始可否を判断する。Bの確認ポイント：複合作業では危険を個別ではなく相互作用まで含めて評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0077

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『地盤が崩れやすい箇所で掘削を行う場合、最も適切な対策はどれか。』に対し、「地盤条件に応じた山留めや法面勾配を計画し、変状・湧水を監視する。」と判断した。

B：『繁華街の車道で地下通信管路を開削する。最も適切な安全管理はどれか。』に対し、「道路規制と掘削安全は別なので連携不要である。」と判断した。

ア．A（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）は誤っている。

イ．A（掘削崩壊対策を判断できる）・B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）はいずれも適切である。

ウ．B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）だけが適切で、A（掘削崩壊対策を判断できる）は誤っている。

エ．A（掘削崩壊対策を判断できる）・B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）はいずれも誤っている。

0078

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『狭い道路でバックホウを使用して掘削する場合、最も適切な安全管理はどれか。』に対し、「運転者だけ注意すれば立入管理は不要である。」と判断した。

B：『電柱や高所作業車をを用いる作業で、代表的に管理すべき危険はどれか。』に対し、「作業者の墜落、工具・材料の落下、周辺設備との接触である。」と判断した。

ア．A（重機作業の接触防止を判断できる）・B（高所作業の主要危険を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（重機作業の接触防止を判断できる）だけが適切で、B（高所作業の主要危険を説明できる）は誤っている。

ウ．B（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、A（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。

エ．A（重機作業の接触防止を判断できる）・B（高所作業の主要危険を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（崩壊防止は掘削安全の基本である。）。Bは誤り（作業帯配置へ相互影響する。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）は誤っている。」。A：崩壊防止は掘削安全の基本である。B：作業帯配置へ相互影響する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）は誤っている。」。A：崩壊防止は掘削安全の基本である。B：作業帯配置へ相互影響する。

エ：不適切。正しい評価は「A（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、B（掘削・埋設物・交通を総合管理でき…）は誤っている。」。A：崩壊防止は掘削安全の基本である。B：作業帯配置へ相互影響する。

総合解説：Aの確認ポイント：掘削条件が変化した場合は作業を止め、支保・排水条件を再評価する。Bの確認ポイント：都市部施工では作業者安全、第三者安全、既設設備保護を同時に成立させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、A（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。」。A：複数防護が必要である。B：高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。

イ：不適切。正しい評価は「B（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、A（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。」。A：複数防護が必要である。B：高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。

ウ：適切。Aは誤り（複数防護が必要である。）。Bは正しい（高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（高所作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、A（重機作業の接触防止を判断できる）は誤っている。」。A：複数防護が必要である。B：高所では人・物の落下と周辺接触を重点管理する。

総合解説：Aの確認ポイント：重機作業では人車分離、合図統一、死角管理が重要である。Bの確認ポイント：高所作業では作業床・墜落防止・落下物防止・立入管理を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0079

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『夜間の道路上工事で最も適切な安全対策はどれか。』に対し、「作業員の反射性装備は不要である。」と判断した。

B：『道路掘削作業で特に注意すべき危険として、最も適切なものはどれか。』に対し、「掘削深さや土質は安全へ影響しない。」と判断した。

ア．A（道路規制の視認性を判断できる）・B（掘削作業の主要危険を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（道路規制の視認性を判断できる）だけが適切で、B（掘削作業の主要危険を説明できる）は誤っている。

ウ．B（掘削作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、A（道路規制の視認性を判断できる）は誤っている。

エ．A（道路規制の視認性を判断できる）・B（掘削作業の主要危険を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（道路規制の視認性を判断できる）・B（掘削作業の主要危険を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：視認性確保に重要である。B：崩壊リスクへ影響する。

イ：不適切。正しい評価は「A（道路規制の視認性を判断できる）・B（掘削作業の主要危険を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：視認性確保に重要である。B：崩壊リスクへ影響する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（道路規制の視認性を判断できる）・B（掘削作業の主要危険を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：視認性確保に重要である。B：崩壊リスクへ影響する。

エ：適切。Aは誤り（視認性確保に重要である。）。Bは誤り（崩壊リスクへ影響する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：夜間規制は接近車両が十分早く工事帯を認知・回避できるよう計画する。Bの確認ポイント：掘削作業では地盤、山留め、湧水、重機、既設物、第三者安全を事前評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0080

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『高所作業中に突風と雷の接近が確認された。最も適切な対応はどれか。』に対し、「安全な状態へ作業を移行して退避し、気象条件が回復して再評価するまで再開しない。」と判断した。

B：『供用中道路上で通信工事を行う際の代表的な危険はどれか。』に対し、「通行車両との接触、規制内への進入、歩行者の転倒・迂回時事故などである。」と判断した。

ア．A（天候による作業中止を判断できる）だけが適切で、B（道路上作業の主要危険を説明できる）は誤っている。

イ．B（道路上作業の主要危険を説明できる）だけが適切で、A（天候による作業中止を判断できる）は誤っている。

ウ．A（天候による作業中止を判断できる）・B（道路上作業の主要危険を説明できる）はいずれも適切である。

エ．A（天候による作業中止を判断できる）・B（道路上作業の主要危険を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（天候による作業中止を判断できる）・B（道路上作業の主要危険を説明できる）はいずれも適切である。」。A：気象変化は高所・電気・クレーン等の事故リスクを急増させる。B：作業員だけでなく道路利用者の安全も確保する。

イ：不適切。正しい評価は「A（天候による作業中止を判断できる）・B（道路上作業の主要危険を説明できる）はいずれも適切である。」。A：気象変化は高所・電気・クレーン等の事故リスクを急増させる。B：作業員だけでなく道路利用者の安全も確保する。

ウ：適切。Aは正しい（気象変化は高所・電気・クレーン等の事故リスクを急増させる。）。Bは正しい（作業員だけでなく道路利用者の安全も確保する。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（天候による作業中止を判断できる）・B（道路上作業の主要危険を説明できる）はいずれも適切である。」。A：気象変化は高所・電気・クレーン等の事故リスクを急増させる。B：作業員だけでなく道路利用者の安全も確保する。

総合解説：Aの確認ポイント：作業中止基準と退避方法を事前に定め、気象急変へ対応する。Bの確認ポイント：道路工事では規制計画、標識、誘導、照明、作業帯防護を現場条件に合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0081

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『交通量の多い道路沿いで高所作業車を使って架空ケーブル工事を行う。最も適切な計画はどれか。』に対し、「交通規制、車両設置安定性、上空設備との離隔、墜落・落下物防止、歩行者動線を一体で計画する。」と判断した。

B：『高所作業を開始する前の確認として、最も適切なものはどれか。』に対し、「工具の落下防止は高所作業と無関係である。」と判断した。

ア．A（高所・道路作業を総合管理できる）・B（高所作業開始条件を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（高所作業開始条件を判断できる）だけが適切で、A（高所・道路作業を総合管理できる）は誤っている。

ウ．A（高所・道路作業を総合管理できる）・B（高所作業開始条件を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．A（高所・道路作業を総合管理できる）だけが適切で、B（高所作業開始条件を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（高所・道路作業を総合管理できる）だけが適切で、B（高所作業開始条件を判断できる）は誤っている。」。A：道路交通と高所作業のリスクが重なる。B：第三者災害防止に重要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（高所・道路作業を総合管理できる）だけが適切で、B（高所作業開始条件を判断できる）は誤っている。」。A：道路交通と高所作業のリスクが重なる。B：第三者災害防止に重要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（高所・道路作業を総合管理できる）だけが適切で、B（高所作業開始条件を判断できる）は誤っている。」。A：道路交通と高所作業のリスクが重なる。B：第三者災害防止に重要である。

エ：適切。Aは正しい（道路交通と高所作業のリスクが重なる。）。Bは誤り（第三者災害防止に重要である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：複合作業では危険を個別ではなく相互作用まで含めて評価する。Bの確認ポイント：高所作業は設備状態・気象・周辺立入を含めて開始可否を判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0082

安全・環境・施工実務 > 高所作業・掘削・道路上作業 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『繁華街の車道で地下通信管路を開削する。最も適切な安全管理はどれか。』に対し、「人通りが多いほど防護柵を減らす。」と判断した。

B：『地盤が崩れやすい箇所掘削を行う場合、最も適切な対策はどれか。』に対し、「地盤条件に応じた山留めや法面勾配を計画し、変状・湧水を監視する。」と判断した。

ア．A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）・B（掘削崩壊対策を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）だけが適切で、B（掘削崩壊対策を判断できる）は誤っている。

ウ．B（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）は誤っている。

エ．A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）・B（掘削崩壊対策を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）は誤っている。」。A：第三者保護を強化する。B：崩壊防止は掘削安全の基本である。

イ：不適切。正しい評価は「B（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）は誤っている。」。A：第三者保護を強化する。B：崩壊防止は掘削安全の基本である。

ウ：適切。Aは誤り（第三者保護を強化する。）。Bは正しい（崩壊防止は掘削安全の基本である。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（掘削崩壊対策を判断できる）だけが適切で、A（掘削・埋設物・交通を総合管理でき...）は誤っている。」。A：第三者保護を強化する。B：崩壊防止は掘削安全の基本である。

総合解説：Aの確認ポイント：都市部施工では作業者安全、第三者安全、既設設備保護を同時に成立させる。Bの確認ポイント：掘削条件が変化した場合は作業を止め、支保・排水条件を再評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0083

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『道路に通信管路や電線等を継続的に設置する場合の道路占用について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「道路占用は私有地内設備だけを対象とする。」と判断した。

B：『工事廃棄物の処理を外部業者へ委託する場合、最も適切な管理はどれか。』に対し、「最も安い無許可業者へ渡せばよい。」と判断した。

ア．A（道路占用の基本を説明できる）・B（廃棄物処理の委託を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（道路占用の基本を説明できる）だけが適切で、B（廃棄物処理の委託を判断できる）は誤っている。

ウ．B（廃棄物処理の委託を判断できる）だけが適切で、A（道路占用の基本を説明できる）は誤っている。

エ．A（道路占用の基本を説明できる）・B（廃棄物処理の委託を判断できる）はいずれも誤っている。

0084

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『他企業の地下管路・ガス管・電力設備等の近くで工事する際に近接協議を行う主な目的はどれか。』に対し、「既設設備の位置・防護・立会・施工条件を確認し、損傷事故を防止するためである。」と判断した。

B：『撤去した通信資材を再使用する場合の判断として、最も適切なものはどれか。』に対し、「性能・劣化・安全性・仕様適合を確認し、再使用基準を満たすものだけを再利用する。」と判断した。

ア．A（近接協議の目的を説明できる）だけが適切で、B（撤去材の再利用可否を判断できる）は誤っている。

イ．A（近接協議の目的を説明できる）・B（撤去材の再利用可否を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（撤去材の再利用可否を判断できる）だけが適切で、A（近接協議の目的を説明できる）は誤っている。

エ．A（近接協議の目的を説明できる）・B（撤去材の再利用可否を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（道路占用の基本を説明できる）・B（廃棄物処理の委託を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：道路空間の特別使用に関する制度である。B：不適正処理の原因となる。

イ：不適切。正しい評価は「A（道路占用の基本を説明できる）・B（廃棄物処理の委託を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：道路空間の特別使用に関する制度である。B：不適正処理の原因となる。

ウ：不適切。正しい評価は「A（道路占用の基本を説明できる）・B（廃棄物処理の委託を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：道路空間の特別使用に関する制度である。B：不適正処理の原因となる。

エ：適切。Aは誤り（道路空間の特別使用に関する制度である。）。Bは誤り（不適正処理の原因となる。）。

総合解説：Aの確認ポイント：道路占用では位置・構造・期間・工事方法などについて道路管理者との調整が必要となる。Bの確認ポイント：廃棄物処理は発生者側でも処理ルートを把握し、法令に沿った管理を行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（近接協議の目的を説明できる）・B（撤去材の再利用可否を判断できる）はいずれも適切である。」。A：近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。B：再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。

イ：適切。Aは正しい（近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。）。Bは正しい（再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（近接協議の目的を説明できる）・B（撤去材の再利用可否を判断できる）はいずれも適切である。」。A：近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。B：再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（近接協議の目的を説明できる）・B（撤去材の再利用可否を判断できる）はいずれも適切である。」。A：近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。B：再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：協議結果は施工計画・図面・現場周知へ反映する。Bの確認ポイント：資源循環と設備品質を両立するため、再使用基準と記録を明確にする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0085

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『施工中に通信管路の位置を当初の道路占用条件から変更する必要が生じた。最も適切な対応はどれか。』に対し、「道路管理者と変更内容を協議し、必要な変更手続きを済ませてから施工へ反映する。」と判断した。

B：『幹線道路で通信管路を新設する工事を計画する。最も適切な施工前管理はどれか。』に対し、「工事開始後に道路管理者へ初めて連絡する。」と判断した。

ア．A（占用条件変更を判断できる）・B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）はいずれも適切である。

イ．B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）だけが適切で、A（占用条件変更を判断できる）は誤っている。

ウ．A（占用条件変更を判断できる）だけが適切で、B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）は誤っている。

エ．A（占用条件変更を判断できる）・B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（占用条件変更を判断できる）だけが適切で、B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）は誤っている。」。A：許可条件と異なる施工を無断で行ってはならない。B：事前手続きが必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（占用条件変更を判断できる）だけが適切で、B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）は誤っている。」。A：許可条件と異なる施工を無断で行ってはならない。B：事前手続きが必要である。

ウ：適切。Aは正しい（許可条件と異なる施工を無断で行ってはならない。）。Bは誤り（事前手続きが必要である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（占用条件変更を判断できる）だけが適切で、B（道路工事の許認可・安全を総合判断...）は誤っている。」。A：許可条件と異なる施工を無断で行ってはならない。B：事前手続きが必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：道路内設備の変更は許認可・設計図書・設備記録を整合させる。Bの確認ポイント：道路上の線路工事は許認可・交通・地下設備・施工安全を横断管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0086

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『道路掘削箇所に複数企業の埋設物が集中している。最も適切な施工前対応はどれか。』に対し、「埋設物が多いほど大型重機で一気に掘削する。」と判断した。

B：『道路内通信工事を完了する際の最終確認として、最も適切なものはどれか。』に対し、「占用位置・完成図、道路復旧、残材・廃棄物処理、周辺清掃、関係者への完了報告を確認する。」と判断した。

ア．B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）だけが適切で、A（掘削前協議を判断できる）は誤っている。

イ．A（掘削前協議を判断できる）・B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）はいずれも適切である。

ウ．A（掘削前協議を判断できる）だけが適切で、B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）は誤っている。

エ．A（掘削前協議を判断できる）・B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（慎重な施工が必要である。）。Bは正しい（完成設備だけでなく道路・環境・記録の復旧を確認する。）。

イ：不適切。正しい評価は「B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）だけが適切で、A（掘削前協議を判断できる）は誤っている。」。A：慎重な施工が必要である。B：完成設備だけでなく道路・環境・記録の復旧を確認する。

ウ：不適切。正しい評価は「B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）だけが適切で、A（掘削前協議を判断できる）は誤っている。」。A：慎重な施工が必要である。B：完成設備だけでなく道路・環境・記録の復旧を確認する。

エ：不適切。正しい評価は「B（施工終了時の環境・占用管理を総合...）だけが適切で、A（掘削前協議を判断できる）は誤っている。」。A：慎重な施工が必要である。B：完成設備だけでなく道路・環境・記録の復旧を確認する。

総合解説：Aの確認ポイント：高密度埋設区間では関係者協議と現地確認が安全の要となる。Bの確認ポイント：工事完了時は設備品質、道路原状回復、環境管理、記録整備まで完了させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0087

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『工事廃棄物の処理を外部業者へ委託する場合、最も適切な管理はどれか。』に対し、「最も安い無許可業者へ渡せばよい。」と判断した。

B：『道路に通信管路や電線等を継続的に設置する場合の道路占用について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「道路占用は工事完成後にだけ申請する。」と判断した。

A．A（廃棄物処理の委託を判断できる）・B（道路占用の基本を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（廃棄物処理の委託を判断できる）だけが適切で、B（道路占用の基本を説明できる）は誤っている。

ウ．A（廃棄物処理の委託を判断できる）・B（道路占用の基本を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．B（道路占用の基本を説明できる）だけが適切で、A（廃棄物処理の委託を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（廃棄物処理の委託を判断できる）・B（道路占用の基本を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：不適正処理の原因となる。 B：あらかじめ必要な手続きを行う。

イ：不適切。正しい評価は「A（廃棄物処理の委託を判断できる）・B（道路占用の基本を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：不適正処理の原因となる。 B：あらかじめ必要な手続きを行う。

ウ：適切。Aは誤り（不適正処理の原因となる。）。Bは誤り（あらかじめ必要な手続きを行う。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（廃棄物処理の委託を判断できる）・B（道路占用の基本を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：不適正処理の原因となる。 B：あらかじめ必要な手続きを行う。

総合解説：Aの確認ポイント：廃棄物処理は発生者側でも処理ルートを把握し、法令に沿った管理を行う。 Bの確認ポイント：道路占用では位置・構造・期間・工事方法などについて道路管理者との調整が必要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0088

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『撤去した通信資材を再使用する場合の判断として、最も適切なものはどれか。』に対し、「性能・劣化・安全性・仕様適合を確認し、再使用基準を満たすものだけを再利用する。」と判断した。

B：『他企業の地下管路・ガス管・電力設備等の近くで工事する際に近接協議を行う主な目的はどれか。』に対し、「既設設備の位置・防護・立会・施工条件を確認し、損傷事故を防止するためである。」と判断した。

A．A（撤去材の再利用可否を判断できる）だけが適切で、B（近接協議の目的を説明できる）は誤っている。

イ．B（近接協議の目的を説明できる）だけが適切で、A（撤去材の再利用可否を判断できる）は誤っている。

ウ．A（撤去材の再利用可否を判断できる）・B（近接協議の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（撤去材の再利用可否を判断できる）・B（近接協議の目的を説明できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（撤去材の再利用可否を判断できる）・B（近接協議の目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。 B：近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。

イ：不適切。正しい評価は「A（撤去材の再利用可否を判断できる）・B（近接協議の目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。 B：近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。

ウ：不適切。正しい評価は「A（撤去材の再利用可否を判断できる）・B（近接協議の目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。 B：近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。

エ：適切。Aは正しい（再使用は廃棄物削減に有効だが品質保証が必要である。）。Bは正しい（近接施工では相互の設備保護と安全条件を明確にする。）。

総合解説：Aの確認ポイント：資源循環と設備品質を両立するため、再使用基準と記録を明確にする。 Bの確認ポイント：協議結果は施工計画・図面・現場周知へ反映する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0089

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『幹線道路で通信管路を新設する工事を計画する。最も適切な施工前管理はどれか。』に対し、「道路占用・施工条件を確認し、交通規制、埋設物協議、工程、安全計画を整合させる。」と判断した。

B：『施工中に通信管路の位置を当初の道路占用条件から変更する必要が生じた。最も適切な対応はどれか。』に対し、「現場判断だけで道路中央へ変更する。」と判断した。

ア．A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）・B（占用条件変更を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）だけが適切で、B（占用条件変更を判断できる）は誤っている。

ウ．B（占用条件変更を判断できる）だけが適切で、A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）は誤っている。

エ．A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）・B（占用条件変更を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）だけが適切で、B（占用条件変更を判断できる）は誤っている。」。A：許認可と現場安全を別々でなく一体管理する必要がある。B：正式な手続きが必要である。

イ：適切。Aは正しい（許認可と現場安全を別々でなく一体管理する必要がある。）。Bは誤り（正式な手続きが必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）だけが適切で、B（占用条件変更を判断できる）は誤っている。」。A：許認可と現場安全を別々でなく一体管理する必要がある。B：正式な手続きが必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（道路工事の許認可・安全を総合判断...）だけが適切で、B（占用条件変更を判断できる）は誤っている。」。A：許認可と現場安全を別々でなく一体管理する必要がある。B：正式な手続きが必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：道路上の線路工事は許認可・交通・地下設備・施工安全を横断管理する。Bの確認ポイント：道路内設備の変更は許認可・設計図書・設備記録を整合させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0090

安全・環境・施工実務 > 道路占用・近接協議・廃棄物処理 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『道路内通信工事を完了する際の最終確認として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通信疎通だけ確認して道路復旧状態は見ない。」と判断した。

B：『道路掘削箇所に複数企業の埋設物が集中している。最も適切な施工前対応はどれか。』に対し、「各設備管理者と位置・深さ・立会条件を確認し、探査・試掘結果を施工班へ共有する。」と判断した。

ア．B（掘削前協議を判断できる）だけが適切で、A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）は誤っている。

イ．A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）・B（掘削前協議を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）だけが適切で、B（掘削前協議を判断できる）は誤っている。

エ．A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）・B（掘削前協議を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（道路安全・占用管理が必要である。）。Bは正しい（図面だけでなく現地確認と協議を組み合わせる。）。

イ：不適切。正しい評価は「B（掘削前協議を判断できる）だけが適切で、A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）は誤っている。」。A：道路安全・占用管理が必要である。B：図面だけでなく現地確認と協議を組み合わせる。

ウ：不適切。正しい評価は「B（掘削前協議を判断できる）だけが適切で、A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）は誤っている。」。A：道路安全・占用管理が必要である。B：図面だけでなく現地確認と協議を組み合わせる。

エ：不適切。正しい評価は「B（掘削前協議を判断できる）だけが適切で、A（施工終了時の環境・占用管理を総合...）は誤っている。」。A：道路安全・占用管理が必要である。B：図面だけでなく現地確認と協議を組み合わせる。

総合解説：Aの確認ポイント：工事完了時は設備品質、道路原状回復、環境管理、記録整備まで完了させる。Bの確認ポイント：高密度埋設区間では関係者協議と現地確認が安全の要となる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0091

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『通信設備の巡視を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「設備台帳を不要にする。」と判断した。

B：『重要回線でケーブル断が発生し、本修理に時間がかかる。最も適切な対応はどれか。』に対し、「本修理完了まで何も復旧しない。」と判断した。

ア．A（巡視の目的を説明できる）・B（暫定復旧を判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（巡視の目的を説明できる）・B（暫定復旧を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（巡視の目的を説明できる）だけが適切で、B（暫定復旧を判断できる）は誤っている。

エ．B（暫定復旧を判断できる）だけが適切で、A（巡視の目的を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（記録管理と併用する。）。Bは誤り（代替手段を検討する。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（巡視の目的を説明できる）・B（暫定復旧を判断できる）はいずれも誤っている。」。

ウ：不適切。正しい評価は「A（巡視の目的を説明できる）・B（暫定復旧を判断できる）はいずれも誤っている。」。

エ：不適切。正しい評価は「A（巡視の目的を説明できる）・B（暫定復旧を判断できる）はいずれも誤っている。」。

総合解説：Aの確認ポイント：巡視では設備状態と周辺工事・樹木・道路・気象影響なども確認する。Bの確認ポイント：障害対応では応急・暫定・本復旧を使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0092

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『通信設備の遠隔監視の役割として、最も適切なものはどれか。』に対し、「アラームや性能値を継続監視し、異常を早期検知して復旧判断へ利用する。」と判断した。

B：『委託保守で同じ作業不良が繰り返される場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「作業記録と不適合を分析し、原因・是正策・教育・手順改善を委託先と確認する。」と判断した。

ア．A（監視の役割を説明できる）・B（委託先品質を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（監視の役割を説明できる）だけが適切で、B（委託先品質を判断できる）は誤っている。

ウ．B（委託先品質を判断できる）だけが適切で、A（監視の役割を説明できる）は誤っている。

エ．A（監視の役割を説明できる）・B（委託先品質を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（遠隔監視は障害検知・切り分けを迅速化する。）。Bは正しい（品質問題を継続的に改善する必要がある。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（監視の役割を説明できる）・B（委託先品質を判断できる）はいずれも適切である。」。

ウ：不適切。正しい評価は「A（監視の役割を説明できる）・B（委託先品質を判断できる）はいずれも適切である。」。

エ：不適切。正しい評価は「A（監視の役割を説明できる）・B（委託先品質を判断できる）はいずれも適切である。」。

総合解説：Aの確認ポイント：監視は閾値だけでなくトレンドや相関も活用すると劣化予兆の把握に有効である。Bの確認ポイント：委託先管理では定量評価と是正フォローが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0093

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『通信障害発生時の基本的な復旧手順として、最も適切なものはどれか。』に対し、「影響範囲を把握し、原因を切り分け、暫定復旧・本復旧を行い、結果を記録する。」と判断した。

B：『同一区間で障害が繰り返されている。最も適切な保守対応はどれか。』に対し、「障害回数が増えるほど更新優先度を下げる。」と判断した。

ア．A（障害復旧の基本手順を説明できる）・B（障害履歴を活用できる）はいずれも適切である。

イ．B（障害履歴を活用できる）だけが適切で、A（障害復旧の基本手順を説明できる）は誤っている。

ウ．A（障害復旧の基本手順を説明できる）だけが適切で、B（障害履歴を活用できる）は誤っている。

エ．A（障害復旧の基本手順を説明できる）・B（障害履歴を活用できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（障害復旧の基本手順を説明できる）だけが適切で、B（障害履歴を活用できる）は誤っている。」。A：影響把握から復旧・記録まで一連で管理する。B：一般に重要度が増す。

イ：不適切。正しい評価は「A（障害復旧の基本手順を説明できる）だけが適切で、B（障害履歴を活用できる）は誤っている。」。A：影響把握から復旧・記録まで一連で管理する。B：一般に重要度が増す。

ウ：適切。Aは正しい（影響把握から復旧・記録まで一連で管理する。）。Bは誤り（一般に重要度が増す。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（障害復旧の基本手順を説明できる）だけが適切で、B（障害履歴を活用できる）は誤っている。」。A：影響把握から復旧・記録まで一連で管理する。B：一般に重要度が増す。

総合解説：Aの確認ポイント：障害復旧ではサービス影響の最小化と再発防止の両方が重要である。Bの確認ポイント：履歴分析は弱点区間の特定と更新計画に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0094

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『保守業務を外部へ委託する際、最も適切な管理はどれか。』に対し、「作業記録を受領しない。」と判断した。

B：『重大障害で現場班だけでは復旧判断できない場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「定めたエスカレーション基準に従い、上位責任者・関連部門へ速やかに情報共有する。」と判断した。

ア．A（委託管理の基本を説明できる）・B（障害エスカレーションを判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（委託管理の基本を説明できる）だけが適切で、B（障害エスカレーションを判断できる）は誤っている。

ウ．A（委託管理の基本を説明できる）・B（障害エスカレーションを判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（障害エスカレーションを判断できる）だけが適切で、A（委託管理の基本を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（障害エスカレーションを判断できる）だけが適切で、A（委託管理の基本を説明できる）は誤っている。」。A：履歴管理に必要である。B：重大障害は組織的判断が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「B（障害エスカレーションを判断できる）だけが適切で、A（委託管理の基本を説明できる）は誤っている。」。A：履歴管理に必要である。B：重大障害は組織的判断が必要である。

ウ：不適切。正しい評価は「B（障害エスカレーションを判断できる）だけが適切で、A（委託管理の基本を説明できる）は誤っている。」。A：履歴管理に必要である。B：重大障害は組織的判断が必要である。

エ：適切。Aは誤り（履歴管理に必要である。）。Bは正しい（重大障害は組織的判断が必要である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：委託管理ではSLA、作業資格、情報共有、品質評価を継続して確認する。Bの確認ポイント：障害対応は技術復旧だけでなく、連絡・判断・顧客対応を含む体制で行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0095

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『複数アラームが同時発生した場合の初動として、最も適切なものはどれか。』に対し、「発生時刻が最も新しいものだけを見る。」と判断した。

B：『広域障害で複数区間が同時に停止し、保守要員が限られている。最も適切な復旧方針はどれか。』に対し、「全障害を同時に同じ人数で対応する。」と判断した。

ア．A（アラーム優先度を判断できる）・B（障害復旧を総合判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（アラーム優先度を判断できる）・B（障害復旧を総合判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（アラーム優先度を判断できる）だけが適切で、B（障害復旧を総合判断できる）は誤っている。

エ．B（障害復旧を総合判断できる）だけが適切で、A（アラーム優先度を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（重要度を考慮する。）。Bは誤り（資源制約を無視している。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（アラーム優先度を判断できる）・B（障害復旧を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重要度を考慮する。B：資源制約を無視している。

ウ：不適切。正しい評価は「A（アラーム優先度を判断できる）・B（障害復旧を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重要度を考慮する。B：資源制約を無視している。

エ：不適切。正しい評価は「A（アラーム優先度を判断できる）・B（障害復旧を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：重要度を考慮する。B：資源制約を無視している。

総合解説：Aの確認ポイント：運用ではアラームの分類・相関・優先度付けが迅速な復旧に重要である。Bの確認ポイント：大規模障害ではサービス影響と復旧可能性を統合して判断する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0096

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『ある設備の受信レベルが数週間かけて徐々に悪化している。最も適切な対応はどれか。』に対し、「履歴を分析し、劣化・接続不良・環境変化等を障害前に点検する。」と判断した。

B：『24時間運用する重要設備の保守を外部委託する。最も適切な契約・運用設計はどれか。』に対し、「応答時間、復旧目標、当番体制、予備品、連絡先、報告・レビュー方法を明確にする。」と判断した。

ア．A（監視トレンドを判断できる）・B（委託保守体制を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（監視トレンドを判断できる）だけが適切で、B（委託保守体制を総合判断できる）は誤っている。

ウ．B（委託保守体制を総合判断できる）だけが適切で、A（監視トレンドを判断できる）は誤っている。

エ．A（監視トレンドを判断できる）・B（委託保守体制を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。）。Bは正しい（重要設備では緊急対応能力まで委託条件へ含める。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（監視トレンドを判断できる）・B（委託保守体制を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。B：重要設備では緊急対応能力まで委託条件へ含める。

ウ：不適切。正しい評価は「A（監視トレンドを判断できる）・B（委託保守体制を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。B：重要設備では緊急対応能力まで委託条件へ含める。

エ：不適切。正しい評価は「A（監視トレンドを判断できる）・B（委託保守体制を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。B：重要設備では緊急対応能力まで委託条件へ含める。

総合解説：Aの確認ポイント：状態監視では単発値よりも変化傾向が有効な場合がある。Bの確認ポイント：委託保守は契約SLAと実運用体制を一致させることが重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0097

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『重要回線でケーブル断が発生し、本修理に時間がかかる。最も適切な対応はどれか。』に対し、「代替経路や予備心線で暫定復旧し、サービスを確保した上で本修理を計画する。」と判断した。

B：『通信設備の巡視を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「障害発生後だけ現地を確認する。」と判断した。

ア．A（暫定復旧を判断できる）だけが適切で、B（巡視の目的を説明できる）は誤っている。

イ．A（暫定復旧を判断できる）・B（巡視の目的を説明できる）はいずれも適切である。

ウ．B（巡視の目的を説明できる）だけが適切で、A（暫定復旧を判断できる）は誤っている。

エ．A（暫定復旧を判断できる）・B（巡視の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（重要サービスでは迅速な暫定復旧が有効である。）。Bは誤り（平常時の予防的確認が重要である。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（暫定復旧を判断できる）だけが適切で、B（巡視の目的を説明できる）は誤っている。」。A：重要サービスでは迅速な暫定復旧が有効である。B：平常時の予防的確認が重要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（暫定復旧を判断できる）だけが適切で、B（巡視の目的を説明できる）は誤っている。」。A：重要サービスでは迅速な暫定復旧が有効である。B：平常時の予防的確認が重要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（暫定復旧を判断できる）だけが適切で、B（巡視の目的を説明できる）は誤っている。」。A：重要サービスでは迅速な暫定復旧が有効である。B：平常時の予防的確認が重要である。

総合解説：Aの確認ポイント：障害対応では応急・暫定・本復旧を使い分ける。Bの確認ポイント：巡視では設備状態と周辺工事・樹木・道路・気象影響なども確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0098

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『委託保守で同じ作業不良が繰り返される場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「委託先なので発注者は関与しない。」と判断した。

B：『通信設備の遠隔監視の役割として、最も適切なものはどれか。』に対し、「アラームや性能値を継続監視し、異常を早期検知して復旧判断へ利用する。」と判断した。

ア．A（委託先品質を判断できる）・B（監視の役割を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（委託先品質を判断できる）だけが適切で、B（監視の役割を説明できる）は誤っている。

ウ．B（監視の役割を説明できる）だけが適切で、A（委託先品質を判断できる）は誤っている。

エ．A（委託先品質を判断できる）・B（監視の役割を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（監視の役割を説明できる）だけが適切で、A（委託先品質を判断できる）は誤っている。」。A：委託管理責任がある。B：遠隔監視は障害検知・切り分けを迅速化する。

イ：不適切。正しい評価は「B（監視の役割を説明できる）だけが適切で、A（委託先品質を判断できる）は誤っている。」。A：委託管理責任がある。B：遠隔監視は障害検知・切り分けを迅速化する。

ウ：適切。Aは誤り（委託管理責任がある。）。Bは正しい（遠隔監視は障害検知・切り分けを迅速化する。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（監視の役割を説明できる）だけが適切で、A（委託先品質を判断できる）は誤っている。」。A：委託管理責任がある。B：遠隔監視は障害検知・切り分けを迅速化する。

総合解説：Aの確認ポイント：委託先管理では定量評価と是正フォローが重要である。Bの確認ポイント：監視は閾値だけでなくトレンドや関連も活用すると劣化予兆の把握に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0099

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：応用

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『同一区間で障害が繰り返されている。最も適切な保守対応はどれか。』に対し、「過去障害は現在の保守に使わない。」と判断した。

B：『通信障害発生時の基本的な復旧手順として、最も適切なものはどれか。』に対し、「障害記録を残さない。」と判断した。

ア．A（障害履歴を活用できる）・B（障害復旧の基本手順を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（障害履歴を活用できる）・B（障害復旧の基本手順を説明できる）はいずれも誤っている。

ウ．A（障害履歴を活用できる）だけが適切で、B（障害復旧の基本手順を説明できる）は誤っている。

エ．B（障害復旧の基本手順を説明できる）だけが適切で、A（障害履歴を活用できる）は誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（障害履歴を活用できる）・B（障害復旧の基本手順を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：重要な分析資料である。B：再発防止に必要である。

イ：適切。Aは誤り（重要な分析資料である。）。Bは誤り（再発防止に必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（障害履歴を活用できる）・B（障害復旧の基本手順を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：重要な分析資料である。B：再発防止に必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（障害履歴を活用できる）・B（障害復旧の基本手順を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：重要な分析資料である。B：再発防止に必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：履歴分析は弱点区間の特定と更新計画に有効である。Bの確認ポイント：障害復旧ではサービス影響の最小化と再発防止の両方が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0100

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『重大障害で現場班だけでは復旧判断できない場合、最も適切な対応はどれか。』に対し、「定めたエスカレーション基準に従い、上位責任者・関連部門へ速やかに情報共有する。」と判断した。

B：『保守業務を外部へ委託する際、最も適切な管理はどれか。』に対し、「委託範囲、品質基準、報告方法、緊急時対応、責任分担を明確にする。」と判断した。

ア．A（障害エスカレーションを判断できる）・B（委託管理の基本を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（障害エスカレーションを判断できる）だけが適切で、B（委託管理の基本を説明できる）は誤っている。

ウ．B（委託管理の基本を説明できる）だけが適切で、A（障害エスカレーションを判断できる）は誤っている。

エ．A（障害エスカレーションを判断できる）・B（委託管理の基本を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（重大障害は組織的判断が必要である。）。Bは正しい（委託しても発注側の管理が不要になるわけではない。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（障害エスカレーションを判断できる）・B（委託管理の基本を説明できる）はいずれも適切である。」。A：重大障害は組織的判断が必要である。B：委託しても発注側の管理が不要になるわけではない。

ウ：不適切。正しい評価は「A（障害エスカレーションを判断できる）・B（委託管理の基本を説明できる）はいずれも適切である。」。A：重大障害は組織的判断が必要である。B：委託しても発注側の管理が不要になるわけではない。

エ：不適切。正しい評価は「A（障害エスカレーションを判断できる）・B（委託管理の基本を説明できる）はいずれも適切である。」。A：重大障害は組織的判断が必要である。B：委託しても発注側の管理が不要になるわけではない。

総合解説：Aの確認ポイント：障害対応は技術復旧だけでなく、連絡・判断・顧客対応を含む体制で行う。Bの確認ポイント：委託管理ではSLA、作業資格、情報共有、品質評価を継続して確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0101

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『広域障害で複数区間が同時に停止し、保守要員が限られている。最も適切な復旧方針はどれか。』に対し、「重要サービス、影響利用者数、代替経路、復旧難易度を比較し、優先順位を決める。」と判断した。

B：『複数アラームが同時発生した場合の初動として、最も適切なものはどれか。』に対し、「全アラームを同じ優先度で扱う。」と判断した。

A：A（障害復旧を総合判断できる）だけが適切で、B（アラーム優先度を判断できる）は誤っている。

イ：A（障害復旧を総合判断できる）・B（アラーム優先度を判断できる）はいずれも適切である。

ウ：B（アラーム優先度を判断できる）だけが適切で、A（障害復旧を総合判断できる）は誤っている。

エ：A（障害復旧を総合判断できる）・B（アラーム優先度を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（限られた資源を効果的に配分する必要がある。）。Bは誤り（影響度が異なる。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（障害復旧を総合判断できる）だけが適切で、B（アラーム優先度を判断できる）は誤っている。」。A：限られた資源を効果的に配分する必要がある。B：影響度が異なる。

ウ：不適切。正しい評価は「A（障害復旧を総合判断できる）だけが適切で、B（アラーム優先度を判断できる）は誤っている。」。A：限られた資源を効果的に配分する必要がある。B：影響度が異なる。

エ：不適切。正しい評価は「A（障害復旧を総合判断できる）だけが適切で、B（アラーム優先度を判断できる）は誤っている。」。A：限られた資源を効果的に配分する必要がある。B：影響度が異なる。

総合解説：Aの確認ポイント：大規模障害ではサービス影響と復旧可能性を統合して判断する。Bの確認ポイント：運用ではアラームの分類・関連・優先度付けが迅速な復旧に重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0102

維持・運用・災害対策 > 巡視・監視・障害復旧・委託管理 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『24時間運用する重要設備の保守を外部委託する。最も適切な契約・運用設計はどれか。』に対し、「復旧目標を定めず都度相談する。」と判断した。

B：『ある設備の受信レベルが数週間かけて徐々に悪化している。最も適切な対応はどれか。』に対し、「履歴を分析し、劣化・接続不良・環境変化等を障害前に点検する。」と判断した。

A：A（委託保守体制を総合判断できる）・B（監視トレンドを判断できる）はいずれも適切である。

イ：B（監視トレンドを判断できる）だけが適切で、A（委託保守体制を総合判断できる）は誤っている。

ウ：A（委託保守体制を総合判断できる）だけが適切で、B（監視トレンドを判断できる）は誤っている。

エ：A（委託保守体制を総合判断できる）・B（監視トレンドを判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（監視トレンドを判断できる）だけが適切で、A（委託保守体制を総合判断できる）は誤っている。」。A：迅速な対応が難しい。B：緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。

イ：適切。Aは誤り（迅速な対応が難しい。）。Bは正しい（緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（監視トレンドを判断できる）だけが適切で、A（委託保守体制を総合判断できる）は誤っている。」。A：迅速な対応が難しい。B：緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。

エ：不適切。正しい評価は「B（監視トレンドを判断できる）だけが適切で、A（委託保守体制を総合判断できる）は誤っている。」。A：迅速な対応が難しい。B：緩やかな変化は予防保全の手掛かりになる。

総合解説：Aの確認ポイント：委託保守は契約SLAと実運用体制を一致させることが重要である。Bの確認ポイント：状態監視では単発値よりも変化傾向が有効な場合がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0103

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『予防保全について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「全設備を毎日交換する方式である。」と判断した。

B：『停止影響が非常に大きい重要設備の保全方式として、最も適切なものはどれか。』に対し、「故障するまで一切点検しない。」と判断した。

ア．A（予防保全を説明できる）・B（保全方式を設備重要度で選択できる）はいずれも適切である。

イ．A（予防保全を説明できる）だけが適切で、B（保全方式を設備重要度で選択できる）は誤っている。

ウ．B（保全方式を設備重要度で選択できる）だけが適切で、A（予防保全を説明できる）は誤っている。

エ．A（予防保全を説明できる）・B（保全方式を設備重要度で選択できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（予防保全を説明できる）・B（保全方式を設備重要度で選択できる）はいずれも誤っている。」。A：合理的な周期で行う。B：影響が大きい。

イ：不適切。正しい評価は「A（予防保全を説明できる）・B（保全方式を設備重要度で選択できる）はいずれも誤っている。」。A：合理的な周期で行う。B：影響が大きい。

ウ：不適切。正しい評価は「A（予防保全を説明できる）・B（保全方式を設備重要度で選択できる）はいずれも誤っている。」。A：合理的な周期で行う。B：影響が大きい。

エ：適切。Aは誤り（合理的な周期で行う。）。Bは誤り（影響が大きい。）。

総合解説：Aの確認ポイント：予防保全は重要度・故障特性・点検可能性に応じて適用する。Bの確認ポイント：設備重要度に応じて保全資源を重点配分する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0104

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『事後保全が適する場合として、最も適切なものはどれか。』に対し、「故障影響が小さく、修理が容易で、予防交換の費用対効果が低い設備である。」と判断した。

B：『屋外設備で腐食が急速に進んでいる。最も適切な保全対応はどれか。』に対し、「塩分・水分・異種金属接触など環境要因を調査し、防食・材料変更・排水改善を検討する。」と判断した。

ア．A（事後保全を説明できる）だけが適切で、B（劣化原因を判断できる）は誤っている。

イ．A（事後保全を説明できる）・B（劣化原因を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（劣化原因を判断できる）だけが適切で、A（事後保全を説明できる）は誤っている。

エ．A（事後保全を説明できる）・B（劣化原因を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（事後保全を説明できる）・B（劣化原因を判断できる）はいずれも適切である。」。A：設備重要度に応じて事後保全を選択する場合がある。B：原因へ対応する方が再発防止に有効である。

イ：適切。Aは正しい（設備重要度に応じて事後保全を選択する場合がある。）。Bは正しい（原因へ対応する方が再発防止に有効である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（事後保全を説明できる）・B（劣化原因を判断できる）はいずれも適切である。」。A：設備重要度に応じて事後保全を選択する場合がある。B：原因へ対応する方が再発防止に有効である。

エ：不適切。正しい評価は「A（事後保全を説明できる）・B（劣化原因を判断できる）はいずれも適切である。」。A：設備重要度に応じて事後保全を選択する場合がある。B：原因へ対応する方が再発防止に有効である。

総合解説：Aの確認ポイント：保全方式は故障影響、コスト、点検可能性で使い分ける。Bの確認ポイント：劣化対策は症状修復と原因除去を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0105

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『状態基準保全の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「測定値や劣化状態を監視し、状態の悪化に応じて保全時期を決める。」と判断した。

B：『設備ごとの点検・修理履歴を蓄積する利点として、最も適切なものはどれか。』に対し、「故障原因の比較には使えない。」と判断した。

ア．A（状態基準保全を説明できる）・B（保全記録を活用できる）はいずれも適切である。

イ．B（保全記録を活用できる）だけが適切で、A（状態基準保全を説明できる）は誤っている。

ウ．A（状態基準保全を説明できる）・B（保全記録を活用できる）はいずれも誤っている。

エ．A（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、B（保全記録を活用できる）は誤っている。

0106

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『メーカー推奨交換周期がある消耗部品の保全として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「交換履歴は記録しない。」と判断した。

B：『多数の設備で保全費用が増加している。最も適切な見直し方法はどれか。』に対し、「設備重要度、故障率、点検効果、停止影響を分析し、時間基準・状態基準・事後保全を使い分ける。」と判断した。

ア．A（交換周期を判断できる）・B（保全最適化を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（交換周期を判断できる）だけが適切で、B（保全最適化を総合判断できる）は誤っている。

ウ．A（交換周期を判断できる）・B（保全最適化を総合判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（保全最適化を総合判断できる）だけが適切で、A（交換周期を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、B（保全記録を活用できる）は誤っている。」。A：Condition Based Maintenanceの考え方である。B：再発分析に有効である。

イ：不適切。正しい評価は「A（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、B（保全記録を活用できる）は誤っている。」。A：Condition Based Maintenanceの考え方である。B：再発分析に有効である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、B（保全記録を活用できる）は誤っている。」。A：Condition Based Maintenanceの考え方である。B：再発分析に有効である。

エ：適切。Aは正しい（Condition Based Maintenanceの考え方である。）。Bは誤り（再発分析に有効である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：状態基準保全は測定可能な劣化兆候がある設備に有効である。Bの確認ポイント：保全記録の標準化は設備間比較や傾向把握に役立つ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（保全最適化を総合判断できる）だけが適切で、A（交換周期を判断できる）は誤っている。」。A：次回計画に必要である。B：全設備を同じ頻度で保全する必要はない。

イ：不適切。正しい評価は「B（保全最適化を総合判断できる）だけが適切で、A（交換周期を判断できる）は誤っている。」。A：次回計画に必要である。B：全設備を同じ頻度で保全する必要はない。

ウ：不適切。正しい評価は「B（保全最適化を総合判断できる）だけが適切で、A（交換周期を判断できる）は誤っている。」。A：次回計画に必要である。B：全設備を同じ頻度で保全する必要はない。

エ：適切。Aは誤り（次回計画に必要である。）。Bは正しい（全設備を同じ頻度で保全する必要はない。）。

総合解説：Aの確認ポイント：時間基準保全でも実績データを用いて周期を最適化する。Bの確認ポイント：保全最適化ではリスクとライフサイクルコストを両立させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0107

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『接続部損失が定期測定ごとに少しずつ増加している。最も適切な対応はどれか。』に対し、「完全断まで放置する。」と判断した。

B：『センサーデータを用いた予防保全を導入する際、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「誤検知が多くても保全コストには影響しない。」と判断した。

ア．A（劣化兆候を判断できる）・B（予防保全導入を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（劣化兆候を判断できる）・B（予防保全導入を総合判断できる）はいずれも誤っている。

ウ．A（劣化兆候を判断できる）だけが適切で、B（予防保全導入を総合判断できる）は誤っている。

エ．B（予防保全導入を総合判断できる）だけが適切で、A（劣化兆候を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（劣化兆候を判断できる）・B（予防保全導入を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：予防保全の機会を失う。B：不要作業を増やす。

イ：適切。Aは誤り（予防保全の機会を失う。）。Bは誤り（不要作業を増やす。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（劣化兆候を判断できる）・B（予防保全導入を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：予防保全の機会を失う。B：不要作業を増やす。

エ：不適切。正しい評価は「A（劣化兆候を判断できる）・B（予防保全導入を総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：予防保全の機会を失う。B：不要作業を増やす。

総合解説：Aの確認ポイント：劣化診断では同一条件の時系列比較が重要である。Bの確認ポイント：予防保全は技術精度と現場運用の両面から導入効果を評価する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0108

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『停止影響が非常に大きい重要設備の保全方式として、最も適切なものはどれか。』に対し、「状態監視、予防保全、冗長化、予備品を組み合わせることで故障と停止時間を抑える。」と判断した。

B：『予防保全について、最も適切な説明はどれか。』に対し、「故障前に点検・交換・補修を行い、障害発生確率を低減する保全方式である。」と判断した。

ア．A（保全方式を設備重要度で選択できる）だけが適切で、B（予防保全を説明できる）は誤っている。

イ．B（予防保全を説明できる）だけが適切で、A（保全方式を設備重要度で選択できる）は誤っている。

ウ．A（保全方式を設備重要度で選択できる）・B（予防保全を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（保全方式を設備重要度で選択できる）・B（予防保全を説明できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（保全方式を設備重要度で選択できる）・B（予防保全を説明できる）はいずれも適切である。」。A：高重要度設備では多層的な保全が有効である。B：故障発生前の計画的措置が特徴である。

イ：不適切。正しい評価は「A（保全方式を設備重要度で選択できる）・B（予防保全を説明できる）はいずれも適切である。」。A：高重要度設備では多層的な保全が有効である。B：故障発生前の計画的措置が特徴である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（保全方式を設備重要度で選択できる）・B（予防保全を説明できる）はいずれも適切である。」。A：高重要度設備では多層的な保全が有効である。B：故障発生前の計画的措置が特徴である。

エ：適切。Aは正しい（高重要度設備では多層的な保全が有効である。）。Bは正しい（故障発生前の計画的措置が特徴である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：設備重要度に応じて保全資源を重点配分する。Bの確認ポイント：予防保全は重要度・故障特性・点検可能性に応じて適用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0109

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『屋外設備で腐食が急速に進んでいる。最も適切な保全対応はどれか。』に対し、「塩分・水分・異種金属接触など環境要因を調査し、防食・材料変更・排水改善を検討する。」と判断した。

B：『事後保全が適する場合として、最も適切なものはどれか。』に対し、「故障すると広域通信が長時間停止する重要設備だけに適用する。」と判断した。

ア．A（劣化原因を判断できる）・B（事後保全を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（劣化原因を判断できる）だけが適切で、B（事後保全を説明できる）は誤っている。

ウ．B（事後保全を説明できる）だけが適切で、A（劣化原因を判断できる）は誤っている。

エ．A（劣化原因を判断できる）・B（事後保全を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（劣化原因を判断できる）だけが適切で、B（事後保全を説明できる）は誤っている。」。A：原因へ対応する方が再発防止に有効である。B：一般には予防・冗長対策を重視する。

イ：適切。Aは正しい（原因へ対応する方が再発防止に有効である。）。Bは誤り（一般には予防・冗長対策を重視する。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（劣化原因を判断できる）だけが適切で、B（事後保全を説明できる）は誤っている。」。A：原因へ対応する方が再発防止に有効である。B：一般には予防・冗長対策を重視する。

エ：不適切。正しい評価は「A（劣化原因を判断できる）だけが適切で、B（事後保全を説明できる）は誤っている。」。A：原因へ対応する方が再発防止に有効である。B：一般には予防・冗長対策を重視する。

総合解説：Aの確認ポイント：劣化対策は症状修復と原因除去を組み合わせる。Bの確認ポイント：保全方式は故障影響、コスト、点検可能性で使い分ける。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0110

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『設備ごとの点検・修理履歴を蓄積する利点として、最も適切なものはどれか。』に対し、「履歴を残すと保全コストが必ず増えるだけである。」と判断した。

B：『状態基準保全の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「測定値や劣化状態を監視し、状態の悪化に応じて保全時期を決める。」と判断した。

ア．A（保全記録を活用できる）・B（状態基準保全を説明できる）はいずれも適切である。

イ．B（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、A（保全記録を活用できる）は誤っている。

ウ．A（保全記録を活用できる）だけが適切で、B（状態基準保全を説明できる）は誤っている。

エ．A（保全記録を活用できる）・B（状態基準保全を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、A（保全記録を活用できる）は誤っている。」。A：分析に活用できる。B：Condition Based Maintenanceの考え方である。

イ：適切。Aは誤り（分析に活用できる。）。Bは正しい（Condition Based Maintenanceの考え方である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、A（保全記録を活用できる）は誤っている。」。A：分析に活用できる。B：Condition Based Maintenanceの考え方である。

エ：不適切。正しい評価は「B（状態基準保全を説明できる）だけが適切で、A（保全記録を活用できる）は誤っている。」。A：分析に活用できる。B：Condition Based Maintenanceの考え方である。

総合解説：Aの確認ポイント：保全記録の標準化は設備間比較や傾向把握に役立つ。Bの確認ポイント：状態基準保全は測定可能な劣化兆候がある設備に有効である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0111

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『多数の設備で保全費用が増加している。最も適切な見直し方法はどれか。』に対し、「全設備を一律毎月交換する。」と判断した。

B：『メーカー推奨交換周期がある消耗部品の保全として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「交換履歴は記録しない。」と判断した。

ア．A（保全最適化を総合判断できる）・B（交換周期を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（保全最適化を総合判断できる）だけが適切で、B（交換周期を判断できる）は誤っている。

ウ．A（保全最適化を総合判断できる）・B（交換周期を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（交換周期を判断できる）だけが適切で、A（保全最適化を総合判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（保全最適化を総合判断できる）・B（交換周期を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：過剰保全となる。B：次回計画に必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（保全最適化を総合判断できる）・B（交換周期を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：過剰保全となる。B：次回計画に必要である。

ウ：適切。Aは誤り（過剰保全となる。）。Bは誤り（次回計画に必要である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（保全最適化を総合判断できる）・B（交換周期を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：過剰保全となる。B：次回計画に必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：保全最適化ではリスクとライフサイクルコストを両立させる。Bの確認ポイント：時間基準保全でも実績データを用いて周期を最適化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0112

維持・運用・災害対策 > 予防保全・劣化対策・保全方式 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『センサーデータを用いた予知保全を導入する際、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「故障との相関があるデータを選び、判定精度・誤検知・見逃しを検証して保全手順へ組み込む。」と判断した。

B：『接続部損失が定期測定ごとに少しずつ増加している。最も適切な対応はどれか。』に対し、「測定条件を確認しつつ傾向を追跡し、基準超過前に点検・再接続等を検討する。」と判断した。

ア．A（予知保全導入を総合判断できる）だけが適切で、B（劣化兆候を判断できる）は誤っている。

イ．B（劣化兆候を判断できる）だけが適切で、A（予知保全導入を総合判断できる）は誤っている。

ウ．A（予知保全導入を総合判断できる）・B（劣化兆候を判断できる）はいずれも適切である。

エ．A（予知保全導入を総合判断できる）・B（劣化兆候を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（予知保全導入を総合判断できる）・B（劣化兆候を判断できる）はいずれも適切である。」。A：モデル精度だけでなく運用可能性を検証する。B：進行性劣化は予防的に対応する。

イ：不適切。正しい評価は「A（予知保全導入を総合判断できる）・B（劣化兆候を判断できる）はいずれも適切である。」。A：モデル精度だけでなく運用可能性を検証する。B：進行性劣化は予防的に対応する。

ウ：適切。Aは正しい（モデル精度だけでなく運用可能性を検証する。）。Bは正しい（進行性劣化は予防的に対応する。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（予知保全導入を総合判断できる）・B（劣化兆候を判断できる）はいずれも適切である。」。A：モデル精度だけでなく運用可能性を検証する。B：進行性劣化は予防的に対応する。

総合解説：Aの確認ポイント：予知保全は技術精度と現場運用の両面から導入効果を評価する。Bの確認ポイント：劣化診断では同一条件の時系列比較が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0113

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『BCPの主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「災害や事故時にも重要業務を継続し、中断しても目標時間内の再開を図る。」と判断した。

B：『BCPを策定した後の運用として、最も適切なものはどれか。』に対し、「策定後は永久に見直さない。」と判断した。

ア．A（BCPの目的を説明できる）・B（BCP訓練を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（BCP訓練を判断できる）だけが適切で、A（BCPの目的を説明できる）は誤っている。

ウ．A（BCPの目的を説明できる）だけが適切で、B（BCP訓練を判断できる）は誤っている。

エ．A（BCPの目的を説明できる）・B（BCP訓練を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（BCPの目的を説明できる）だけが適切で、B（BCP訓練を判断できる）は誤っている。」。A：内閣府の事業継続ガイドラインでも重要業務の継続・早期再開を重視する。B：環境変化へ対応する。

イ：不適切。正しい評価は「A（BCPの目的を説明できる）だけが適切で、B（BCP訓練を判断できる）は誤っている。」。A：内閣府の事業継続ガイドラインでも重要業務の継続・早期再開を重視する。B：環境変化へ対応する。

ウ：適切。Aは正しい（内閣府の事業継続ガイドラインでも重要業務の継続・早期再開を重視する。）。Bは誤り（環境変化へ対応する。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（BCPの目的を説明できる）だけが適切で、B（BCP訓練を判断できる）は誤っている。」。A：内閣府の事業継続ガイドラインでも重要業務の継続・早期再開を重視する。B：環境変化へ対応する。

総合解説：Aの確認ポイント：BCPIは事前準備、初動、重要業務継続、復旧、訓練・改善を含む。Bの確認ポイント：BCPIは継続的な訓練・見直しによって実効性を高める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0114

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『BCPで設定する復旧目標時間の考え方として、最も適切なものはどれか。』に対し、「設備購入価格の上限を示す。」と判断した。

B：『大地震後に通信が一部継続している。最も適切な設備対応はどれか。』に対し、「構造物、電源、ケーブル、地盤等を点検し、二次災害の危険を確認しながら復旧する。」と判断した。

ア．B（災害後点検を判断できる）だけが適切で、A（RTOの意味を説明できる）は誤っている。

イ．A（RTOの意味を説明できる）・B（災害後点検を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（RTOの意味を説明できる）だけが適切で、B（災害後点検を判断できる）は誤っている。

エ．A（RTOの意味を説明できる）・B（災害後点検を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（時間目標である。）。Bは正しい（通信中でも潜在損傷があり得る。）。

イ：不適切。正しい評価は「B（災害後点検を判断できる）だけが適切で、A（RTOの意味を説明できる）は誤っている。」。A：時間目標である。B：通信中でも潜在損傷があり得る。

ウ：不適切。正しい評価は「B（災害後点検を判断できる）だけが適切で、A（RTOの意味を説明できる）は誤っている。」。A：時間目標である。B：通信中でも潜在損傷があり得る。

エ：不適切。正しい評価は「B（災害後点検を判断できる）だけが適切で、A（RTOの意味を説明できる）は誤っている。」。A：時間目標である。B：通信中でも潜在損傷があり得る。

総合解説：Aの確認ポイント：復旧目標は重要業務ごとに優先順位や許容中断時間を考えて定める。Bの確認ポイント：災害時はサービス継続と作業安全を両立させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0115

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『災害対策としてバックアップ拠点を設ける場合、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「通信経路が同じでも完全な冗長となる。」と判断した。

B：『大規模災害で全設備を同時復旧できない。最も適切なBCP運用はどれか。』に対し、「復旧優先順位を利用者影響と無関係に決める。」と判断した。

ア．A（バックアップ拠点を判断できる）・B（BCPを総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（バックアップ拠点を判断できる）だけが適切で、B（BCPを総合判断できる）は誤っている。

ウ．B（BCPを総合判断できる）だけが適切で、A（バックアップ拠点を判断できる）は誤っている。

エ．A（バックアップ拠点を判断できる）・B（BCPを総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（バックアップ拠点を判断できる）・B（BCPを総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：共通経路故障がある。B：事業影響を考慮する。

イ：不適切。正しい評価は「A（バックアップ拠点を判断できる）・B（BCPを総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：共通経路故障がある。B：事業影響を考慮する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（バックアップ拠点を判断できる）・B（BCPを総合判断できる）はいずれも誤っている。」。A：共通経路故障がある。B：事業影響を考慮する。

エ：適切。Aは誤り（共通経路故障がある。）。Bは誤り（事業影響を考慮する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：BCPでは代替拠点・電源・回線・要員の独立性と実効性を確認する。Bの確認ポイント：BCPでは重要業務、依存資源、復旧目標を事前に整理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0116

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『長時間停電へ備える通信設備の対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「蓄電池・発電機の容量、燃料、起動試験、給油体制を含めて継続時間を設計する。」と判断した。

B：『主系・予備系の通信設備が同じ浸水想定区域にあり、同じ受電系統を使っている。最も適切な評価はどれか。』に対し、「洪水と停電の共通原因で同時停止し得るため、拠点・電源・経路の分散を検討する。」と判断した。

ア．A（非常用電源を判断できる）・B（複合災害対策を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（非常用電源を判断できる）だけが適切で、B（複合災害対策を総合判断できる）は誤っている。

ウ．B（複合災害対策を総合判断できる）だけが適切で、A（非常用電源を判断できる）は誤っている。

エ．A（非常用電源を判断できる）・B（複合災害対策を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（電源設備だけでなく運用補給も必要である。）。Bは正しい（論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（非常用電源を判断できる）・B（複合災害対策を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：電源設備だけでなく運用補給も必要である。B：論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（非常用電源を判断できる）・B（複合災害対策を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：電源設備だけでなく運用補給も必要である。B：論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。

エ：不適切。正しい評価は「A（非常用電源を判断できる）・B（複合災害対策を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：電源設備だけでなく運用補給も必要である。B：論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。

総合解説：Aの確認ポイント：非常用電源は設備容量・運用時間・補給・保守を一体で計画する。Bの確認ポイント：安全信頼性対策では設備・電源・経路・立地を含む共通故障点を分析する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0117

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『BCPを策定した後の運用として、最も適切なものはどれか。』に対し、「定期的に訓練・演習を行い、連絡・復旧手順の問題点を見つけて計画を更新する。」と判断した。

B：『BCPの主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通常時の売上だけを管理する計画である。」と判断した。

ア．A（BCP訓練を判断できる）・B（BCPの目的を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（BCP訓練を判断できる）だけが適切で、B（BCPの目的を説明できる）は誤っている。

ウ．B（BCPの目的を説明できる）だけが適切で、A（BCP訓練を判断できる）は誤っている。

エ．A（BCP訓練を判断できる）・B（BCPの目的を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（BCP訓練を判断できる）だけが適切で、B（BCPの目的を説明できる）は誤っている。」。A：文書だけでは実効性を保証できない。B：危機対応の計画である。

イ：適切。Aは正しい（文書だけでは実効性を保証できない。）。Bは誤り（危機対応の計画である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（BCP訓練を判断できる）だけが適切で、B（BCPの目的を説明できる）は誤っている。」。A：文書だけでは実効性を保証できない。B：危機対応の計画である。

エ：不適切。正しい評価は「A（BCP訓練を判断できる）だけが適切で、B（BCPの目的を説明できる）は誤っている。」。A：文書だけでは実効性を保証できない。B：危機対応の計画である。

総合解説：Aの確認ポイント：BCPIは継続的な訓練・見直しによって実効性を高める。Bの確認ポイント：BCPIは事前準備、初動、重要業務継続、復旧、訓練・改善を含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0118

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『大地震後に通信が一部継続している。最も適切な設備対応はどれか。』に対し、「危険区域へ安全確認なしで入る。」と判断した。

B：『BCPで設定する復旧目標時間の考え方として、最も適切なものはどれか。』に対し、「重要業務をどの程度の時間内に復旧させる必要があるかを定める目標である。」と判断した。

ア．A（災害後点検を判断できる）・B（RTOの意味を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（災害後点検を判断できる）だけが適切で、B（RTOの意味を説明できる）は誤っている。

ウ．B（RTOの意味を説明できる）だけが適切で、A（災害後点検を判断できる）は誤っている。

エ．A（災害後点検を判断できる）・B（RTOの意味を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（RTOの意味を説明できる）だけが適切で、A（災害後点検を判断できる）は誤っている。」。A：二次災害防止が優先である。B：業務影響を踏まえて復旧の時間目標を設定する。

イ：不適切。正しい評価は「B（RTOの意味を説明できる）だけが適切で、A（災害後点検を判断できる）は誤っている。」。A：二次災害防止が優先である。B：業務影響を踏まえて復旧の時間目標を設定する。

ウ：適切。Aは誤り（二次災害防止が優先である。）。Bは正しい（業務影響を踏まえて復旧の時間目標を設定する。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（RTOの意味を説明できる）だけが適切で、A（災害後点検を判断できる）は誤っている。」。A：二次災害防止が優先である。B：業務影響を踏まえて復旧の時間目標を設定する。

総合解説：Aの確認ポイント：災害時はサービス継続と作業安全を両立させる。Bの確認ポイント：復旧目標は重要業務ごとに優先順位や許容中断時間を考えて定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0119

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『大規模災害で全設備を同時復旧できない。最も適切なBCP運用はどれか。』に対し、「復旧優先順位を利用者影響と無関係に決める。」と判断した。

B：『災害対策としてバックアップ拠点を設ける場合、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「本拠点と同一建物内の隣室なら必ず十分である。」と判断した。

ア．A（BCPを総合判断できる）・B（バックアップ拠点を判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（BCPを総合判断できる）・B（バックアップ拠点を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（BCPを総合判断できる）だけが適切で、B（バックアップ拠点を判断できる）は誤っている。

エ．B（バックアップ拠点を判断できる）だけが適切で、A（BCPを総合判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（事業影響を考慮する。）。Bは誤り（同時被災の可能性はある。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（BCPを総合判断できる）・B（バックアップ拠点を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：事業影響を考慮する。B：同時被災の可能性はある。

ウ：不適切。正しい評価は「A（BCPを総合判断できる）・B（バックアップ拠点を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：事業影響を考慮する。B：同時被災の可能性はある。

エ：不適切。正しい評価は「A（BCPを総合判断できる）・B（バックアップ拠点を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：事業影響を考慮する。B：同時被災の可能性はある。

総合解説：Aの確認ポイント：BCPでは重要業務、依存資源、復旧目標を事前に整理する。Bの確認ポイント：BCPでは代替拠点・電源・回線・要員の独立性と実効性を確認する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0120

維持・運用・災害対策 > 災害対策・BCP・安全信頼性対策 | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『主系・予備系の通信設備が同じ浸水想定区域にあり、同じ受電系統を使っている。最も適切な評価はどれか。』に対し、「洪水と停電の共通原因で同時停止し得るため、拠点・電源・経路の分散を検討する。」と判断した。

B：『長時間停電へ備える通信設備の対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「蓄電池・発電機の容量、燃料、起動試験、給油体制を含めて継続時間を設計する。」と判断した。

ア．A（複合災害対策を総合判断できる）だけが適切で、B（非常用電源を判断できる）は誤っている。

イ．A（複合災害対策を総合判断できる）・B（非常用電源を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（非常用電源を判断できる）だけが適切で、A（複合災害対策を総合判断できる）は誤っている。

エ．A（複合災害対策を総合判断できる）・B（非常用電源を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（複合災害対策を総合判断できる）・B（非常用電源を判断できる）はいずれも適切である。」。A：論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。B：電源設備だけでなく運用補給も必要である。

イ：適切。Aは正しい（論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。）。Bは正しい（電源設備だけでなく運用補給も必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（複合災害対策を総合判断できる）・B（非常用電源を判断できる）はいずれも適切である。」。A：論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。B：電源設備だけでなく運用補給も必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（複合災害対策を総合判断できる）・B（非常用電源を判断できる）はいずれも適切である。」。A：論理冗長だけでは災害時の独立性が不足する。B：電源設備だけでなく運用補給も必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：安全信頼性対策では設備・電源・経路・立地を含む共通故障点を分析する。Bの確認ポイント：非常用電源は設備容量・運用時間・補給・保守を一体で計画する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0121

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：『マルウェアの説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「不正な目的で情報窃取・破壊・遠隔操作などを行う悪意あるソフトウェアの総称である。」と判断した。
B：『委託先の保守アカウントを悪用して本番設備へ侵入する攻撃について、最も適切な評価はどれか。』に対し、「自社社員のアカウントでないため対策不要である。」と判断した。

ア．A（マルウェアを説明できる）だけが適切で、B（サプライチェーン攻撃を判断できる）は誤っている。
イ．A（マルウェアを説明できる）・B（サプライチェーン攻撃を判断できる）はいずれも適切である。
ウ．B（サプライチェーン攻撃を判断できる）だけが適切で、A（マルウェアを説明できる）は誤っている。
エ．A（マルウェアを説明できる）・B（サプライチェーン攻撃を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（ウイルス、ランサムウェア、トロイの木馬等を含む。）。Bは誤り（外部アカウントも侵入経路となる。）。
イ：不適切。正しい評価は「A（マルウェアを説明できる）だけが適切で、B（サプライチェーン攻撃を判断できる）は誤っている。」。A：ウイルス、ランサムウェア、トロイの木馬等を含む。B：外部アカウントも侵入経路となる。
ウ：不適切。正しい評価は「A（マルウェアを説明できる）だけが適切で、B（サプライチェーン攻撃を判断できる）は誤っている。」。A：ウイルス、ランサムウェア、トロイの木馬等を含む。B：外部アカウントも侵入経路となる。
エ：不適切。正しい評価は「A（マルウェアを説明できる）だけが適切で、B（サプライチェーン攻撃を判断できる）は誤っている。」。A：ウイルス、ランサムウェア、トロイの木馬等を含む。B：外部アカウントも侵入経路となる。

総合解説：Aの確認ポイント：セキュリティ対策では侵入防止だけでなく検知・隔離・復旧も重要である。Bの確認ポイント：委託先アクセスは契約、認証、権限、ログ、終了時削除まで管理する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0122

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：応用

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。
A：『ランサム攻撃の典型的な被害として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通信速度を合法的に増やす。」と判断した。
B：『正規権限を持つ従業員による機密情報の持ち出し対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「最小権限、操作ログ、媒体制御、職務分離、退職・異動時の権限見直しを組み合わせる。」と判断した。

ア．A（ランサム攻撃を説明できる）・B（内部不正を判断できる）はいずれも適切である。
イ．B（内部不正を判断できる）だけが適切で、A（ランサム攻撃を説明できる）は誤っている。
ウ．A（ランサム攻撃を説明できる）だけが適切で、B（内部不正を判断できる）は誤っている。
エ．A（ランサム攻撃を説明できる）・B（内部不正を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（内部不正を判断できる）だけが適切で、A（ランサム攻撃を説明できる）は誤っている。」。A：犯罪的な攻撃である。B：内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。
イ：適切。Aは誤り（犯罪的な攻撃である。）。Bは正しい（内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。）。
ウ：不適切。正しい評価は「B（内部不正を判断できる）だけが適切で、A（ランサム攻撃を説明できる）は誤っている。」。A：犯罪的な攻撃である。B：内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。
エ：不適切。正しい評価は「B（内部不正を判断できる）だけが適切で、A（ランサム攻撃を説明できる）は誤っている。」。A：犯罪的な攻撃である。B：内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：ランサム対策には脆弱性対策、認証強化、バックアップ、初動隔離等が重要である。Bの確認ポイント：内部不正対策は権限・監視・人事プロセスを連携させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0123

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『情報システムにおける脆弱性の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通信回線の契約料金を指す。」と判断した。

B：『修正プログラムが未提供の重大脆弱性が公表された。最も適切な対応はどれか。』に対し、「脆弱性情報を削除すれば攻撃されない。」と判断した。

ア．A（脆弱性を説明できる）・B（ゼロデイ時の対応を判断できる）はいずれも誤っている。

イ．A（脆弱性を説明できる）・B（ゼロデイ時の対応を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（脆弱性を説明できる）だけが適切で、B（ゼロデイ時の対応を判断できる）は誤っている。

エ．B（ゼロデイ時の対応を判断できる）だけが適切で、A（脆弱性を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（セキュリティ上の弱点である。）。Bは誤り（実際の弱点は残る。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（脆弱性を説明できる）・B（ゼロデイ時の対応を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：セキュリティ上の弱点である。B：実際の弱点は残る。

ウ：不適切。正しい評価は「A（脆弱性を説明できる）・B（ゼロデイ時の対応を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：セキュリティ上の弱点である。B：実際の弱点は残る。

エ：不適切。正しい評価は「A（脆弱性を説明できる）・B（ゼロデイ時の対応を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：セキュリティ上の弱点である。B：実際の弱点は残る。

総合解説：Aの確認ポイント：脆弱性管理では情報収集、影響評価、修正適用、代替対策を継続する。Bの確認ポイント：ゼロデイ対応では露出面削減と監視強化が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0124

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『DDoS攻撃の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「多数の送信元から大量通信を集中させ、サービス提供能力を圧迫する攻撃である。」と判断した。

B：『社内端末でランサムウェア感染が疑われる。最も適切な初動はどれか。』に対し、「ネットワークから隔離し、証拠保全と影響範囲確認を行い、インシデント対応体制へ連絡する。」と判断した。

ア．A（DDoSを説明できる）だけが適切で、B（感染端末の初動を判断できる）は誤っている。

イ．B（感染端末の初動を判断できる）だけが適切で、A（DDoSを説明できる）は誤っている。

ウ．A（DDoSを説明できる）・B（感染端末の初動を判断できる）はいずれも適切である。

エ．A（DDoSを説明できる）・B（感染端末の初動を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（DDoSを説明できる）・B（感染端末の初動を判断できる）はいずれも適切である。」。A：可用性を狙う代表的な攻撃である。B：被害拡大を防ぎつつ調査可能性を保つ。

イ：不適切。正しい評価は「A（DDoSを説明できる）・B（感染端末の初動を判断できる）はいずれも適切である。」。A：可用性を狙う代表的な攻撃である。B：被害拡大を防ぎつつ調査可能性を保つ。

ウ：適切。Aは正しい（可用性を狙う代表的な攻撃である。）。Bは正しい（被害拡大を防ぎつつ調査可能性を保つ。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（DDoSを説明できる）・B（感染端末の初動を判断できる）はいずれも適切である。」。A：可用性を狙う代表的な攻撃である。B：被害拡大を防ぎつつ調査可能性を保つ。

総合解説：Aの確認ポイント：DDoS対策にはトラフィック監視、上流対策、容量・遮断設計等がある。Bの確認ポイント：インシデント初動は隔離、証拠保全、連絡、影響確認を迅速に行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0125

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『利用者を偽サイトへ誘導しID・パスワードを入力させる攻撃として、最も適切なものはどれか。』に対し、「フィッシングである。」と判断した。

B：『保守用VPN、古い端末、共通パスワードが存在する設備のセキュリティ評価として、最も適切なものはどれか。』に対し、「VPNがあれば端末更新は不要である。」と判断した。

ア．A（フィッシング攻撃を判断できる）だけが適切で、B（攻撃経路を総合分析できる）は誤っている。

イ．A（フィッシング攻撃を判断できる）・B（攻撃経路を総合分析できる）はいずれも適切である。

ウ．B（攻撃経路を総合分析できる）だけが適切で、A（フィッシング攻撃を判断できる）は誤っている。

エ．A（フィッシング攻撃を判断できる）・B（攻撃経路を総合分析できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（偽メール・偽サイト等で認証情報を詐取する。）。Bは誤り（端末脆弱性は残る。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（フィッシング攻撃を判断できる）だけが適切で、B（攻撃経路を総合分析できる）は誤っている。」。A：偽メール・偽サイト等で認証情報を詐取する。B：端末脆弱性は残る。

ウ：不適切。正しい評価は「A（フィッシング攻撃を判断できる）だけが適切で、B（攻撃経路を総合分析できる）は誤っている。」。A：偽メール・偽サイト等で認証情報を詐取する。B：端末脆弱性は残る。

エ：不適切。正しい評価は「A（フィッシング攻撃を判断できる）だけが適切で、B（攻撃経路を総合分析できる）は誤っている。」。A：偽メール・偽サイト等で認証情報を詐取する。B：端末脆弱性は残る。

総合解説：Aの確認ポイント：フィッシング対策には利用者教育、多要素認証、メール・Web対策等がある。Bの確認ポイント：IPAのリスク分析でも攻撃経路と事業影響を結びつけた評価が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0126

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『外部公開サーバに重大な脆弱性が公表された。最も適切な初動はどれか。』に対し、「脆弱性情報を確認せず全サーバを停止する。」と判断した。

B：『数千台のネットワーク機器を管理する組織で、効率的な脆弱性管理を行う方法として最も適切なものはどれか。』に対し、「資産台帳、ソフトウェア版数、脆弱性情報、重要度を紐付け、優先順位を付けて修正状況を追跡する。」と判断した。

ア．B（脆弱性管理を総合判断できる）だけが適切で、A（脆弱性対応を判断できる）は誤っている。

イ．A（脆弱性対応を判断できる）・B（脆弱性管理を総合判断できる）はいずれも適切である。

ウ．A（脆弱性対応を判断できる）だけが適切で、B（脆弱性管理を総合判断できる）は誤っている。

エ．A（脆弱性対応を判断できる）・B（脆弱性管理を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは誤り（影響評価が必要である。）。Bは正しい（対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。）。

イ：不適切。正しい評価は「B（脆弱性管理を総合判断できる）だけが適切で、A（脆弱性対応を判断できる）は誤っている。」。A：影響評価が必要である。B：対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。

ウ：不適切。正しい評価は「B（脆弱性管理を総合判断できる）だけが適切で、A（脆弱性対応を判断できる）は誤っている。」。A：影響評価が必要である。B：対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。

エ：不適切。正しい評価は「B（脆弱性管理を総合判断できる）だけが適切で、A（脆弱性対応を判断できる）は誤っている。」。A：影響評価が必要である。B：対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。

総合解説：Aの確認ポイント：脆弱性管理は資産重要度・公開範囲・悪用可能性で優先順位を決める。Bの確認ポイント：脆弱性管理は資産管理と変更・構成管理を連携させる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0127 セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『委託先の保守アカウントを悪用して本番設備へ侵入する攻撃について、最も適切な評価はどれか。』に対し、「委託終了後もアカウントを残す。」と判断した。

B：『マルウェアの説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「正規バックアップソフトだけを指す。」と判断した。

ア．A（サプライチェーン攻撃を判断できる）・B（マルウェアを説明できる）はいずれも誤っている。

イ．A（サプライチェーン攻撃を判断できる）・B（マルウェアを説明できる）はいずれも適切である。

ウ．A（サプライチェーン攻撃を判断できる）だけが適切で、B（マルウェアを説明できる）は誤っている。

エ．B（マルウェアを説明できる）だけが適切で、A（サプライチェーン攻撃を判断できる）は誤っている。

答え・解説 正答：ア

ア：適切。Aは誤り（不要権限を削除する。）。Bは誤り（悪意あるソフトウェアである。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（サプライチェーン攻撃を判断できる）・B（マルウェアを説明できる）はいずれも誤っている。」。A：不要権限を削除する。B：悪意あるソフトウェアである。

ウ：不適切。正しい評価は「A（サプライチェーン攻撃を判断できる）・B（マルウェアを説明できる）はいずれも誤っている。」。A：不要権限を削除する。B：悪意あるソフトウェアである。

エ：不適切。正しい評価は「A（サプライチェーン攻撃を判断できる）・B（マルウェアを説明できる）はいずれも誤っている。」。A：不要権限を削除する。B：悪意あるソフトウェアである。

総合解説：Aの確認ポイント：委託先アクセスは契約、認証、権限、ログ、終了時削除まで管理する。Bの確認ポイント：セキュリティ対策では侵入防止だけでなく検知・隔離・復旧も重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0128 セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『正規権限を持つ従業員による機密情報の持ち出し対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「最小権限、操作ログ、媒体制御、職務分離、退職・異動時の権限見直しを組み合わせる。」と判断した。

B：『ランサム攻撃の典型的な被害として、最も適切なものはどれか。』に対し、「データやシステムを暗号化・停止させ、復旧と引換えに金銭等を要求する。」と判断した。

ア．A（内部不正を判断できる）だけが適切で、B（ランサム攻撃を説明できる）は誤っている。

イ．A（内部不正を判断できる）・B（ランサム攻撃を説明できる）はいずれも適切である。

ウ．B（ランサム攻撃を説明できる）だけが適切で、A（内部不正を判断できる）は誤っている。

エ．A（内部不正を判断できる）・B（ランサム攻撃を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（内部不正を判断できる）・B（ランサム攻撃を説明できる）はいずれも適切である。」。A：内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。B：IPA 10大脅威2026でも組織向け主要脅威の一つである。

イ：適切。Aは正しい（内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。）。Bは正しい（IPA 10大脅威2026でも組織向け主要脅威の一つである。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（内部不正を判断できる）・B（ランサム攻撃を説明できる）はいずれも適切である。」。A：内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。B：IPA 10大脅威2026でも組織向け主要脅威の一つである。

エ：不適切。正しい評価は「A（内部不正を判断できる）・B（ランサム攻撃を説明できる）はいずれも適切である。」。A：内部不正は正規権限を悪用するため複数対策が必要である。B：IPA 10大脅威2026でも組織向け主要脅威の一つである。

総合解説：Aの確認ポイント：内部不正対策は権限・監視・人事プロセスを連携させる。Bの確認ポイント：ランサム対策には脆弱性対策、認証強化、バックアップ、初動隔離等が重要である。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0129 セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『修正プログラムが未提供の重大脆弱性が公表された。最も適切な対応はどれか。』に対し、「影響を評価し、不要機能停止、アクセス制限、監視強化等の緩和策を実施して修正版を待つ。」と判断した。

B：『情報システムにおける脆弱性の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「脆弱性は公開されると必ず自動修正される。」と判断した。

ア．A（ゼロデイ時の対応を判断できる）・B（脆弱性を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（ゼロデイ時の対応を判断できる）だけが適切で、B（脆弱性を説明できる）は誤っている。

ウ．B（脆弱性を説明できる）だけが適切で、A（ゼロデイ時の対応を判断できる）は誤っている。

エ．A（ゼロデイ時の対応を判断できる）・B（脆弱性を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（ゼロデイ時の対応を判断できる）だけが適切で、B（脆弱性を説明できる）は誤っている。」。A：パッチがなくてもリスク低減策を取る。B：管理者側で更新等が必要である。

イ：適切。Aは正しい（パッチがなくてもリスク低減策を取る。）。Bは誤り（管理者側で更新等が必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（ゼロデイ時の対応を判断できる）だけが適切で、B（脆弱性を説明できる）は誤っている。」。A：パッチがなくてもリスク低減策を取る。B：管理者側で更新等が必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（ゼロデイ時の対応を判断できる）だけが適切で、B（脆弱性を説明できる）は誤っている。」。A：パッチがなくてもリスク低減策を取る。B：管理者側で更新等が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：ゼロデイ対応では露出面削減と監視強化が重要である。Bの確認ポイント：脆弱性管理では情報収集、影響評価、修正適用、代替対策を継続する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0130 セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『社内端末でランサムウェア感染が疑われる。最も適切な初動はどれか。』に対し、「利用者判断だけで身代金を支払う。」と判断した。

B：『DDoS攻撃の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「多数の送信元から大量通信を集中させ、サービス提供能力を圧迫する攻撃である。」と判断した。

ア．A（感染端末の初動を判断できる）・B（DDoSを説明できる）はいずれも適切である。

イ．B（DDoSを説明できる）だけが適切で、A（感染端末の初動を判断できる）は誤っている。

ウ．A（感染端末の初動を判断できる）だけが適切で、B（DDoSを説明できる）は誤っている。

エ．A（感染端末の初動を判断できる）・B（DDoSを説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（DDoSを説明できる）だけが適切で、A（感染端末の初動を判断できる）は誤っている。」。A：組織的対応が必要である。B：可用性を狙う代表的な攻撃である。

イ：適切。Aは誤り（組織的対応が必要である。）。Bは正しい（可用性を狙う代表的な攻撃である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（DDoSを説明できる）だけが適切で、A（感染端末の初動を判断できる）は誤っている。」。A：組織的対応が必要である。B：可用性を狙う代表的な攻撃である。

エ：不適切。正しい評価は「B（DDoSを説明できる）だけが適切で、A（感染端末の初動を判断できる）は誤っている。」。A：組織的対応が必要である。B：可用性を狙う代表的な攻撃である。

総合解説：Aの確認ポイント：インシデント初動は隔離、証拠保全、連絡、影響確認を迅速に行う。Bの確認ポイント：DDoS対策にはトラフィック監視、上流対策、容量・遮断設計等がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0131

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『保守用VPN、古い端末、共通パスワードが存在する設備のセキュリティ評価として、最も適切なものはどれか。』に対し、「弱点が複数あっても相互関係は考えない。」と判断した。

B：『利用者を偽サイトへ誘導しID・パスワードを入力させる攻撃として、最も適切なものはどれか。』に対し、「バックアップである。」と判断した。

ア．A（攻撃経路を総合分析できる）・B（フィッシング攻撃を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（攻撃経路を総合分析できる）・B（フィッシング攻撃を判断できる）はいずれも誤っている。

ウ．A（攻撃経路を総合分析できる）だけが適切で、B（フィッシング攻撃を判断できる）は誤っている。

エ．B（フィッシング攻撃を判断できる）だけが適切で、A（攻撃経路を総合分析できる）は誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（攻撃経路を総合分析できる）・B（フィッシング攻撃を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：攻撃経路分析が重要である。 B：復旧手段である。

イ：適切。Aは誤り（攻撃経路分析が重要である。）。Bは誤り（復旧手段である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（攻撃経路を総合分析できる）・B（フィッシング攻撃を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：攻撃経路分析が重要である。 B：復旧手段である。

エ：不適切。正しい評価は「A（攻撃経路を総合分析できる）・B（フィッシング攻撃を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：攻撃経路分析が重要である。 B：復旧手段である。

総合解説：Aの確認ポイント：IPAのリスク分析でも攻撃経路と事業影響を結びつけた評価が重要である。 Bの確認ポイント：フィッシング対策には利用者教育、多要素認証、メール・Web対策等がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0132

セキュリティ管理・技術 > 脅威・攻撃・マルウェア・脆弱性 | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『数千台のネットワーク機器を管理する組織で、効率的な脆弱性管理を行う方法として最も適切なものはどれか。』に対し、「資産台帳、ソフトウェア版数、脆弱性情報、重要度を紐付け、優先順位を付けて修正状況を追跡する。」と判断した。

B：『外部公開サーバに重大な脆弱性が公表された。最も適切な初動はどれか。』に対し、「影響有無と悪用状況を確認し、優先度を上げて修正適用や一時緩和策を実施する。」と判断した。

ア．A（脆弱性管理を総合判断できる）だけが適切で、B（脆弱性対応を判断できる）は誤っている。

イ．A（脆弱性管理を総合判断できる）・B（脆弱性対応を判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（脆弱性対応を判断できる）だけが適切で、A（脆弱性管理を総合判断できる）は誤っている。

エ．A（脆弱性管理を総合判断できる）・B（脆弱性対応を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（脆弱性管理を総合判断できる）・B（脆弱性対応を判断できる）はいずれも適切である。」。A：対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。 B：外部公開かつ重大な脆弱性は迅速対応が必要である。

イ：適切。Aは正しい（対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。）。Bは正しい（外部公開かつ重大な脆弱性は迅速対応が必要である。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（脆弱性管理を総合判断できる）・B（脆弱性対応を判断できる）はいずれも適切である。」。A：対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。 B：外部公開かつ重大な脆弱性は迅速対応が必要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（脆弱性管理を総合判断できる）・B（脆弱性対応を判断できる）はいずれも適切である。」。A：対象資産を把握できなければ脆弱性対応は難しい。 B：外部公開かつ重大な脆弱性は迅速対応が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：脆弱性管理は資産管理と変更・構成管理を連携させる。 Bの確認ポイント：脆弱性管理は資産重要度・公開範囲・悪用可能性で優先順位を決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0133

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：応用

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『情報セキュリティのリスク評価として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「資産・脅威・脆弱性・事業影響などを踏まえて、対策優先度を決める。」と判断した。

B：『不正アクセスの可能性が高いアラートを検知した。最も適切な初動はどれか。』に対し、「アラートを削除して終了する。」と判断した。

ア．A（情報セキュリティリスク評価を説明...）・B（インシデント初動を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（インシデント初動を判断できる）だけが適切で、A（情報セキュリティリスク評価を説明...）は誤っている。

ウ．A（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、B（インシデント初動を判断できる）は誤っている。

エ．A（情報セキュリティリスク評価を説明...）・B（インシデント初動を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、B（インシデント初動を判断できる）は誤っている。」。A：リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。B：調査が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、B（インシデント初動を判断できる）は誤っている。」。A：リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。B：調査が必要である。

ウ：適切。Aは正しい（リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。）。Bは誤り（調査が必要である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、B（インシデント初動を判断できる）は誤っている。」。A：リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。B：調査が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：リスク評価は対策選定と継続的な見直しへつなげる。Bの確認ポイント：インシデント対応は平時に体制・連絡先・手順を準備する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0134

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『最小権限の原則として、最も適切なものはどれか。』に対し、「全利用者へ管理者権限を与える。」と判断した。

B：『ある脅威への追加対策コストが非常に大きく、事業影響が小さい。最も適切なリスク対応はどれか。』に対し、「リスク水準と組織の基準を確認し、承認手続きの上で受容する選択肢もある。」と判断した。

ア．A（最小権限を説明できる）・B（リスク受容を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（最小権限を説明できる）だけが適切で、B（リスク受容を判断できる）は誤っている。

ウ．A（最小権限を説明できる）・B（リスク受容を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（リスク受容を判断できる）だけが適切で、A（最小権限を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（リスク受容を判断できる）だけが適切で、A（最小権限を説明できる）は誤っている。」。A：被害範囲が大きくなる。B：全リスクをゼロにする必要はなく、受容も対応の一つである。

イ：不適切。正しい評価は「B（リスク受容を判断できる）だけが適切で、A（最小権限を説明できる）は誤っている。」。A：被害範囲が大きくなる。B：全リスクをゼロにする必要はなく、受容も対応の一つである。

ウ：不適切。正しい評価は「B（リスク受容を判断できる）だけが適切で、A（最小権限を説明できる）は誤っている。」。A：被害範囲が大きくなる。B：全リスクをゼロにする必要はなく、受容も対応の一つである。

エ：適切。Aは誤り（被害範囲が大きくなる。）。Bは正しい（全リスクをゼロにする必要はなく、受容も対応の一つである。）。

総合解説：Aの確認ポイント：アクセス制御は認証だけでなく、認可と権限見直しまで含む。Bの確認ポイント：リスク対応には低減、回避、移転、受容などがあり、組織基準に従って選ぶ。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0135

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『セキュリティログを取得する主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「ログを取得すれば攻撃が物理的に不可能になる。」と判断した。

B：『管理者権限アカウントの運用として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通常メール閲覧も常に管理者権限で行う。」と判断した。

ア．A（ログの目的を説明できる）・B（特権アカウントを判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（ログの目的を説明できる）・B（特権アカウントを判断できる）はいずれも誤っている。

ウ．A（ログの目的を説明できる）だけが適切で、B（特権アカウントを判断できる）は誤っている。

エ．B（特権アカウントを判断できる）だけが適切で、A（ログの目的を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「A（ログの目的を説明できる）・B（特権アカウントを判断できる）はいずれも誤っている。」。A：検知・証跡の役割である。B：不要な権限使用を避ける。

イ：適切。Aは誤り（検知・証跡の役割である。）。Bは誤り（不要な権限使用を避ける。）。

ウ：不適切。正しい評価は「A（ログの目的を説明できる）・B（特権アカウントを判断できる）はいずれも誤っている。」。A：検知・証跡の役割である。B：不要な権限使用を避ける。

エ：不適切。正しい評価は「A（ログの目的を説明できる）・B（特権アカウントを判断できる）はいずれも誤っている。」。A：検知・証跡の役割である。B：不要な権限使用を避ける。

総合解説：Aの確認ポイント：ログは取得対象・項目・保管期間・監視方法を事前に決める。Bの確認ポイント：特権アカウントは最小化・個人識別・強固な認証・監査を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0136

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『定期的なアカウント棚卸しの目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「退職者・異動者・不要アカウントや過剰権限を発見し、無効化・修正する。」と判断した。

B：『同一利用者IDで短時間に海外IP、管理画面、設定変更のログが連続した。最も適切な対応はどれか。』に対し、「複数ログを相関し、アカウント侵害を疑って一時停止・調査・影響確認を行う。」と判断した。

ア．A（アカウント棚卸しを判断できる）だけが適切で、B（ログ分析を総合判断できる）は誤っている。

イ．B（ログ分析を総合判断できる）だけが適切で、A（アカウント棚卸しを判断できる）は誤っている。

ウ．A（アカウント棚卸しを判断できる）・B（ログ分析を総合判断できる）はいずれも誤っている。

エ．A（アカウント棚卸しを判断できる）・B（ログ分析を総合判断できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（アカウント棚卸しを判断できる）・B（ログ分析を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：長期間放置された権限は不正利用リスクとなる。B：単一イベントではなく一連の挙動として評価する。

イ：不適切。正しい評価は「A（アカウント棚卸しを判断できる）・B（ログ分析を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：長期間放置された権限は不正利用リスクとなる。B：単一イベントではなく一連の挙動として評価する。

ウ：不適切。正しい評価は「A（アカウント棚卸しを判断できる）・B（ログ分析を総合判断できる）はいずれも適切である。」。A：長期間放置された権限は不正利用リスクとなる。B：単一イベントではなく一連の挙動として評価する。

エ：適切。Aは正しい（長期間放置された権限は不正利用リスクとなる。）。Bは正しい（単一イベントではなく一連の挙動として評価する。）。

総合解説：Aの確認ポイント：アクセス権は人事異動・職務変更と連動して定期見直しする。Bの確認ポイント：セキュリティ監視では認証・操作・通信ログを組み合わせで異常を検知する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0137

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『複数機器のログをインシデント調査で相関分析する際、特に重要な管理はどれか。』に対し、「各機器の時刻を同期し、イベント発生順序を正確に比較できるようにする。」と判断した。

B：『新しい遠隔保守システムを導入する際、最も適切なセキュリティ管理はどれか。』に対し、「保守委託先の権限は無制限にする。」と判断した。

ア．A（ログ時刻同期を判断できる）・B（ISMS的管理を総合判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（ISMS的管理を総合判断できる）だけが適切で、A（ログ時刻同期を判断できる）は誤っている。

ウ．A（ログ時刻同期を判断できる）・B（ISMS的管理を総合判断できる）はいずれも誤っている。

エ．A（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、B（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、B（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。」。A：時刻ずれは調査を困難にする。B：最小権限が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、B（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。」。A：時刻ずれは調査を困難にする。B：最小権限が必要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、B（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。」。A：時刻ずれは調査を困難にする。B：最小権限が必要である。

エ：適切。Aは正しい（時刻ずれは調査を困難にする。）。Bは誤り（最小権限が必要である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：ログ管理では時刻同期、改ざん防止、保管期間を含める。Bの確認ポイント：セキュリティマネジメントはリスク評価、対策、運用、レビューの継続サイクルで行う。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0138

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『不正アクセスの可能性が高いアラートを検知した。最も適切な初動はどれか。』に対し、「証拠を消してから端末を再起動する。」と判断した。

B：『情報セキュリティのリスク評価として、最も適切な考え方はどれか。』に対し、「資産・脅威・脆弱性・事業影響などを踏まえて、対策優先度を決める。」と判断した。

ア．A（インシデント初動を判断できる）・B（情報セキュリティリスク評価を説明...）はいずれも適切である。

イ．B（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、A（インシデント初動を判断できる）は誤っている。

ウ．A（インシデント初動を判断できる）だけが適切で、B（情報セキュリティリスク評価を説明...）は誤っている。

エ．A（インシデント初動を判断できる）・B（情報セキュリティリスク評価を説明...）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。正しい評価は「B（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、A（インシデント初動を判断できる）は誤っている。」。A：調査情報を失う。B：リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。

イ：適切。Aは誤り（調査情報を失う。）。Bは正しい（リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。）。

ウ：不適切。正しい評価は「B（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、A（インシデント初動を判断できる）は誤っている。」。A：調査情報を失う。B：リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。

エ：不適切。正しい評価は「B（情報セキュリティリスク評価を説明...）だけが適切で、A（インシデント初動を判断できる）は誤っている。」。A：調査情報を失う。B：リスク分析は重要な被害へ対策を集中させるために行う。

総合解説：Aの確認ポイント：インシデント対応は平時に体制・連絡先・手順を準備する。Bの確認ポイント：リスク評価は対策選定と継続的な見直しへつなげる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0139

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：基礎

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『ある脅威への追加対策コストが非常に大きく、事業影響が小さい。最も適切なリスク対応はどれか。』に対し、「一度受容したリスクは永久に見直さない。」と判断した。

B：『最小権限の原則として、最も適切なものはどれか。』に対し、「全利用者へ管理者権限を与える。」と判断した。

ア．A（リスク受容を判断できる）・B（最小権限を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（リスク受容を判断できる）だけが適切で、B（最小権限を説明できる）は誤っている。

ウ．A（リスク受容を判断できる）・B（最小権限を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．B（最小権限を説明できる）だけが適切で、A（リスク受容を判断できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（リスク受容を判断できる）・B（最小権限を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：環境変化で再評価する。B：被害範囲が大きくなる。

イ：不適切。正しい評価は「A（リスク受容を判断できる）・B（最小権限を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：環境変化で再評価する。B：被害範囲が大きくなる。

ウ：適切。Aは誤り（環境変化で再評価する。）。Bは誤り（被害範囲が大きくなる。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（リスク受容を判断できる）・B（最小権限を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：環境変化で再評価する。B：被害範囲が大きくなる。

総合解説：Aの確認ポイント：リスク対応には低減、回避、移転、受容などがあり、組織基準に従って選ぶ。Bの確認ポイント：アクセス制御は認証だけでなく、認可と権限見直しまで含む。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0140

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：基礎

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『管理者権限アカウントの運用として、最も適切なものはどれか。』に対し、「通常業務用と分離し、利用者を限定して利用記録・多要素認証等を適用する。」と判断した。

B：『セキュリティログを取得する主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「不正アクセスの検知、事後調査、被害範囲確認などに利用する。」と判断した。

ア．A（特権アカウントを判断できる）だけが適切で、B（ログの目的を説明できる）は誤っている。

イ．B（ログの目的を説明できる）だけが適切で、A（特権アカウントを判断できる）は誤っている。

ウ．A（特権アカウントを判断できる）・B（ログの目的を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（特権アカウントを判断できる）・B（ログの目的を説明できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（特権アカウントを判断できる）・B（ログの目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：特権アカウントは高リスクのため厳格管理する。B：IPAもログを不正アクセス検知・被害把握の重要記録としている。

イ：不適切。正しい評価は「A（特権アカウントを判断できる）・B（ログの目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：特権アカウントは高リスクのため厳格管理する。B：IPAもログを不正アクセス検知・被害把握の重要記録としている。

ウ：不適切。正しい評価は「A（特権アカウントを判断できる）・B（ログの目的を説明できる）はいずれも適切である。」。A：特権アカウントは高リスクのため厳格管理する。B：IPAもログを不正アクセス検知・被害把握の重要記録としている。

エ：適切。Aは正しい（特権アカウントは高リスクのため厳格管理する。）。Bは正しい（IPAもログを不正アクセス検知・被害把握の重要記録としている。）。

総合解説：Aの確認ポイント：特権アカウントは最小化・個人識別・強固な認証・監査を組み合わせる。Bの確認ポイント：ログは取得対象・項目・保管期間・監視方法を事前に決める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0141

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『同一利用者IDで短時間に海外IP、管理画面、設定変更のログが連続した。最も適切な対応はどれか。』に対し、「複数ログを相関し、アカウント侵害を疑って一時停止・調査・影響確認を行う。」と判断した。

B：『定期的なアカウント棚卸しの目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「退職者アカウントを予備として残す。」と判断した。

ア．A（ログ分析を総合判断できる）だけが適切で、B（アカウント棚卸しを判断できる）は誤っている。

イ．A（ログ分析を総合判断できる）・B（アカウント棚卸しを判断できる）はいずれも適切である。

ウ．B（アカウント棚卸しを判断できる）だけが適切で、A（ログ分析を総合判断できる）は誤っている。

エ．A（ログ分析を総合判断できる）・B（アカウント棚卸しを判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（単一イベントではなく一連の挙動として評価する。）。Bは誤り（不正アクセス経路となる。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（ログ分析を総合判断できる）だけが適切で、B（アカウント棚卸しを判断できる）は誤っている。」。A：単一イベントではなく一連の挙動として評価する。B：不正アクセス経路となる。

ウ：不適切。正しい評価は「A（ログ分析を総合判断できる）だけが適切で、B（アカウント棚卸しを判断できる）は誤っている。」。A：単一イベントではなく一連の挙動として評価する。B：不正アクセス経路となる。

エ：不適切。正しい評価は「A（ログ分析を総合判断できる）だけが適切で、B（アカウント棚卸しを判断できる）は誤っている。」。A：単一イベントではなく一連の挙動として評価する。B：不正アクセス経路となる。

総合解説：Aの確認ポイント：セキュリティ監視では認証・操作・通信ログを組み合わせで異常を検知する。 Bの確認ポイント：アクセス権は人事異動・職務変更と連動して定期見直しする。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0142

セキュリティ管理・技術 > ISMS・リスク評価・アクセス・ログ・インシデント | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『新しい遠隔保守システムを導入する際、最も適切なセキュリティ管理はどれか。』に対し、「ログを取得しない。」と判断した。

B：『複数機器のログをインシデント調査で相関分析する際、特に重要な管理はどれか。』に対し、「各機器の時刻を同期し、イベント発生順序を正確に比較できるようにする。」と判断した。

ア．A（ISMS的管理を総合判断できる）・B（ログ時刻同期を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（ISMS的管理を総合判断できる）だけが適切で、B（ログ時刻同期を判断できる）は誤っている。

ウ．B（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、A（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。

エ．A（ISMS的管理を総合判断できる）・B（ログ時刻同期を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「B（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、A（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。」。A：監視・調査に必要である。 B：時刻ずれは調査を困難にする。

イ：不適切。正しい評価は「B（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、A（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。」。A：監視・調査に必要である。 B：時刻ずれは調査を困難にする。

ウ：適切。Aは誤り（監視・調査に必要である。）。Bは正しい（時刻ずれは調査を困難にする。）。

エ：不適切。正しい評価は「B（ログ時刻同期を判断できる）だけが適切で、A（ISMS的管理を総合判断できる）は誤っている。」。A：監視・調査に必要である。 B：時刻ずれは調査を困難にする。

総合解説：Aの確認ポイント：セキュリティマネジメントはリスク評価、対策、運用、レビューの継続サイクルで行う。 Bの確認ポイント：ログ管理では時刻同期、改ざん防止、保管期間を含める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0143

セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：応用

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『データ暗号化の主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「暗号鍵を不要にする。」と判断した。

B：『機密情報を保存するUSBメモリの管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「誰でも自由に持ち出せるようにする。」と判断した。

ア．A（暗号化の目的を説明できる）・B（情報持出し対策を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（暗号化の目的を説明できる）だけが適切で、B（情報持出し対策を判断できる）は誤っている。

ウ．A（暗号化の目的を説明できる）・B（情報持出し対策を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（情報持出し対策を判断できる）だけが適切で、A（暗号化の目的を説明できる）は誤っている。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（暗号化の目的を説明できる）・B（情報持出し対策を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：鍵管理が重要である。B：管理が必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（暗号化の目的を説明できる）・B（情報持出し対策を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：鍵管理が重要である。B：管理が必要である。

ウ：適切。Aは誤り（鍵管理が重要である。）。Bは誤り（管理が必要である。）。

エ：不適切。正しい評価は「A（暗号化の目的を説明できる）・B（情報持出し対策を判断できる）はいずれも誤っている。」。A：鍵管理が重要である。B：管理が必要である。

総合解説：Aの確認ポイント：暗号化の安全性は方式だけでなく鍵管理に大きく依存する。Bの確認ポイント：情報漏えい対策では媒体利用制御と紛失時対応を事前に定める。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0144

セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：標準

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『多要素認証の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「知識・所持・生体など異なる種類の認証要素を二つ以上組み合わせる。」と判断した。

B：『ランサム攻撃に備えたバックアップとして、最も適切なものはどれか。』に対し、「本番環境と分離し、復元試験を行い、必要に応じ暗号化・アクセス制御を適用する。」と判断した。

ア．A（多要素認証を説明できる）・B（バックアップ保護を判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（多要素認証を説明できる）だけが適切で、B（バックアップ保護を判断できる）は誤っている。

ウ．B（バックアップ保護を判断できる）だけが適切で、A（多要素認証を説明できる）は誤っている。

エ．A（多要素認証を説明できる）・B（バックアップ保護を判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。Aは正しい（IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。）。Bは正しい（本番と同時に暗号化されない分離が重要である。）。

イ：不適切。正しい評価は「A（多要素認証を説明できる）・B（バックアップ保護を判断できる）はいずれも適切である。」。A：IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。B：本番と同時に暗号化されない分離が重要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（多要素認証を説明できる）・B（バックアップ保護を判断できる）はいずれも適切である。」。A：IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。B：本番と同時に暗号化されない分離が重要である。

エ：不適切。正しい評価は「A（多要素認証を説明できる）・B（バックアップ保護を判断できる）はいずれも適切である。」。A：IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。B：本番と同時に暗号化されない分離が重要である。

総合解説：Aの確認ポイント：多要素認証はパスワード漏えい時の不正ログインリスクを低減する。Bの確認ポイント：バックアップは可用性対策であると同時に機密性・完全性も保護する必要がある。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0145 セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：標準

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。
A：『暗号鍵の管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「生成、保管、配布、利用、更新、失効・廃棄までのライフサイクルを管理する。」と判断した。
B：『遠隔から重要設備の管理者画面へ接続する認証方式として、最も適切なものはどれか。』に対し、「認証後の操作ログを残さない。」と判断した。
ア．A（暗号鍵管理を判断できる）・B（認証方式を総合判断できる）はいずれも適切である。
イ．B（認証方式を総合判断できる）だけが適切で、A（暗号鍵管理を判断できる）は誤っている。
ウ．A（暗号鍵管理を判断できる）だけが適切で、B（認証方式を総合判断できる）は誤っている。
エ．A（暗号鍵管理を判断できる）・B（認証方式を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ウ

ア：不適切。正しい評価は「A（暗号鍵管理を判断できる）だけが適切で、B（認証方式を総合判断できる）は誤っている。」。A：鍵漏えいは暗号方式そのものを無力化する。B：監査・インシデント調査に必要である。
イ：不適切。正しい評価は「A（暗号鍵管理を判断できる）だけが適切で、B（認証方式を総合判断できる）は誤っている。」。A：鍵漏えいは暗号方式そのものを無力化する。B：監査・インシデント調査に必要である。
ウ：適切。Aは正しい（鍵漏えいは暗号方式そのものを無力化する。）。Bは誤り（監査・インシデント調査に必要である。）。
エ：不適切。正しい評価は「A（暗号鍵管理を判断できる）だけが適切で、B（認証方式を総合判断できる）は誤っている。」。A：鍵漏えいは暗号方式そのものを無力化する。B：監査・インシデント調査に必要である。
総合解説：Aの確認ポイント：IPAの暗号鍵管理ガイドラインでも鍵管理の設計・運用が重視される。Bの確認ポイント：高権限遠隔アクセスは認証・認可・ネットワーク制限・監査を重層化する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0146 セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：標準

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。
A：『重要通信設備室の物理セキュリティとして、最も適切なものはどれか。』に対し、「退職者の入室権限を残す。」と判断した。
B：『重要な設備設計図と保守情報の漏えいを防ぐ対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「アクセス権、暗号化、ログ、持出し制御、物理保管、退職・委託終了時の権限削除を組み合わせる。」と判断した。
ア．B（情報漏えい対策を総合判断できる）だけが適切で、A（物理アクセスを判断できる）は誤っている。
イ．A（物理アクセスを判断できる）・B（情報漏えい対策を総合判断できる）はいずれも適切である。
ウ．A（物理アクセスを判断できる）だけが適切で、B（情報漏えい対策を総合判断できる）は誤っている。
エ．A（物理アクセスを判断できる）・B（情報漏えい対策を総合判断できる）はいずれも誤っている。

答え・解説 正答：ア

ア：適切。Aは誤り（不要権限を削除する。）。Bは正しい（情報の保存・利用・持出し・人事変化まで多層的に管理する。）。
イ：不適切。正しい評価は「B（情報漏えい対策を総合判断できる）だけが適切で、A（物理アクセスを判断できる）は誤っている。」。A：不要権限を削除する。B：情報の保存・利用・持出し・人事変化まで多層的に管理する。
ウ：不適切。正しい評価は「B（情報漏えい対策を総合判断できる）だけが適切で、A（物理アクセスを判断できる）は誤っている。」。A：不要権限を削除する。B：情報の保存・利用・持出し・人事変化まで多層的に管理する。
エ：不適切。正しい評価は「B（情報漏えい対策を総合判断できる）だけが適切で、A（物理アクセスを判断できる）は誤っている。」。A：不要権限を削除する。B：情報の保存・利用・持出し・人事変化まで多層的に管理する。
総合解説：Aの確認ポイント：物理対策は人・鍵・カード・監視設備・権限管理を一体で運用する。Bの確認ポイント：情報漏えい対策は技術・物理・人的・運用管理を組み合わせる。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0147

セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：標準

同じ細分類に属する次の二つの判断A・Bを確認する。適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『機密情報を保存するUSBメモリの管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「誰でも自由に持ち出せるようにする。」と判断した。

B：『データ暗号化の主な目的として、最も適切なものはどれか。』に対し、「全ての攻撃を自動的に防止する。」と判断した。

ア．A（情報持出し対策を判断できる）・B（暗号化の目的を説明できる）はいずれも適切である。

イ．A（情報持出し対策を判断できる）だけが適切で、B（暗号化の目的を説明できる）は誤っている。

ウ．B（暗号化の目的を説明できる）だけが適切で、A（情報持出し対策を判断できる）は誤っている。

エ．A（情報持出し対策を判断できる）・B（暗号化の目的を説明できる）はいずれも誤っている。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（情報持出し対策を判断できる）・B（暗号化の目的を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：管理が必要である。B：認証・アクセス制御等も必要である。

イ：不適切。正しい評価は「A（情報持出し対策を判断できる）・B（暗号化の目的を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：管理が必要である。B：認証・アクセス制御等も必要である。

ウ：不適切。正しい評価は「A（情報持出し対策を判断できる）・B（暗号化の目的を説明できる）はいずれも誤っている。」。A：管理が必要である。B：認証・アクセス制御等も必要である。

エ：適切。Aは誤り（管理が必要である。）。Bは誤り（認証・アクセス制御等も必要である。）。

総合解説：Aの確認ポイント：情報漏えい対策では媒体利用制御と紛失時対応を事前に定める。Bの確認ポイント：暗号化の安全性は方式だけでなく鍵管理に大きく依存する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0148

セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：応用

次のA・Bはそれぞれ別の確認事項への回答である。両者の適否を正しく示すものはどれか。

A：『ランサム攻撃に備えたバックアップとして、最も適切なものはどれか。』に対し、「本番環境と分離し、復元試験を行い、必要に応じ暗号化・アクセス制御を適用する。」と判断した。

B：『多要素認証の説明として、最も適切なものはどれか。』に対し、「知識・所持・生体など異なる種類の認証要素を二つ以上組み合わせる。」と判断した。

ア．A（バックアップ保護を判断できる）だけが適切で、B（多要素認証を説明できる）は誤っている。

イ．B（多要素認証を説明できる）だけが適切で、A（バックアップ保護を判断できる）は誤っている。

ウ．A（バックアップ保護を判断できる）・B（多要素認証を説明できる）はいずれも誤っている。

エ．A（バックアップ保護を判断できる）・B（多要素認証を説明できる）はいずれも適切である。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（バックアップ保護を判断できる）・B（多要素認証を説明できる）はいずれも適切である。」。A：本番と同時に暗号化されない分離が重要である。B：IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。

イ：不適切。正しい評価は「A（バックアップ保護を判断できる）・B（多要素認証を説明できる）はいずれも適切である。」。A：本番と同時に暗号化されない分離が重要である。B：IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。

ウ：不適切。正しい評価は「A（バックアップ保護を判断できる）・B（多要素認証を説明できる）はいずれも適切である。」。A：本番と同時に暗号化されない分離が重要である。B：IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。

エ：適切。Aは正しい（本番と同時に暗号化されない分離が重要である。）。Bは正しい（IPAも不正ログイン対策として多要素認証を案内している。）。

総合解説：Aの確認ポイント：バックアップは可用性対策であると同時に機密性・完全性も保護する必要がある。Bの確認ポイント：多要素認証はパスワード漏えい時の不正ログインリスクを低減する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0149 セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：基礎

次の判断A・Bについて、適否の組合せとして最も適切なものはどれか。

A：『遠隔から重要設備の管理者画面へ接続する認証方式として、最も適切なものはどれか。』に対し、「個人識別可能なアカウント、多要素認証、接続元制限、操作ログを組み合わせる。」と判断した。

B：『暗号鍵の管理として、最も適切なものはどれか。』に対し、「鍵を全社員共通の平文ファイルに保存する。」と判断した。

ア．A（認証方式を総合判断できる）・B（暗号鍵管理を判断できる）はいずれも適切である。

イ．B（暗号鍵管理を判断できる）だけが適切で、A（認証方式を総合判断できる）は誤っている。

ウ．A（認証方式を総合判断できる）・B（暗号鍵管理を判断できる）はいずれも誤っている。

エ．A（認証方式を総合判断できる）だけが適切で、B（暗号鍵管理を判断できる）は誤っている。

答え・解説 正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「A（認証方式を総合判断できる）だけが適切で、B（暗号鍵管理を判断できる）は誤っている。」。A：高権限・遠隔アクセスでは複数防御が必要である。B：漏えいリスクが高い。

イ：不適切。正しい評価は「A（認証方式を総合判断できる）だけが適切で、B（暗号鍵管理を判断できる）は誤っている。」。A：高権限・遠隔アクセスでは複数防御が必要である。B：漏えいリスクが高い。

ウ：不適切。正しい評価は「A（認証方式を総合判断できる）だけが適切で、B（暗号鍵管理を判断できる）は誤っている。」。A：高権限・遠隔アクセスでは複数防御が必要である。B：漏えいリスクが高い。

エ：適切。Aは正しい（高権限・遠隔アクセスでは複数防御が必要である。）。Bは誤り（漏えいリスクが高い。）。

総合解説：Aの確認ポイント：高権限遠隔アクセスは認証・認可・ネットワーク制限・監査を重層化する。Bの確認ポイント：IPAの暗号鍵管理ガイドラインでも鍵管理の設計・運用が重視される。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09

0150 セキュリティ管理・技術 > 暗号・認証・物理対策・情報漏えい対策 | 難易度：基礎

設備担当者が行った次のA・Bの判断を評価した。正しい評価の組合せはどれか。

A：『重要な設備設計図と保守情報の漏えいを防ぐ対策として、最も適切なものはどれか。』に対し、「ファイル名を変更するだけで保護する。」と判断した。

B：『重要通信設備室の物理セキュリティとして、最も適切なものはどれか。』に対し、「入室権限を限定し、入退室記録、施錠、監視、来訪者管理を組み合わせる。」と判断した。

ア．A（情報漏えい対策を総合判断できる）・B（物理アクセスを判断できる）はいずれも適切である。

イ．A（情報漏えい対策を総合判断できる）だけが適切で、B（物理アクセスを判断できる）は誤っている。

ウ．A（情報漏えい対策を総合判断できる）・B（物理アクセスを判断できる）はいずれも誤っている。

エ．B（物理アクセスを判断できる）だけが適切で、A（情報漏えい対策を総合判断できる）は誤っている。

答え・解説 正答：エ

ア：不適切。正しい評価は「B（物理アクセスを判断できる）だけが適切で、A（情報漏えい対策を総合判断できる）は誤っている。」。A：機密性を確保できない。B：サイバー対策だけでなく物理侵入も防ぐ必要がある。

イ：不適切。正しい評価は「B（物理アクセスを判断できる）だけが適切で、A（情報漏えい対策を総合判断できる）は誤っている。」。A：機密性を確保できない。B：サイバー対策だけでなく物理侵入も防ぐ必要がある。

ウ：不適切。正しい評価は「B（物理アクセスを判断できる）だけが適切で、A（情報漏えい対策を総合判断できる）は誤っている。」。A：機密性を確保できない。B：サイバー対策だけでなく物理侵入も防ぐ必要がある。

エ：適切。Aは誤り（機密性を確保できない。）。Bは正しい（サイバー対策だけでなく物理侵入も防ぐ必要がある。）。

総合解説：Aの確認ポイント：情報漏えい対策は技術・物理・人的・運用管理を組み合わせる。Bの確認ポイント：物理対策は人・鍵・カード・監視設備・権限管理を一体で運用する。

対象：2026年度 / 基準日 2026-09-09